

025552-000-9

特59-10

帝国京都名所図会（改正新刻）

片岡 賢三／編

M24

ADC-3042



特59

10

改正  
新刻  
帝國京都名所圖繪  
全



特 59 10

帝京名國  
部續

明徑井如集  
李石

李石  
關

口

片岡賢三編輯

刻新正改

帝京名國  
部續

風月堂敬白



特 59 10

部 漢 部 漢

明 治 十 年 庚 子 秋 月 日 刻

十 九 日



國 名 京 師 館 部 國

刻 新 正 政

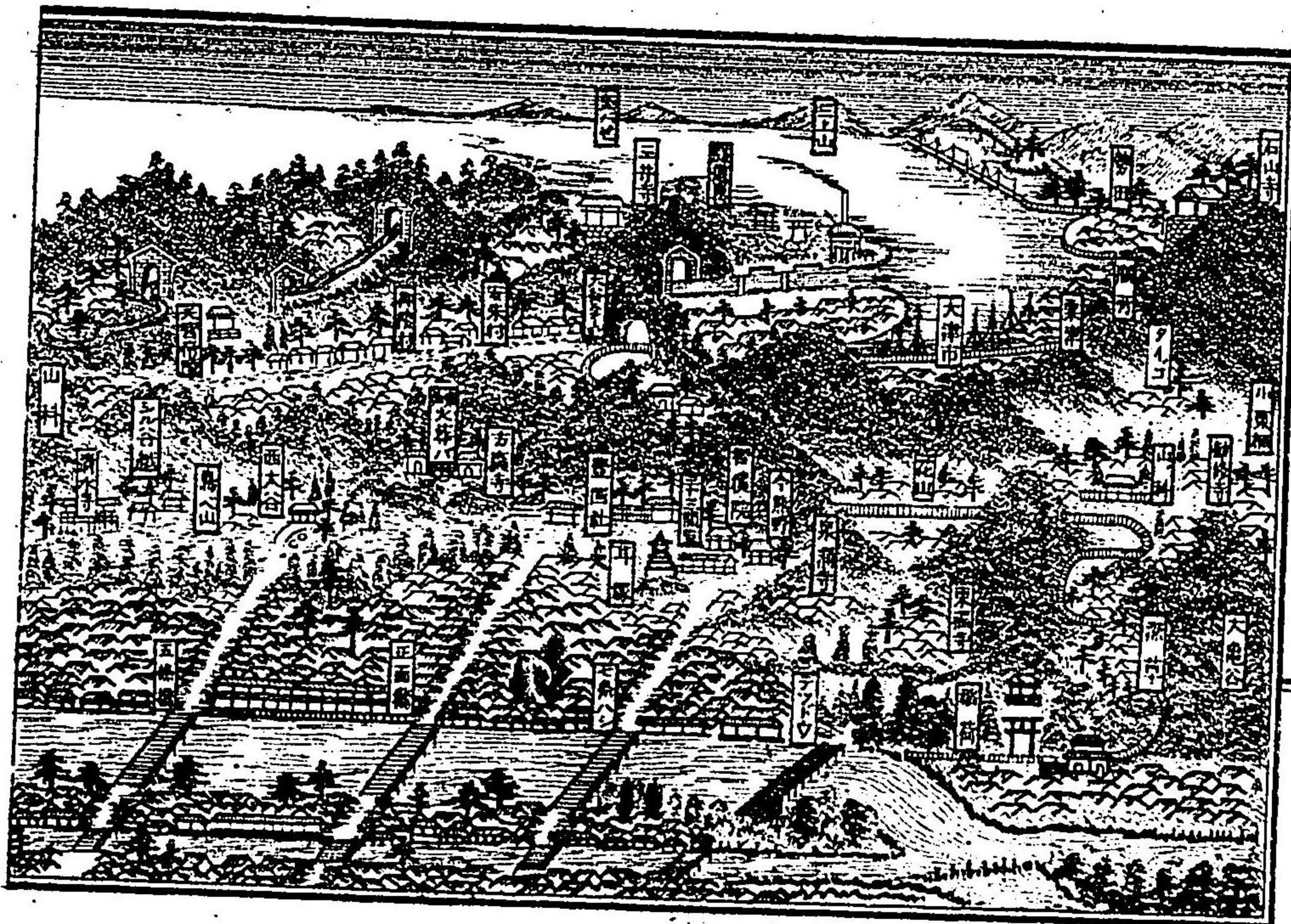
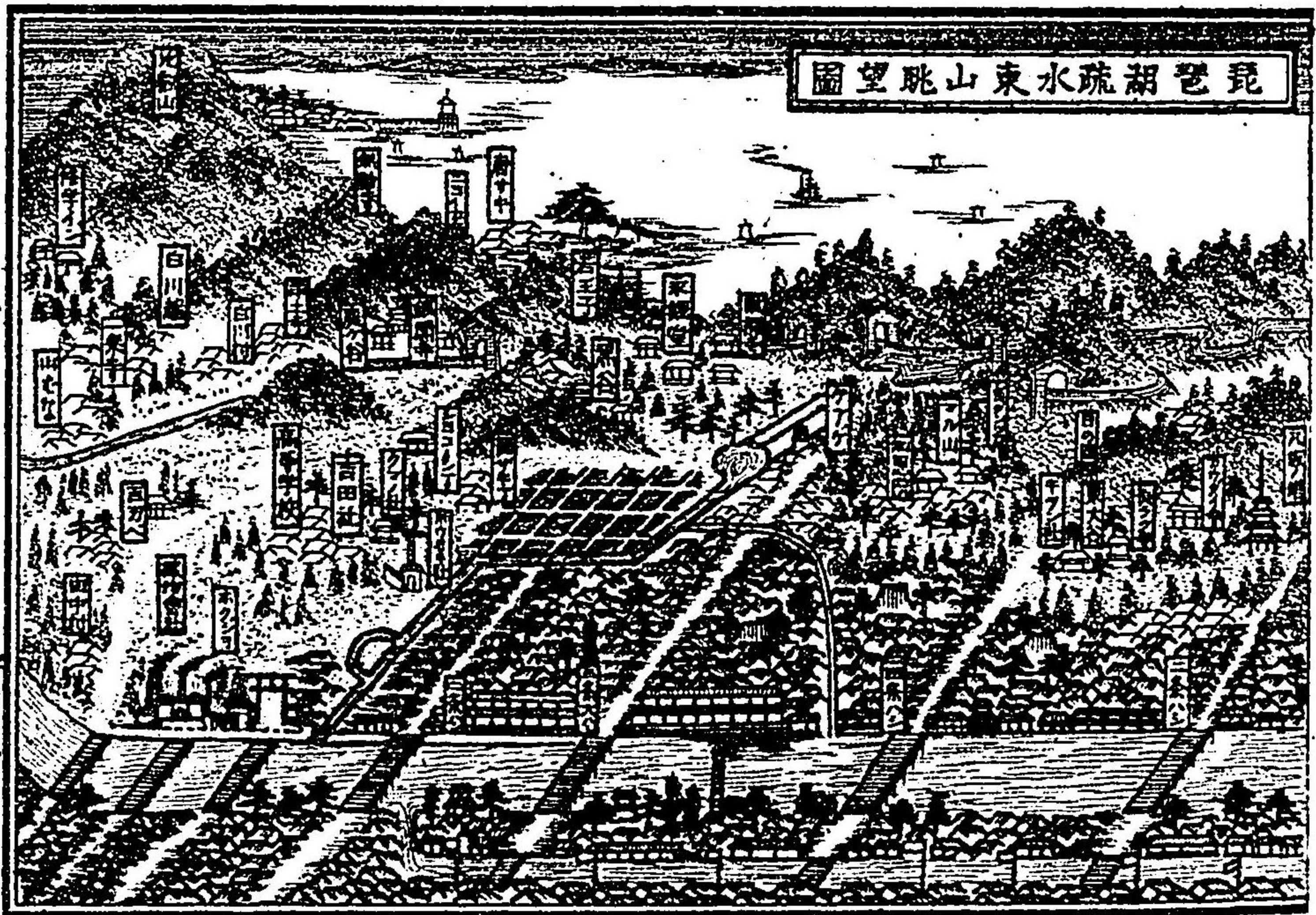
十 九 日







圖望眺山東水疏湖邑昆









東新	熊野	聖護	真如	黑王	若觀	永地	金禪	南髮	植恩	智の	八坂	六角	圓樂	長大	東林	双基	高塔	八松	小坂	西願	清水	西大	耳方	大廣	豐國	三神	新野	泉觀	東福		
京極	社	院	堂	谷	社	堂	院	寺	堂	院	社	堂	山	寺	谷	寺	寺	塔	谷	場	寺	谷	塚	寺	社	堂	音	寺	寺		
二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	
廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	
京都	八坂	大雲	神宮	御影	五光	仙光	因幡	六波	摩利	建仁	祇園	四條	電信	郵便	島原	東本	停車場	天教	西本	二條	華御	下御	中木	梨木	護王	療病	百萬	銀閣	吉田		
京都	八坂	大雲	神宮	御影	五光	仙光	因幡	六波	摩利	建仁	祇園	四條	電信	郵便	島原	東本	停車場	天教	西本	二條	華御	下御	中木	梨木	護王	療病	百萬	銀閣	吉田		
二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月
廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁

三條大橋

京都市鴨川筋三條通



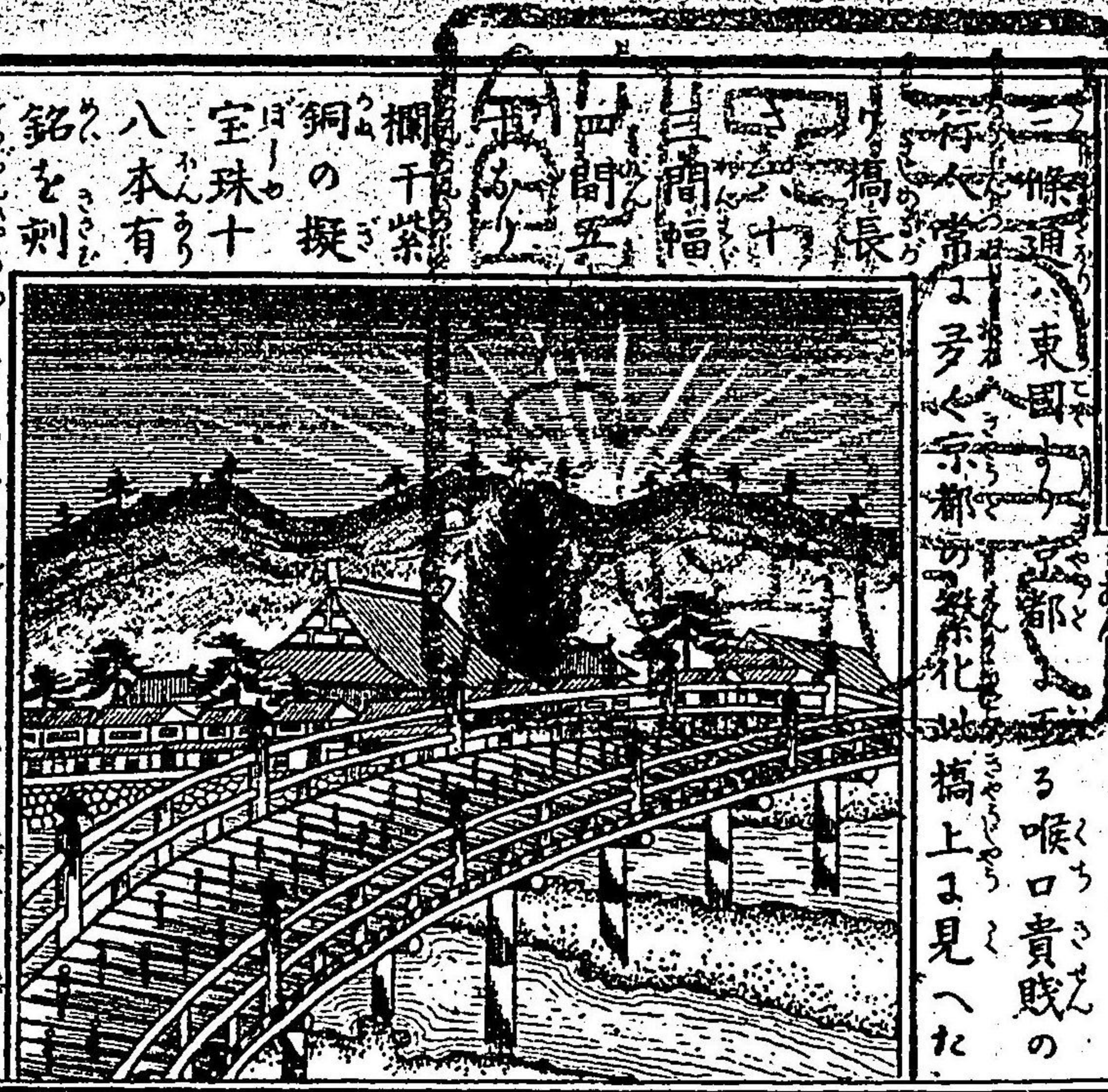
其文表在日浴陽三條の橋至後代化慶往  
未人土石之礎入地五尋切石柱六十三本益  
於日域石柱橋濫觴乎天正十八年庚寅正月



東新	熊野	聖護	真如	黒王	若王	永觀	金地	南禪	植髮	智恩	八坂	六角	圓樂	長樂	東大	双林	高臺	八坂	小松	西願	清水	西大	耳方	大廣	豐國	三神	新野	泉觀	東福
京極	社	院	堂	谷	社	堂	院	寺	堂	院	社	堂	山	寺	谷	寺	寺	塔	谷	場	寺	谷	塚	寺	社	堂	音	寺	寺
一	二	同	同	廿	廿	十	十	同	同	同	八	七	十	同	同	十	十	同	同	同	廿	同	同	同	廿	同	廿	同	廿
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁
京	八	大	神	御	五	仙	因	六	摩	建	祇	四	電	郵	島	東	停	大	西	二	華	下	中	梨	護	療	百	銀	吉
都	坂	神	宮	影	茶	光	幡	波	羅	利	仁	園	茶	信	便	原	本	教	本	二	華	下	中	梨	護	療	百	銀	吉
織	神	雲	雲	教	會	堂	橋	師	天	寺	地	橋	局	局	里	寺	場	堂	寺	宮	堂	社	校	社	社	院	遍	寺	社
二	六	同	七	同	八	十	十	九	同	六	五	四	同	八	一	廿	廿	同	二	十	八	九	同	十	十	十	十	三	廿
十	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁

三條通

京都市鴨川筋三條通



三條通の橋長  
 欄干紫  
 銅の擬  
 室珠十  
 八本有  
 銘を刺  
 其文表在る日洛陽三條の橋至後代化度往  
 未人土石之礎入地五尋切石柱六十三本益  
 於日域石柱橋濫觴乎天正十八年庚寅正月

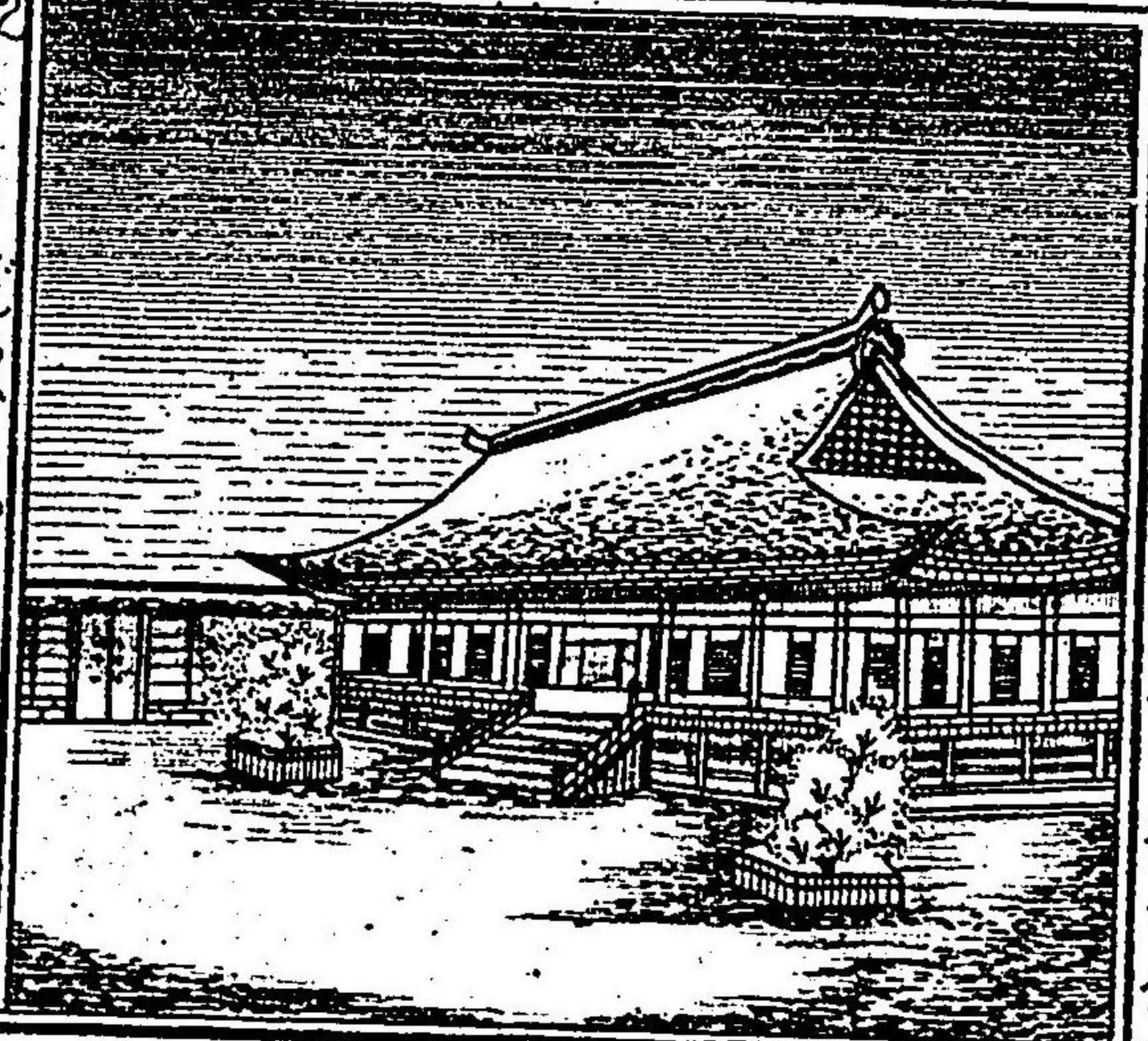


豊臣初之御代表奉増田右衛門尉長盛造と  
 あり此大橋の東西より壯麗なるもとらや  
 沢山ありて諸国旅人も必らき宿泊すあり

旧京都御所紫宸殿

應仁年中の乱後織田信長公及豊臣秀吉公

御造管后  
 水尾天皇  
 御宇に至り  
 内裏全  
 備る其後  
 安政元年  
 四月御炎  
 上りしと  
 虽古も復



今も連綿として万歳を祝するも堪たり  
 明治元年王政復古の際陛下江戸を都と

て東京と称し其后ハ東京宮内省より出張  
 有て右よりめらむ夫々修護せらせり又  
 明治十一年夏より御苑地と称し旧公郷の  
 屋敷跡を閑御苑地となり四季花樹植付春  
 ハ梅櫻桃の花ちと満咲実ハ美麗の絶景な  
 りに猶又明治廿三年近江国琵琶湖疏水  
 を御苑内八重垣の外溝に引水し所々は数  
 箇の水溜在りれ用心水と称しなるも大  
 廊外の溝にも水を通り水流ハ京都府の堀  
 ハ流れ夫より堀川の流きに泡入る也

仙洞舊御所

御所日之御門南より

仙洞旧殿と称す  
 天皇の御位  
 を後代天皇へ御  
 譲り玉ふと自ら  
 仙洞御所へ遷玉

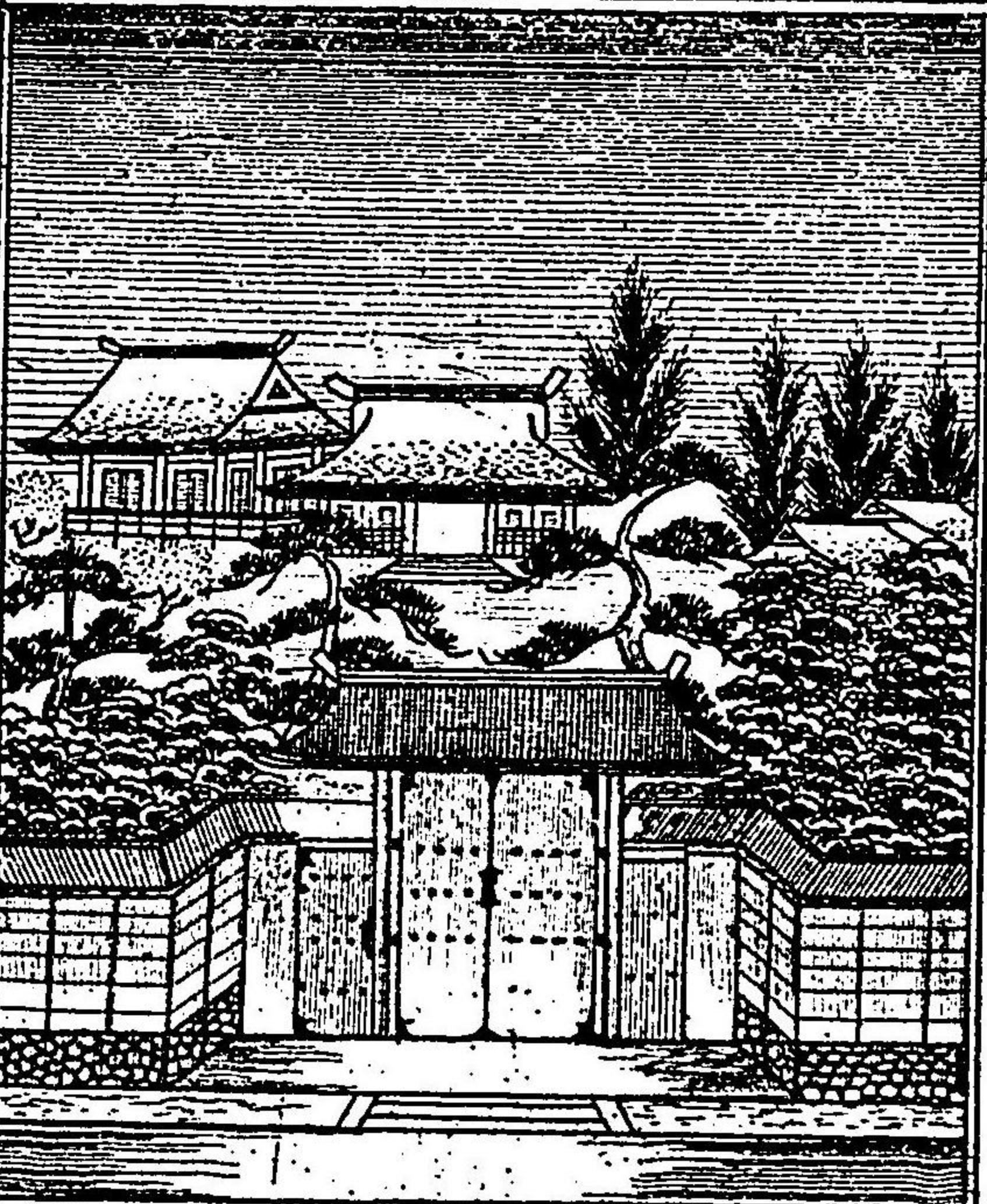




ふ御庭中の風景ハ春櫻夏ハ涼しく秋ハ樹木の葉は色曾冬ハ雪のおがめ実なならびふ紀御庭中と云

大宮旧御所

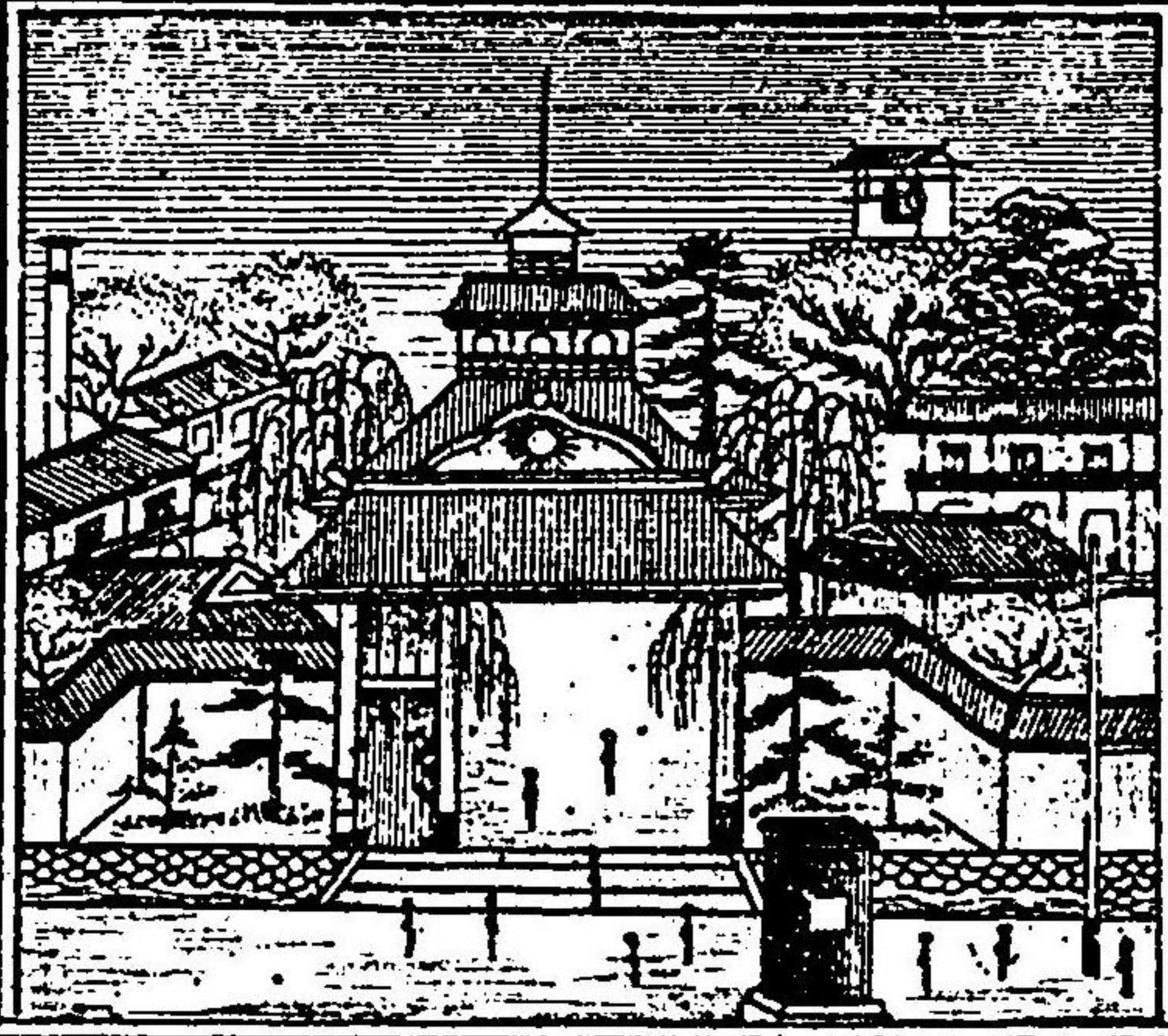
仙洞御所とあり 前年博覧會を開きて諸人拜見許



京都府

京都市下立賣金座行營 旧幕の時ハ町家あり 処はあり 王政之維新

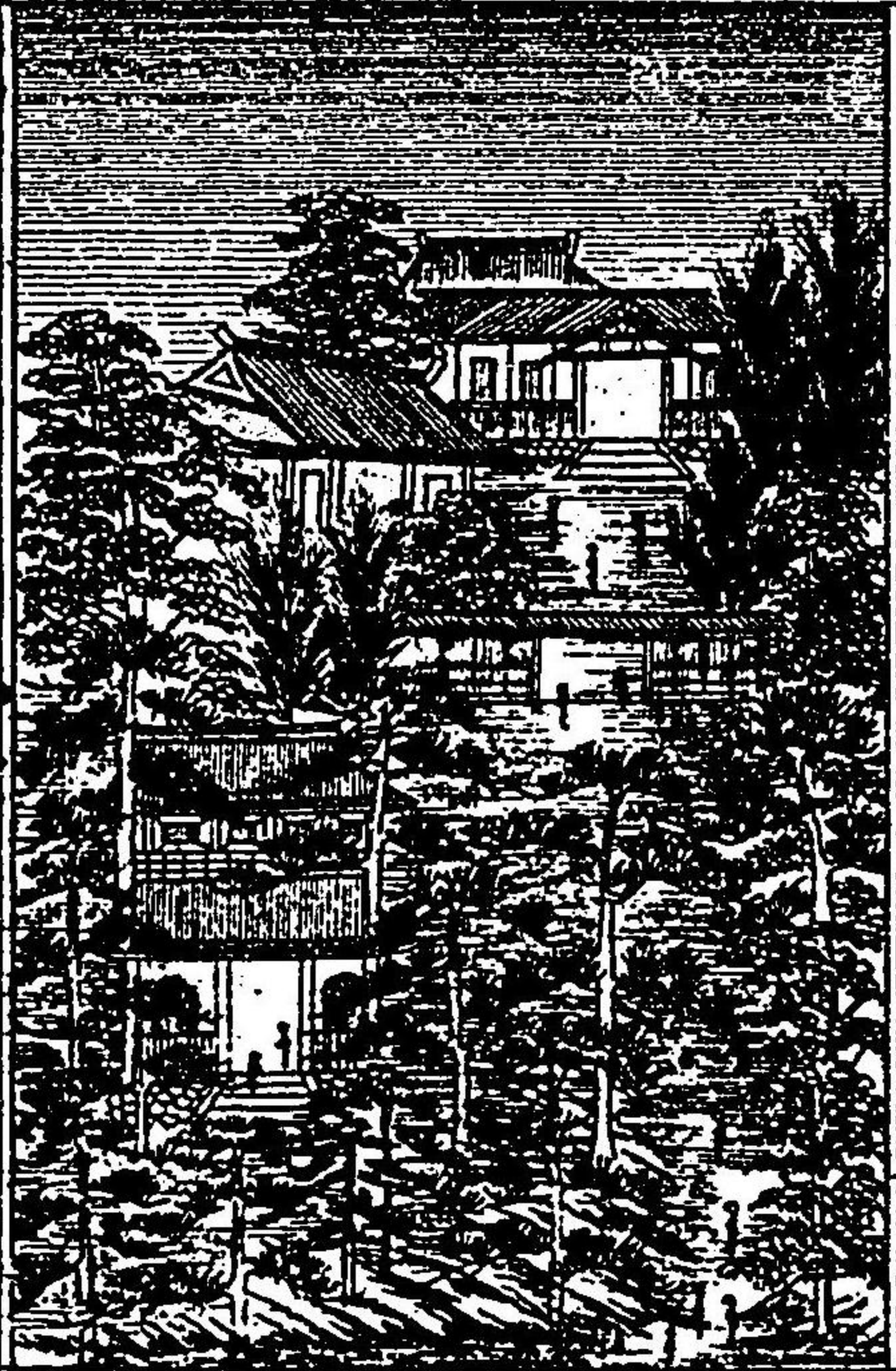
たるとき町家をおひ禁裏修護屋敷として造営ありなり其時ハ修護屋敷あり軍務官ともあり其後京都中学校とありたるとき猶今京都府となりたり此北の方ハ尋常の中学校も設立まなりたるときた府廳門前ハ盲啞院も有るなり



相國寺

京都市今出川御門の北に有 禪宗の本山にて境内美景寺中ハ薩那藩士の石塔數十箇有是ハ明治元年伏見戦争にて討死し人の墓也又西郷吉之助の戦争秘文の石碑あり





上御霊社

京都市室町頭東北より

郷社貞観五年祭未此地に祀る祭神下御霊

社と同

ト享保

十七年

靈元天

皇及ひ

吉備真

備藤原廣嗣菅原道実を合祀す例祭五月十



八日正定

下加茂へ八丁

下加茂社

加茂川筋今出川北へ八

官幣大社多々須王依毗賣命大山咋神を祭  
 る或八角身命なりとも云境内に於神社何  
 り此社地は諸木植む悉く柵に化せとな  
 り糺の森は清泉涌出是糺川の源あり極

暑は 登 涼 行 沢 山 料理 寺



それ海川真料理屋にあり官祭五月十五



日よして谷は茶祭といふ此所より山花へ  
十五丁

山をな

愛宕郡修学院村の西

料理店の平八は麦飯ととろ汁の名物有

川奥ハ高の川の産

よして頗る美味た

り好ま應して海魚

も賣り庭前ハ高の

川の清き流ををひ

山水の景色もつと

も美也此所より下

御茶屋ハ六丁



下御茶屋

右町郡修学院村ハ有

風色を美なり菩提樹寿月観藏六庵あり

曲欄ハ田植御覧の所あり

修学院ハ

三丁

修学院

愛宕郡修学院ハあり

後水尾天皇行宮ハ給し地よして風景美麗

ハ筆墨よ及難し此所の八景也

村落

晴嵐

修学

晚鐘

遠岫

帰樵

松崎

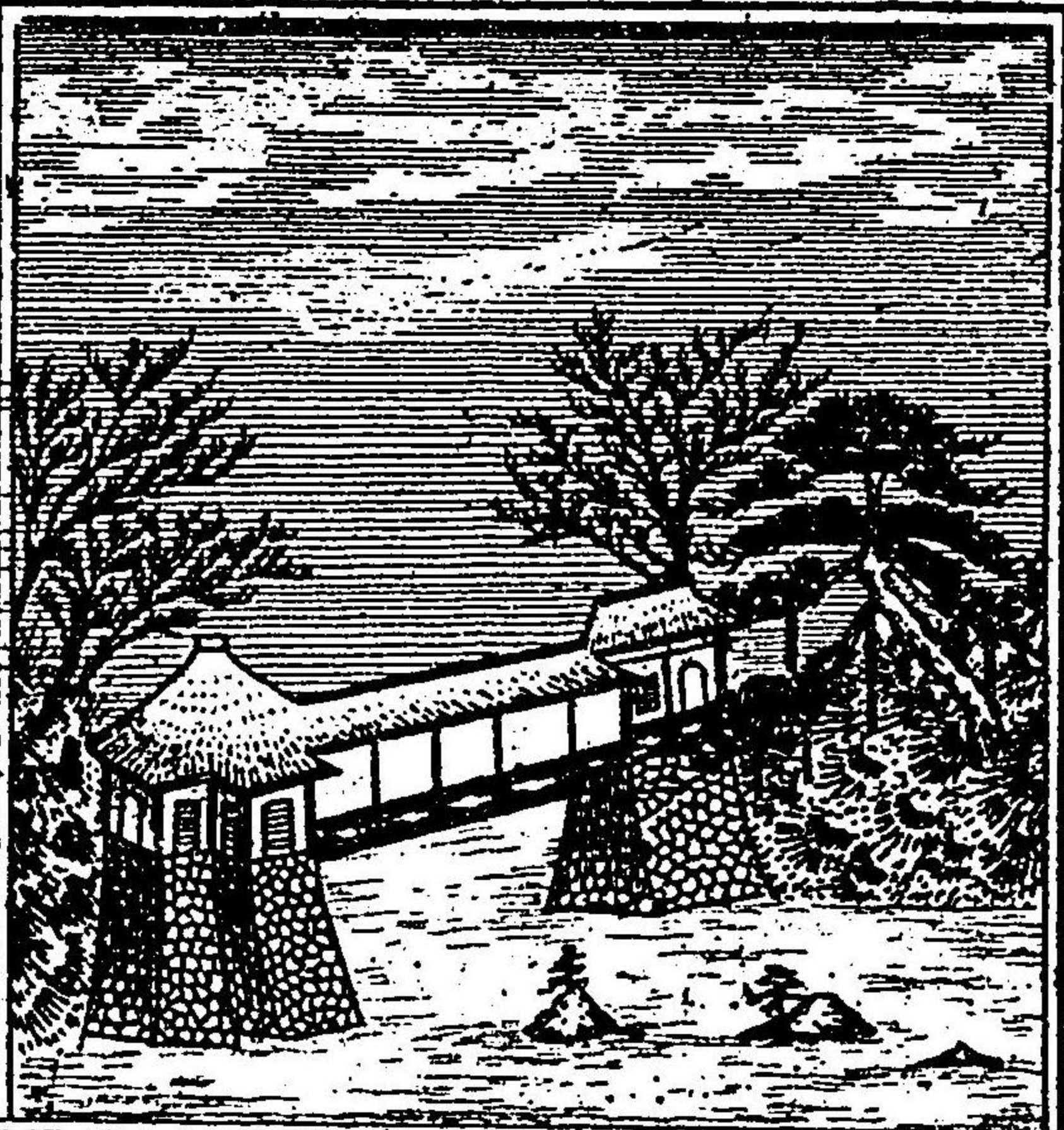
夕照

茅檐

秋月

平田落雁隣雲夜雨獻茶暮雪等あり是

を上の御茶屋と云ふ今明治廿三年離宮と

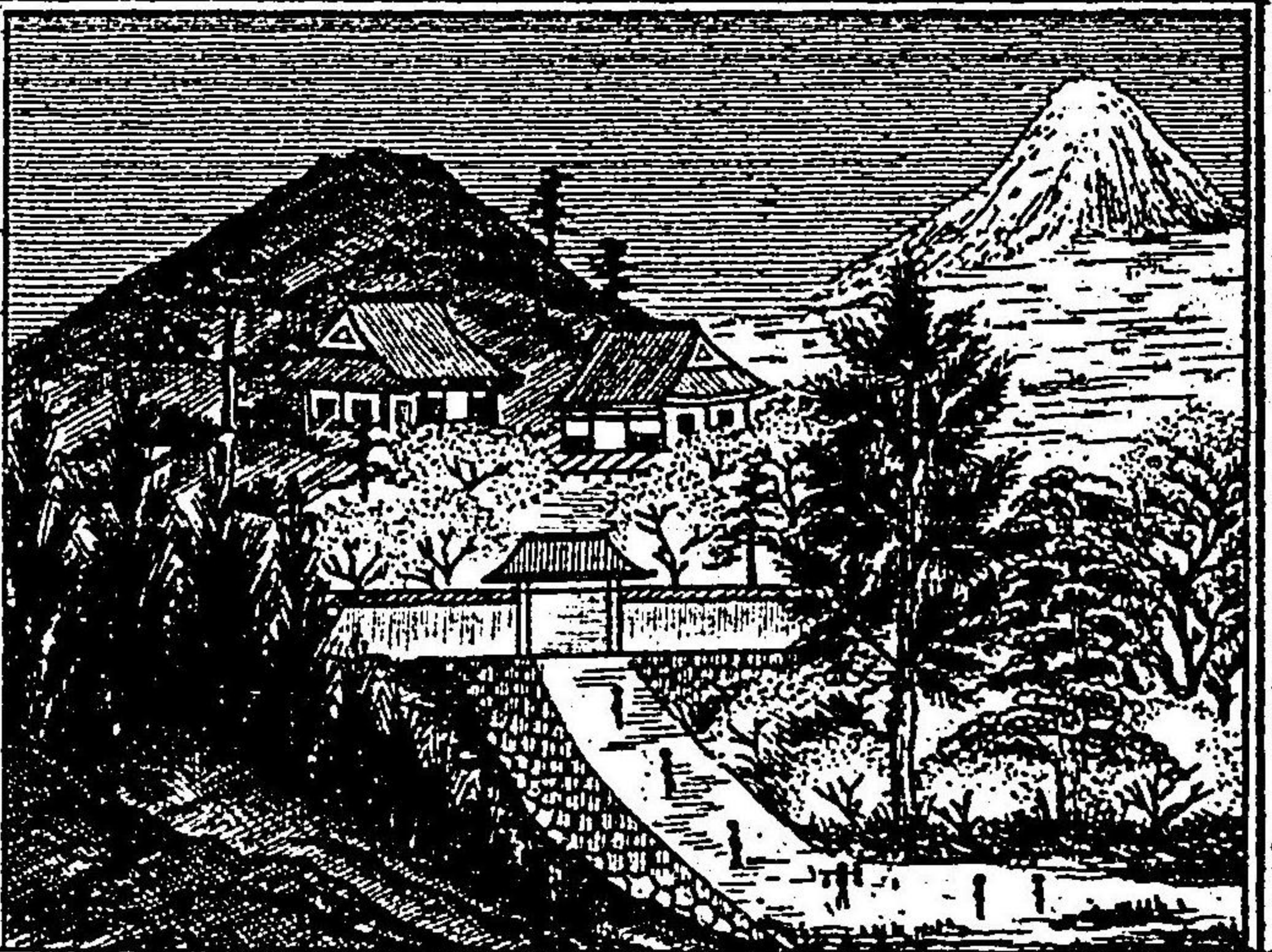


寂光院

愛宕郡大原村ハあり



真言宗弘法大師開基又治年中建礼門院開  
 居し給し地よりて今は尼寺也門院の御影  
 阿波内侍の像有り  
 亦同村に  
 龍の清水  
 あり謡曲  
 あり聞へて  
 世人の知  
 る所なり  
 証據の阿  
 弥陀へ二  
 丁



北 岩 倉 愛宕郡岩倉村あり

大聖寺と云天台宗知弁大僧正開基なり大  
 雲寺の額ハ勅筆にて佐理卿の書なり境内

山上又妙見堂有り くらまへ一里

鞍 馬 寺 愛宕郡鞍馬村あり

天台宗藤原の伊勢人創建して僧峰延中  
 興なり本尊毘沙門天を安置す例年一月初  
 寅の日諸人群集す

貴 布 弥 社 愛宕郡貴舟村あり

官幣中社水神同象女を祭る雨を祈るよ志  
 る一有又龍王の滝有り



加茂神社



上加茂神社

愛宕郡上加茂村より

官幣大社加茂別雷神と号す加茂別雷命を祭る欽明帝の御宇始て茲に祭礼す官祭ハ四月十五日あり俗に葵祭と云五月五日競馬式六月廿日七月一日神能あり

今宮社

愛宕郡東紫竹大門村に有

社格存社祭神ハ素戔鳴尊稻田媛の二神を祭る長保二年庚子五月創建なり四月十日ハ非細祭なり五月十五日私祭大井は賑ふ祭なり

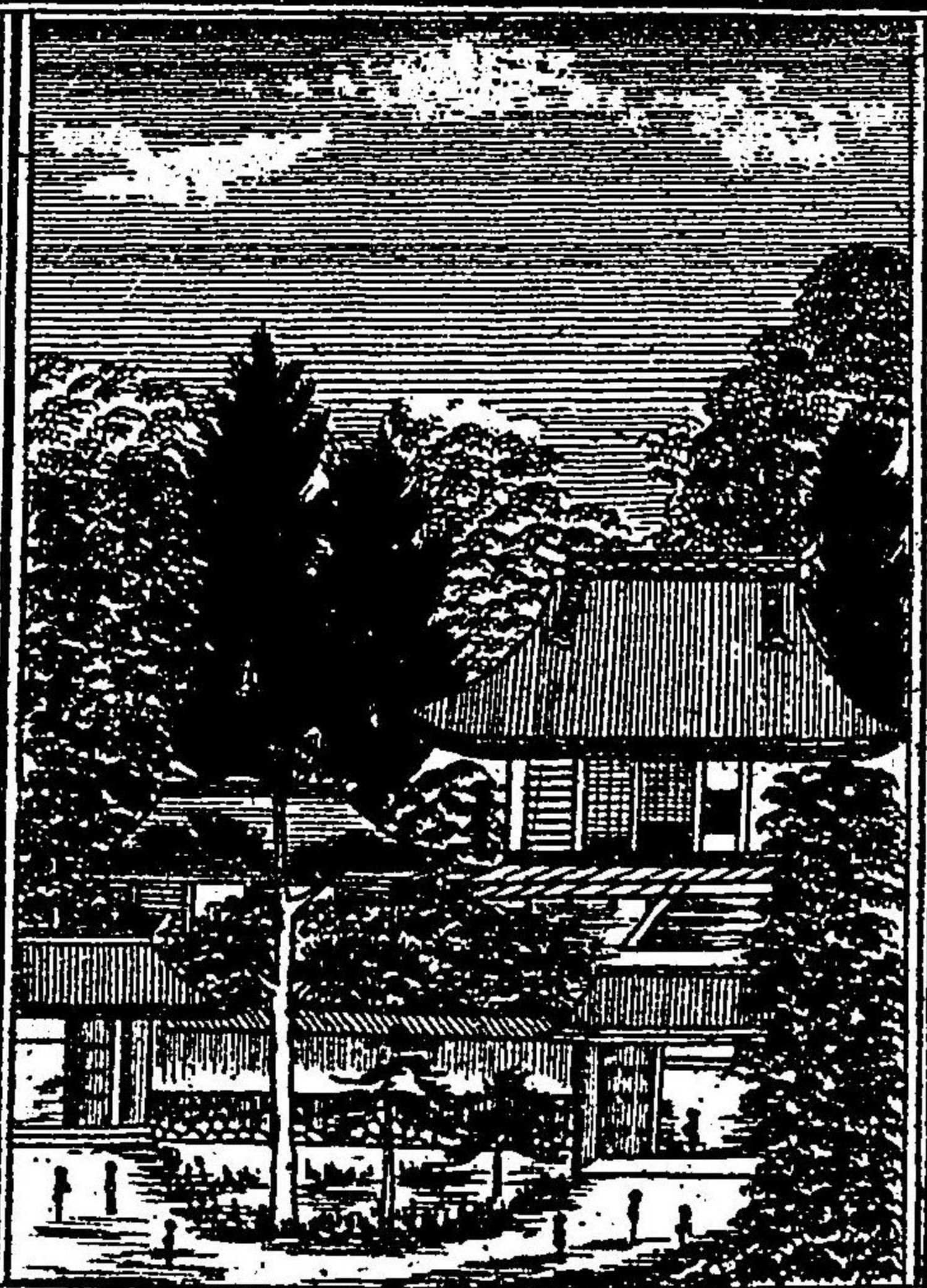
大徳寺へ四丁

大徳寺

右全所の少し南より

禪宗大燈國師開基正中元年甲子創建也伽藍ハ赤松山心山門ハ連歌師宗長閣ハ千利休の寄附あり一休和尚住居の地よりて當寺より遺物等あり又ハ織田信長公の菩提所なり

建勲神社へ六丁



建勲神社

愛宕郡丹岡山東のふもとあり

別格官幣

社祭神ハ

織田信長

公なり

金閣寺へ

十四丁西

へゆ





金閣寺

愛宕郡大北山村より

鹿苑寺といふ禪宗僧疎石閣基應永年中  
利吉満公山荘を捨て是寺を創建せりれ三

重の金閣  
及び南天  
床柱假山  
池泉石等  
悉く有名  
うて後  
山をく  
ひ西より  
笠山の名  
山を望み洛西第一の勝地也平野へ三丁半



平野神社

葛野郡小北山村より

官幣大社祭神今水神久度神古開神姫を祭  
る官祭四月二日境内櫻木多し世に平野の

夜櫻と云春の比に殊に四方より雅俗の人  
集り非常の賑ひなり 北野へ二丁半

北野神社

京都市御前通今出川突當

官幣中社菅原道實公の灵を祭る天曆九年  
乙卯右京七条文字創建す天徳三年己未右

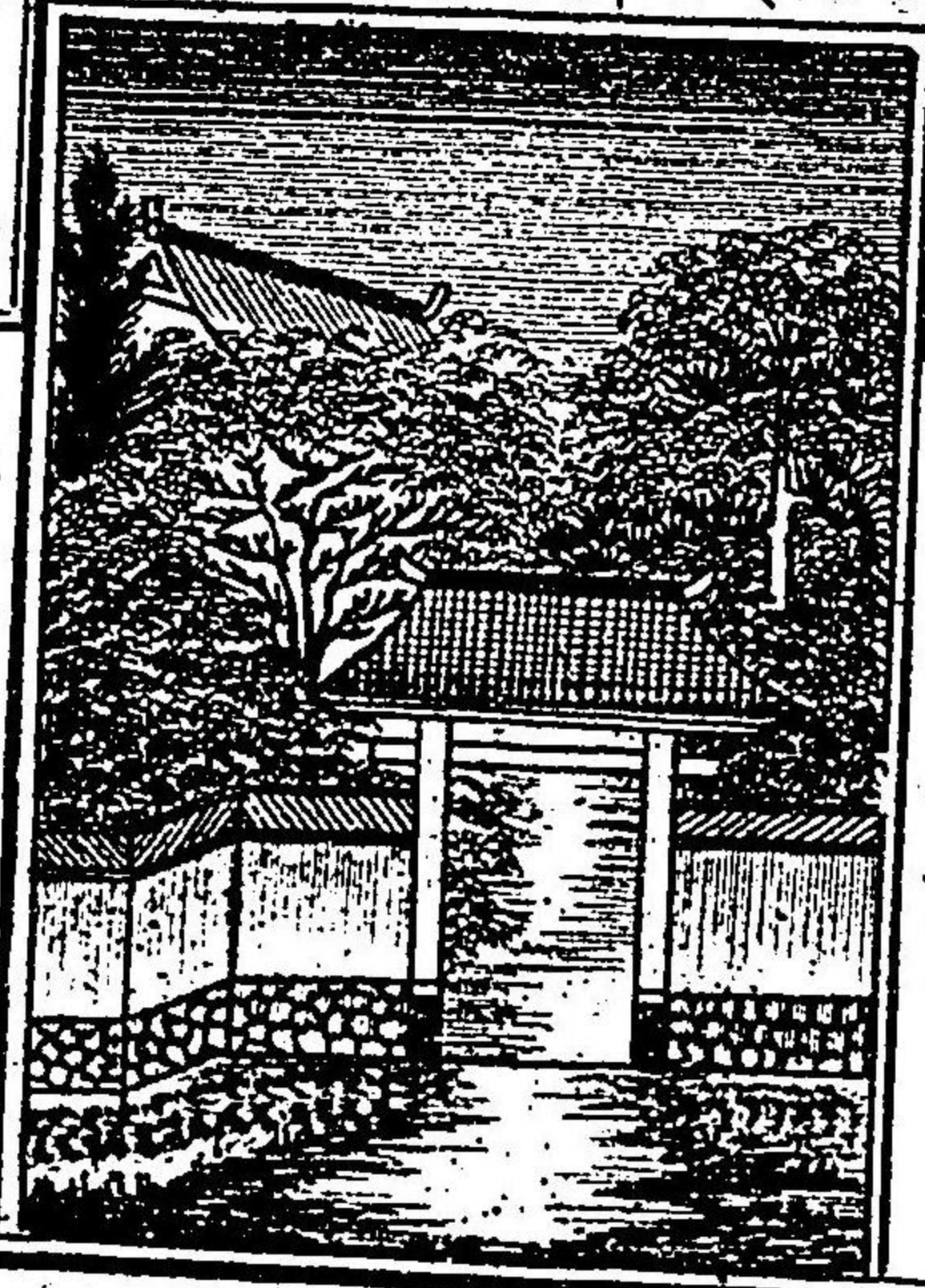
大臣  
師輔  
公造  
菅原  
社  
加藤  
肥後  
守寄



附大鐘あり又秀吉公大茶湯跡あり官祭八  
月四日私祭十月四日神幸あり境内に数千



木の梅園あり春ハ花見の遊人群集此園  
 の下紙や川の清流有り夏ハ納涼より  
 又當社東御門前より上七軒と号ふ遊里有り  
 等持院 葛野郡衣笠山のふもとに  
 禪宗開基  
 ハ夢窓國  
 師あり足  
 利家累代  
 の招堂有  
 り



龍安寺

同宗細川勝元の  
 の造宮當寺の  
 池冬よりハ鴛鴦  
 来る是より御  
 室へ五丁西は

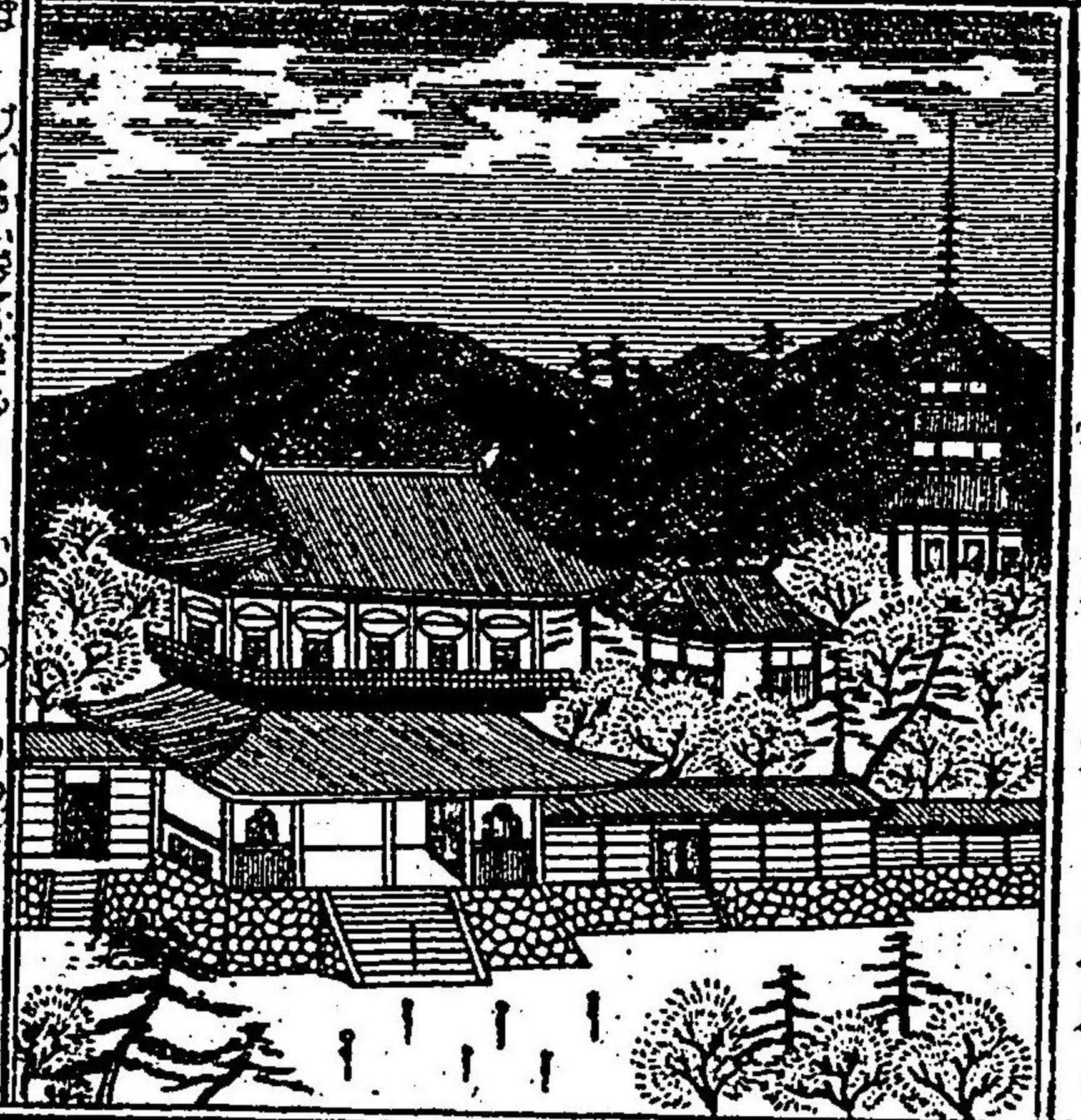


葛野郡寺持院の西より

御室仁和寺

仁和寺と号す真言宗仁和四年戊申創建又

宇多天皇  
 讓位の後  
 の宮殿を  
 茲に造り  
 密に造り  
 教を



修し給ふ境内櫻木多し一種の名木あり旧  
 御室御所と云へ也 妙心寺へ七丁

妙心寺

葛野郡池上村に有り  
 禪宗僧慧玄開基延元二年丁丑花園上皇離  
 宮を以て此寺を創建せりる伽藍巍々々々



て尤も美を盡せり境内の老松は今も鬱茂す



す當寺を正法山と号す仏殿に釈迦如未又  
 関山達磨臨濟とて其堂舎あり法堂又經藏  
 又ハ王鳳院唐門の額ハ法皇御筆なり

三寶寺

葛野郡嵯峨にあり

當寺ハ日蓮宗本堂ハ南向りて釈迦如未  
 ハ山上にあり関山ハ日護上人なり此辺ハ  
 妙光寺法藏寺般若寺平岡八幡宮善明寺右

の寺等何れども縁由を略す



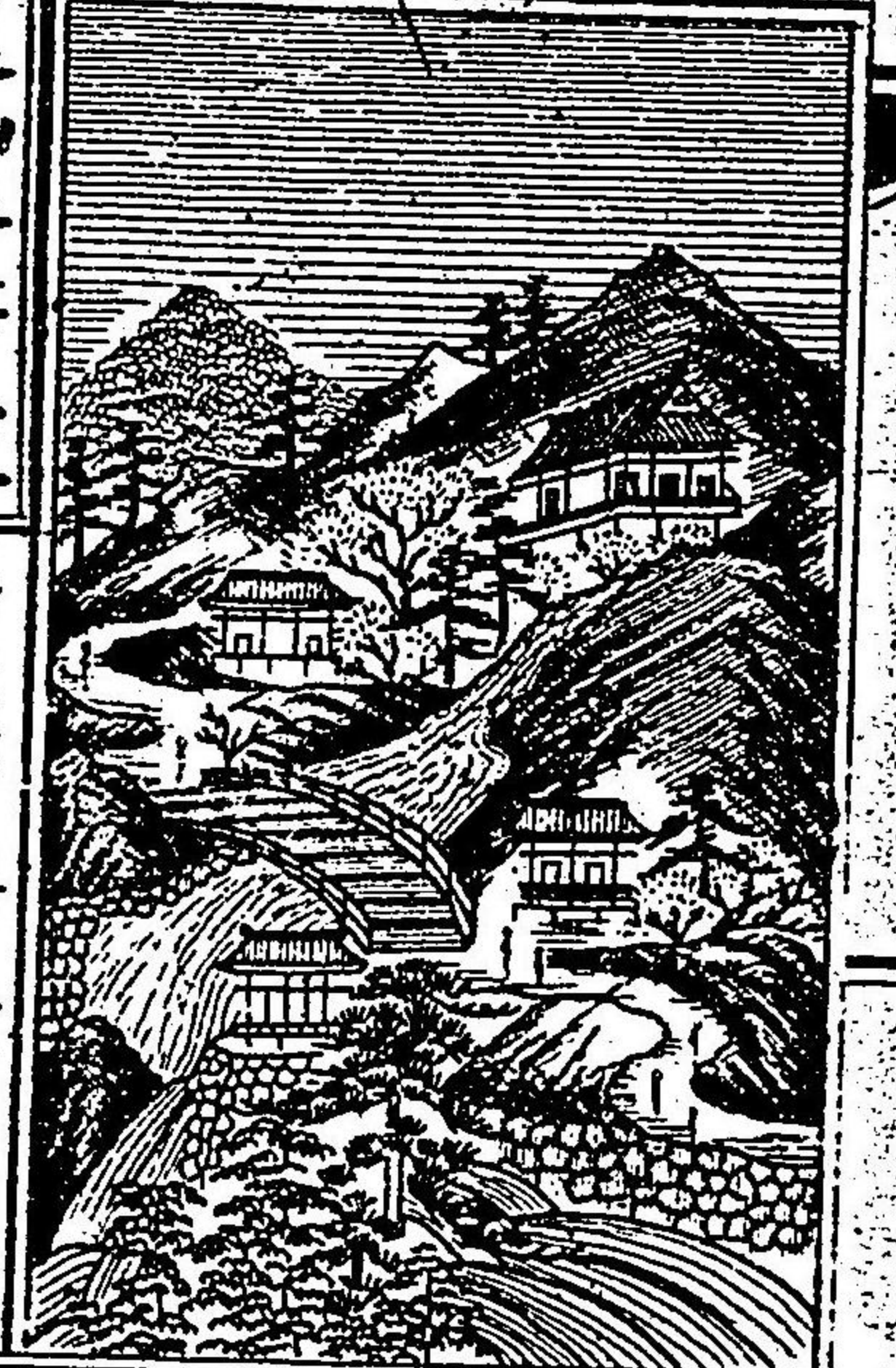
柵尾山高山寺

葛野郡柵尾村にあり

華嚴宗本尊ハ釈迦如未関山明意上人あり  
 秋の頃ハ紅葉のかりやう此時の景色す



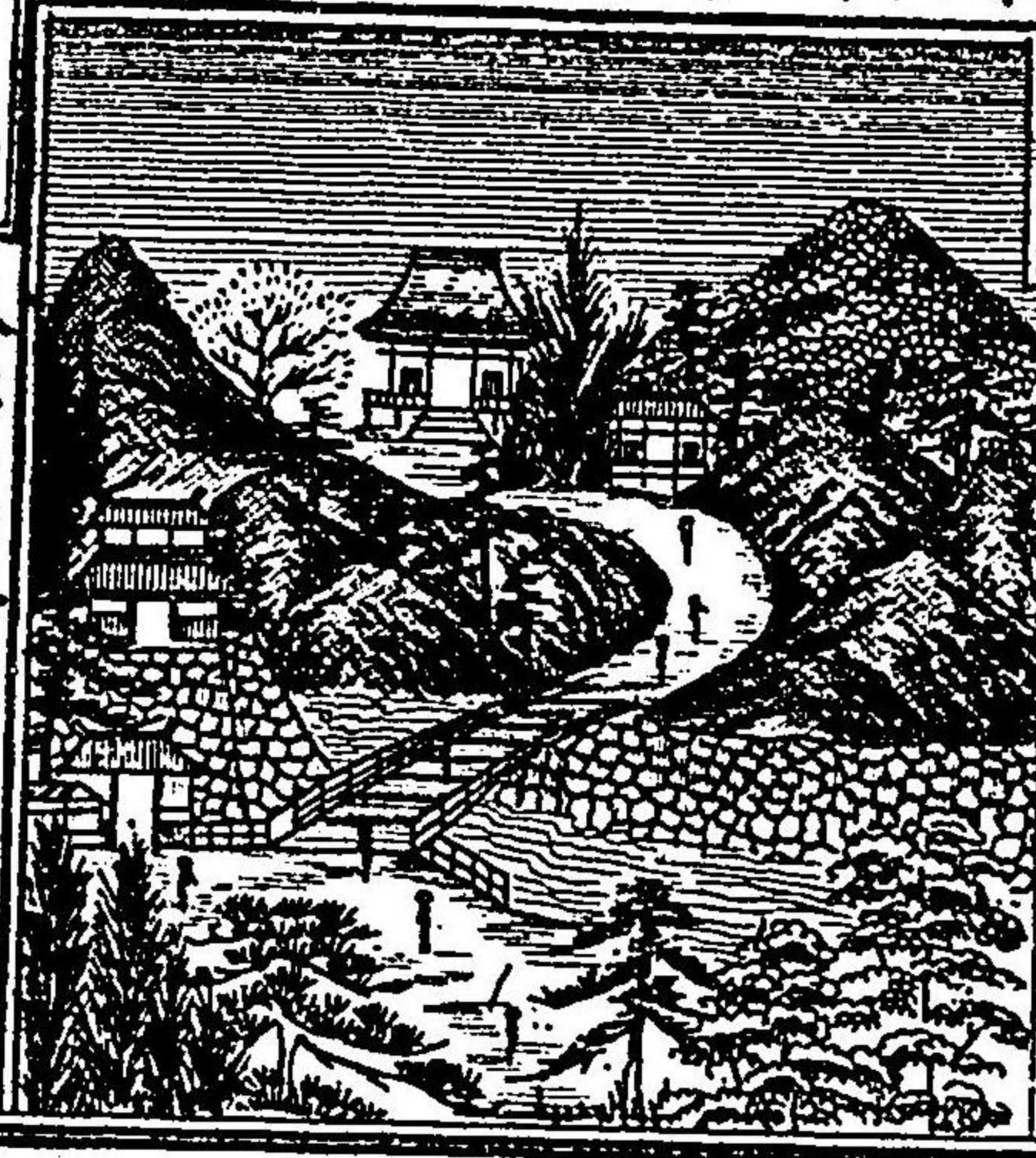
諸人集る



真言宗律院

右同郡 旗尾村

基知泉法師  
也本尊釈迦  
如未あり明  
意上人の御  
作たり此所  
紅葉多し



高雄山

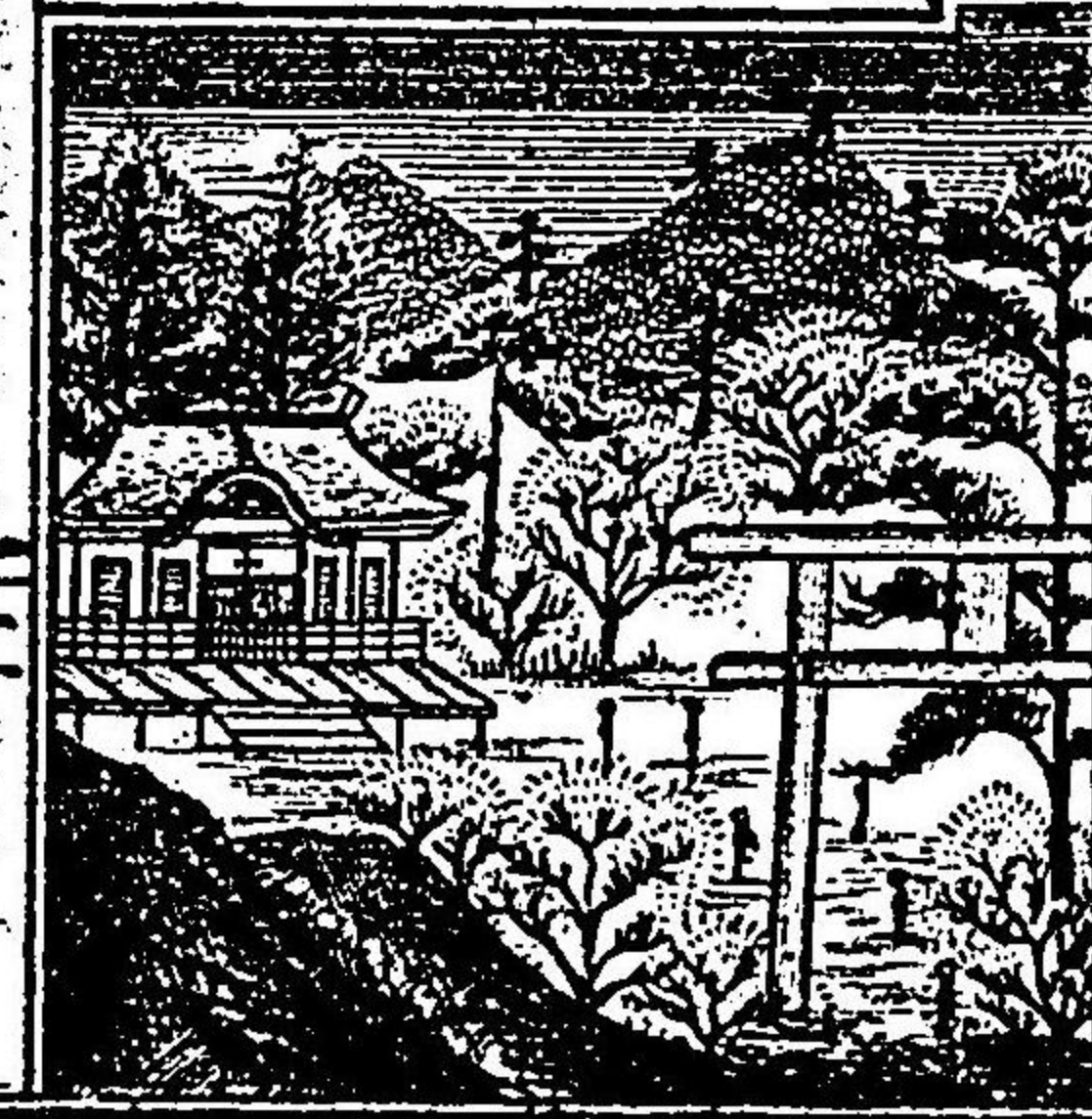
神護寺と云真言宗延暦年中和气清麻呂創

建一神願寺といふ天長元年甲辰嵯峨上皇  
是を弘法  
大師は賜  
ふ今の号  
よ更む金  
剛定寺の  
額書石あ  
り楓樹殊  
よ多し美  
景なり



護王神社

別格官幣社和氣清  
麻呂の天を祀り給  
ふ所あり明治何年  
京都市上京区烏丸  
下長者町角へ遷入





月輪寺

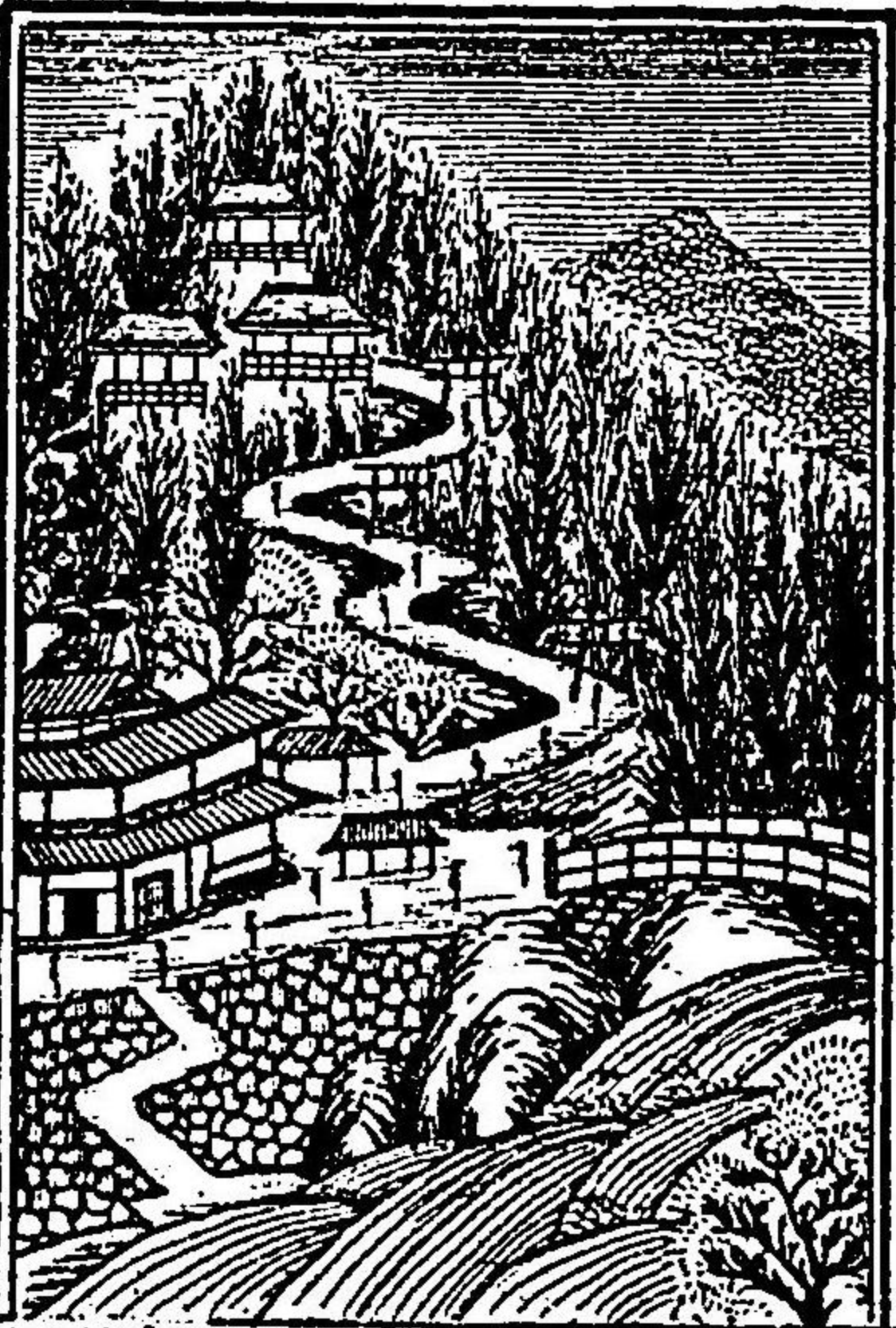
愛宕山の麓にあり

九條関白兼実公閑居の地あり名木時雨の  
櫻龍女水あり  
愛宕山八十五丁

愛宕山

葛野郡上嵯峨乾岡にあり

郷社軻遇突智神伊弉丹尊の二神を祭り雷  
神破元  
神を合  
祀を天  
應元年  
辛酉創  
建を伊  
勢參宮せしその當社は詣るを例とし又火  
災を除くの神と崇む麓に清滝川あり此処  
は旅宿や又ハ茶店等あり

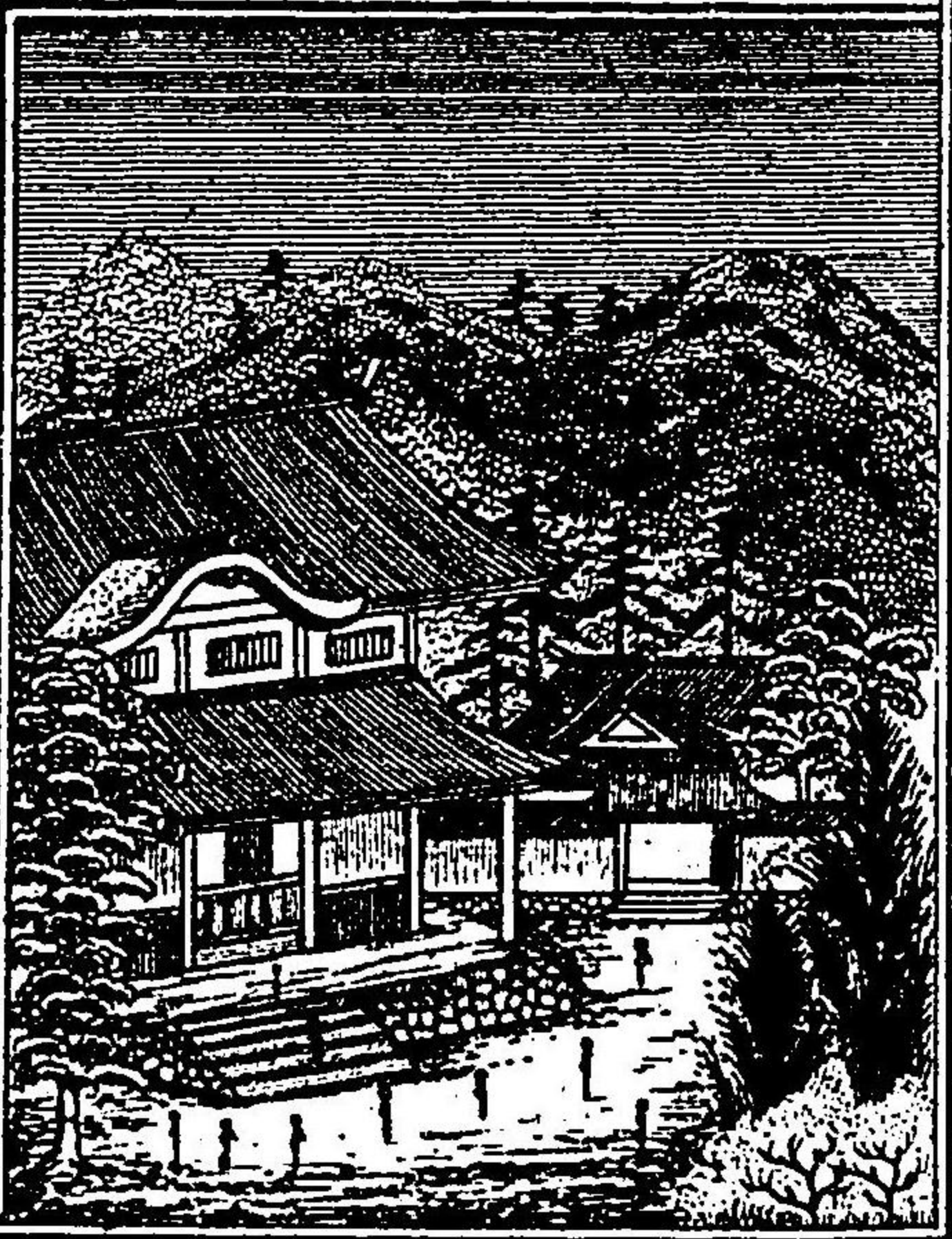


釈迦堂清凉寺

葛野郡上嵯峨村にあり

本尊釈迦牟尼の立像に天竺毘首羯磨天

の作  
るり  
門前  
は旅  
宿や  
あり



天龍寺

葛野郡下嵯峨にあり

禪宗後醍醐天皇追福の爲め御建立ありて  
庭前は楓樹多し

嵐山

右同所の西南にあり

龜山帝吉野より櫻木を敷多取寄せ散覧し  
給ふ前は大堰川ありて丹波より舟筏を下  
ま茲に架す橋を渡月橋と云ふ又千鳥洲戸  
灘瀬滝あり大悲閣に角倉了以の創建あり  
此山春ハ櫻木爛漫杜鵑花は嵐峽の名



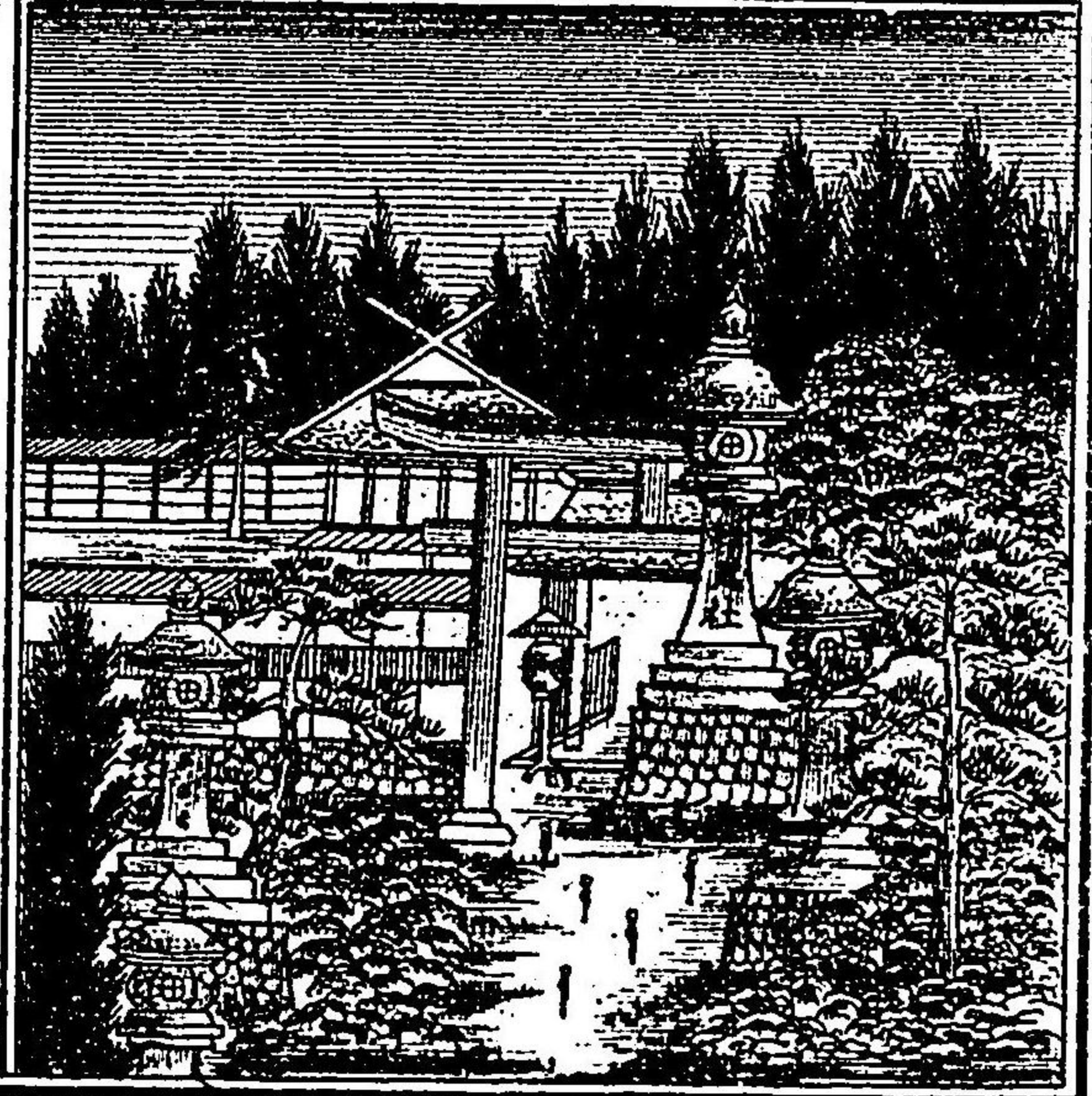
子忍ひ避暑よい舟は棹一螢火の光は燈を  
 かから  
 葉を紅  
 賞し  
 旭  
 も夕  
 子至  
 るを  
 忘る



雪の且も車力を飛して四時の遊観雅俗  
 之は集り山水名媚府下第一なり大堰川の  
 前は三軒家として席貸茶店なり好は應じて  
 料理をなす  
 法輪寺へ一丁

法 輪 寺  
 嵐山の南はあり  
 真言宗本尊虚空藏菩薩なり都下の幼童十

三詣  
 をふ  
 す例  
 年三  
 月十  
 三日  
 殊は  
 群集



松尾へ一丁半

松 尾 神 社  
 葛野郡上山田村にあり

官幣大社大山咋神市杵島姫神を祭る大寶  
 元年辛丑創建るり世は酒造家等此社へ  
 大々神樂を奏して繁栄を祈るしく官祭ハ

四月二日私祭ハ五月上酉日神幸あり  
 又云松尾は祭神七社ハ月讀社榛谷社三の



官當社宗像社衣手社四大神等の七社と云あり

月讀社

右同野松尾より二丁南有

仁壽三年痘瘡大に流行して  
見人多く死る  
ゆへ神託有て  
免るなり



梅の宮

葛野郡西梅津村にあり

官幣中社  
酒解神大  
若子神小  
若子神酒  
解小神と  
を祭る此  
地は数多



白紅梅林よりて風景実妙あり

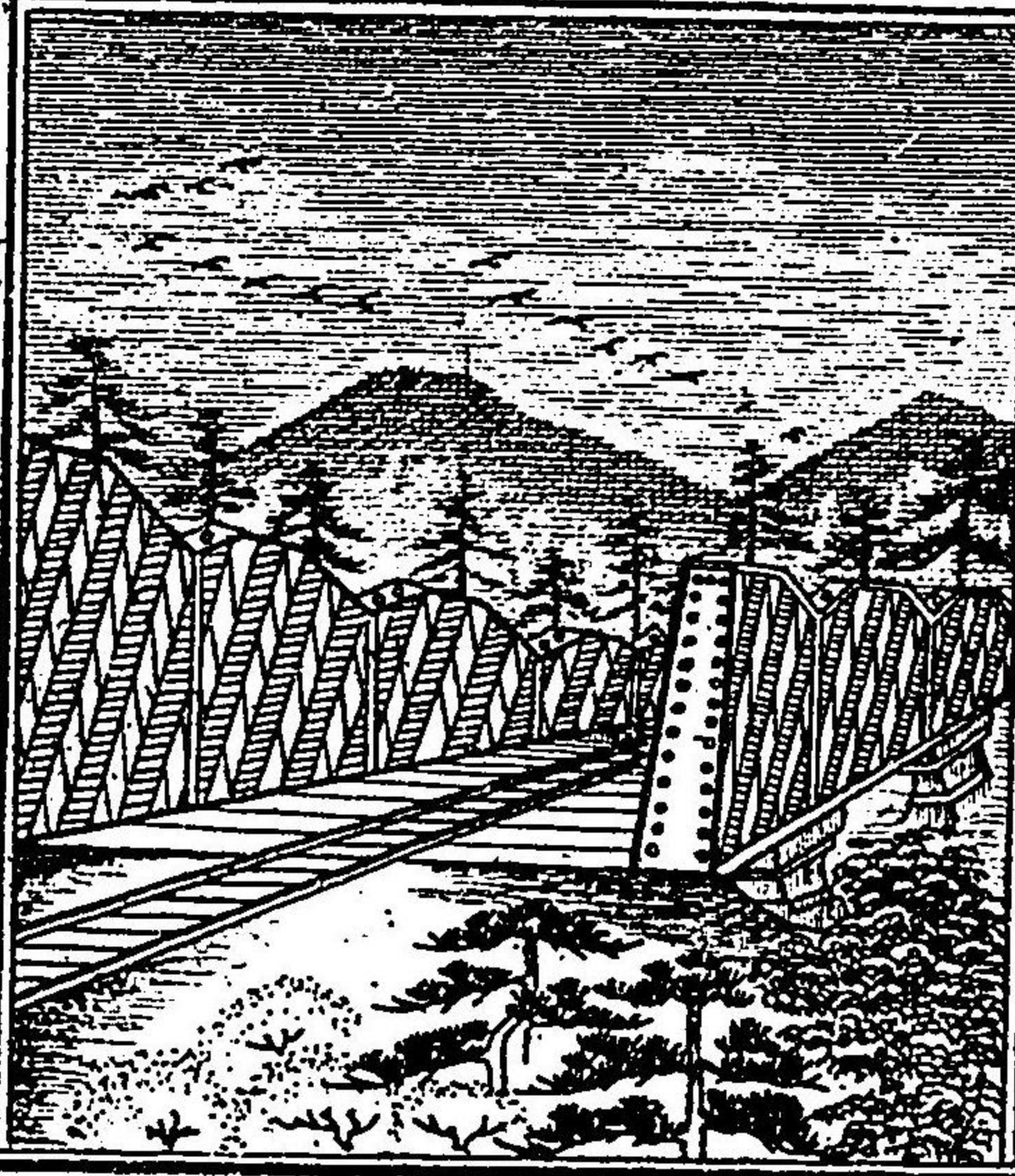
桂川鉄橋へ八丁

桂川の鉄橋

葛野郡西梅津村にあり

京坂間汽車の通路あり明治九年九月建築  
なり亦近村より世々云廻地藏尊あり久遠

寺と云  
此川ハ  
出水の  
時ハ堤  
坊溢を  
事  
これと  
此鉄  
橋ハ必らず夏あつるべし



大原野神社

乙訓郡大原野村にあり

官幣中社武甕槌神經津主神天兒屋命姫神



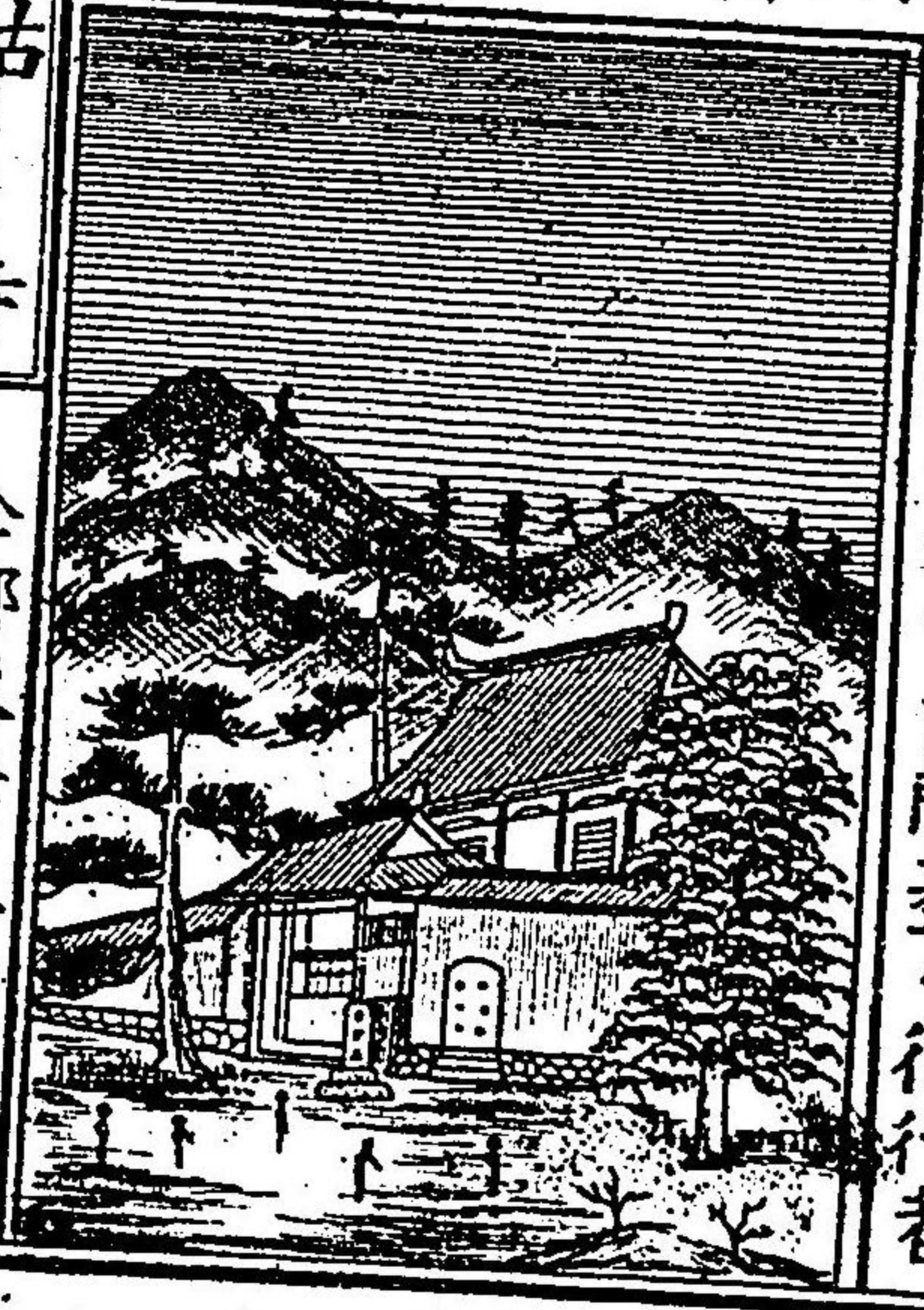
を祭る  
毎年二月八日  
官祭を  
執行せ  
らる也



花北寺

乙訓郡大原野村あり

小塩山勝持寺と号に天台宗開基ハ役行者  
なり西  
行法師  
の像は  
り又西  
行樓の  
るなり



三 鈷 寺

全郡灰谷の上あり

元兼學宗本藏仁眼曼陀羅ハ觀性法橋の筆

當寺の西  
の方髪ケ  
嶽と云山  
ハ平面ニ  
して此所  
絶景なり



栗生光明寺

乙訓郡栗生村あり

浄土宗山光大師四國へ左遷の時母儀の消  
息を以て自作する所の像を安ハ工匠當寺  
堂塔の精工を賞して之を模範となさる者あり

善 峯 寺

天台宗開基ハ  
源美上人之觀  
性法橋慈鎮和  
尚の墳あり



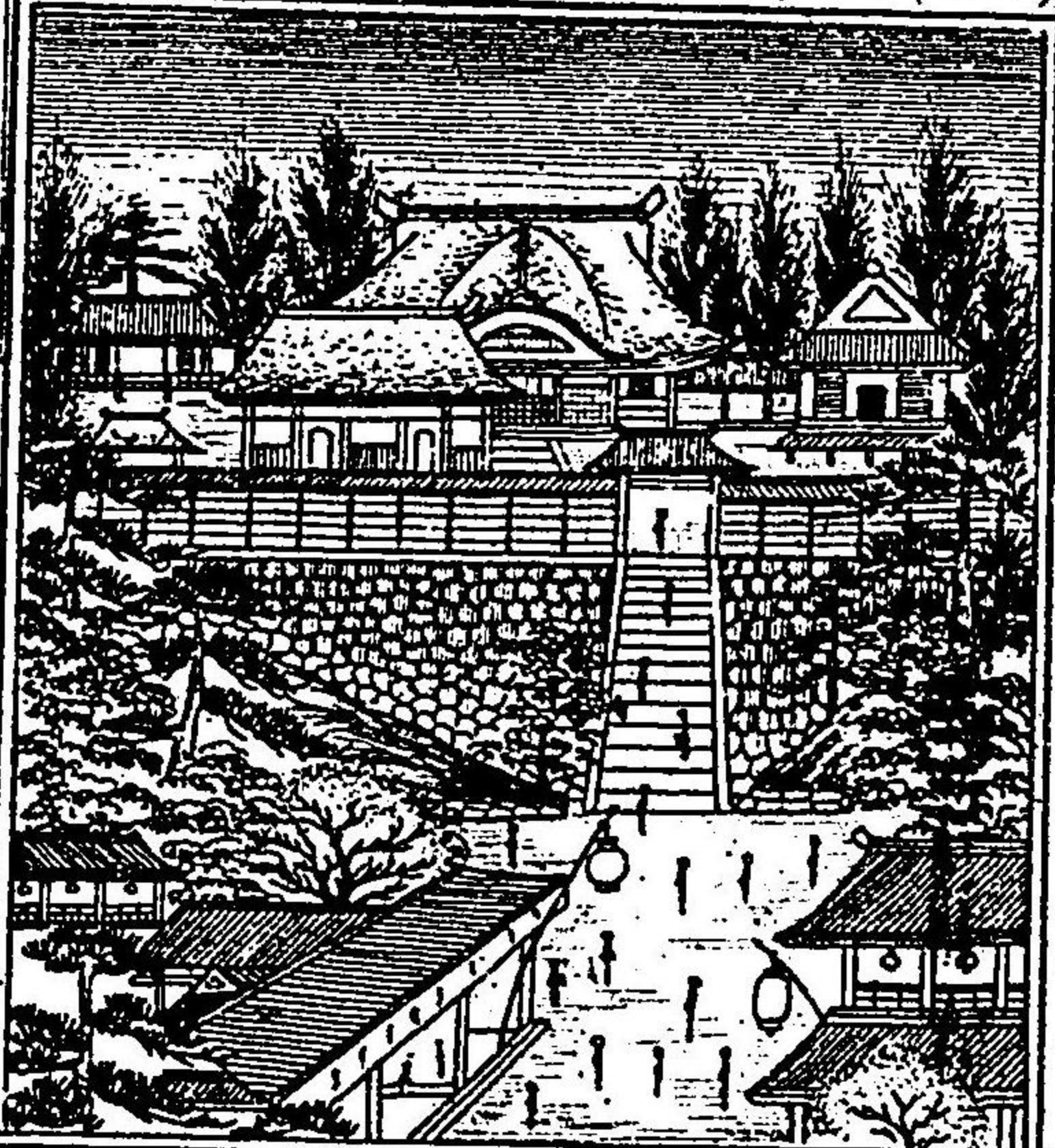


柳

谷

乙訓郡揚谷ふちり

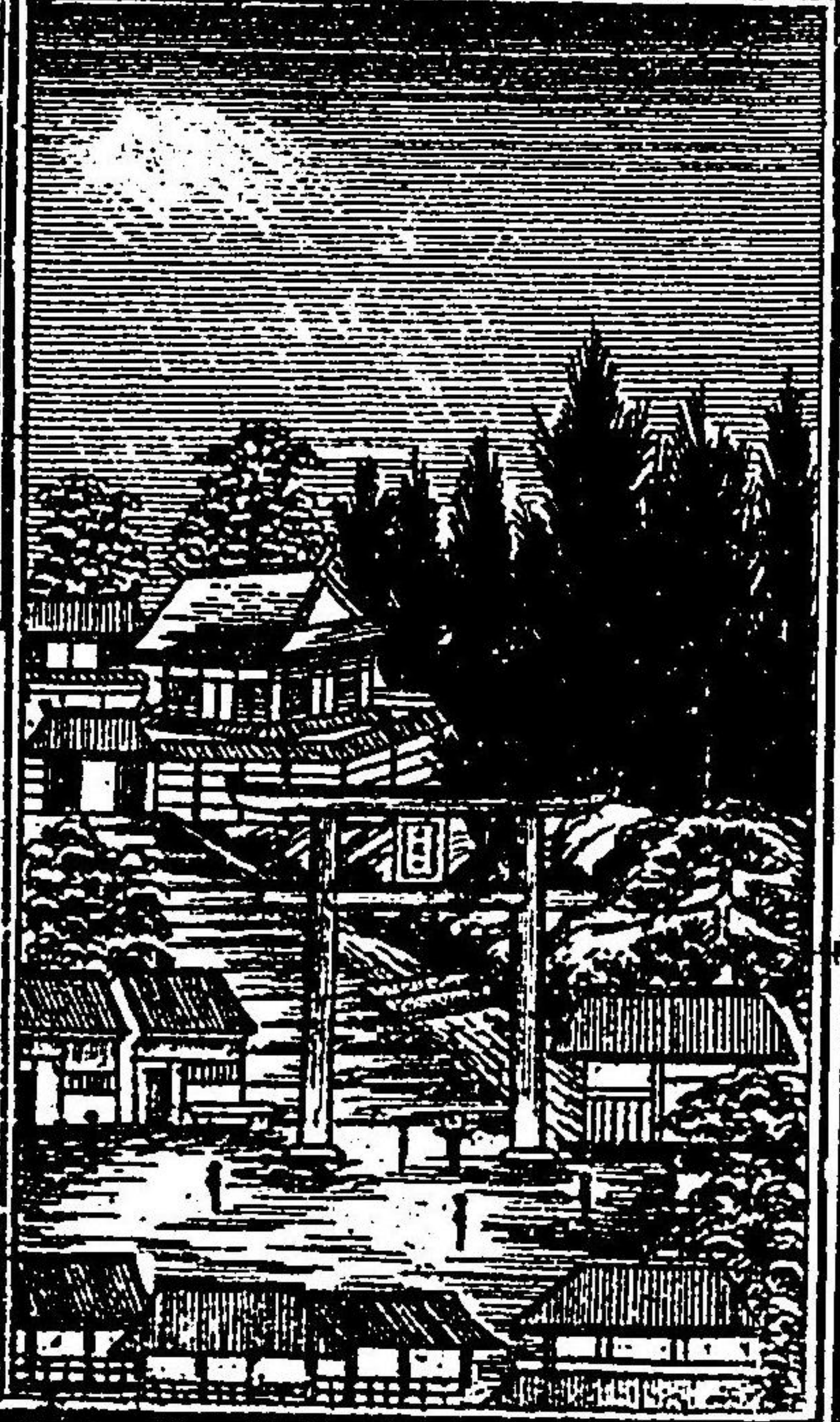
白川天皇御宇水親上人の創建なり揚柳の  
滝又揚  
柳水錫  
鉛水等  
有り眼  
を悩の  
容参詣  
常また  
へず



向日神社

乙訓郡向日町ふちり

祭神大歳神御宇向日神なり此社の額日小  
野道風の筆なりとりふ又此所は京坂の汽  
車道路は向日町ステーションヨリあり京都七  
条ステーションヨリ二里あり汽車まで十  
五分又ゆく



長岡天満宮社

乙訓郡岡田村ふちり

皇震筆  
の額  
り道真  
公大宰  
府へ移  
り玉ふ  
時自尊  
容を写





して其へ行かれあり

天王山 右同郡大山寺あり

素盞鳴の御子八王子鎮座あり 神門額曰小野道風筆也

例祭四月八日 養老二年 再建なり

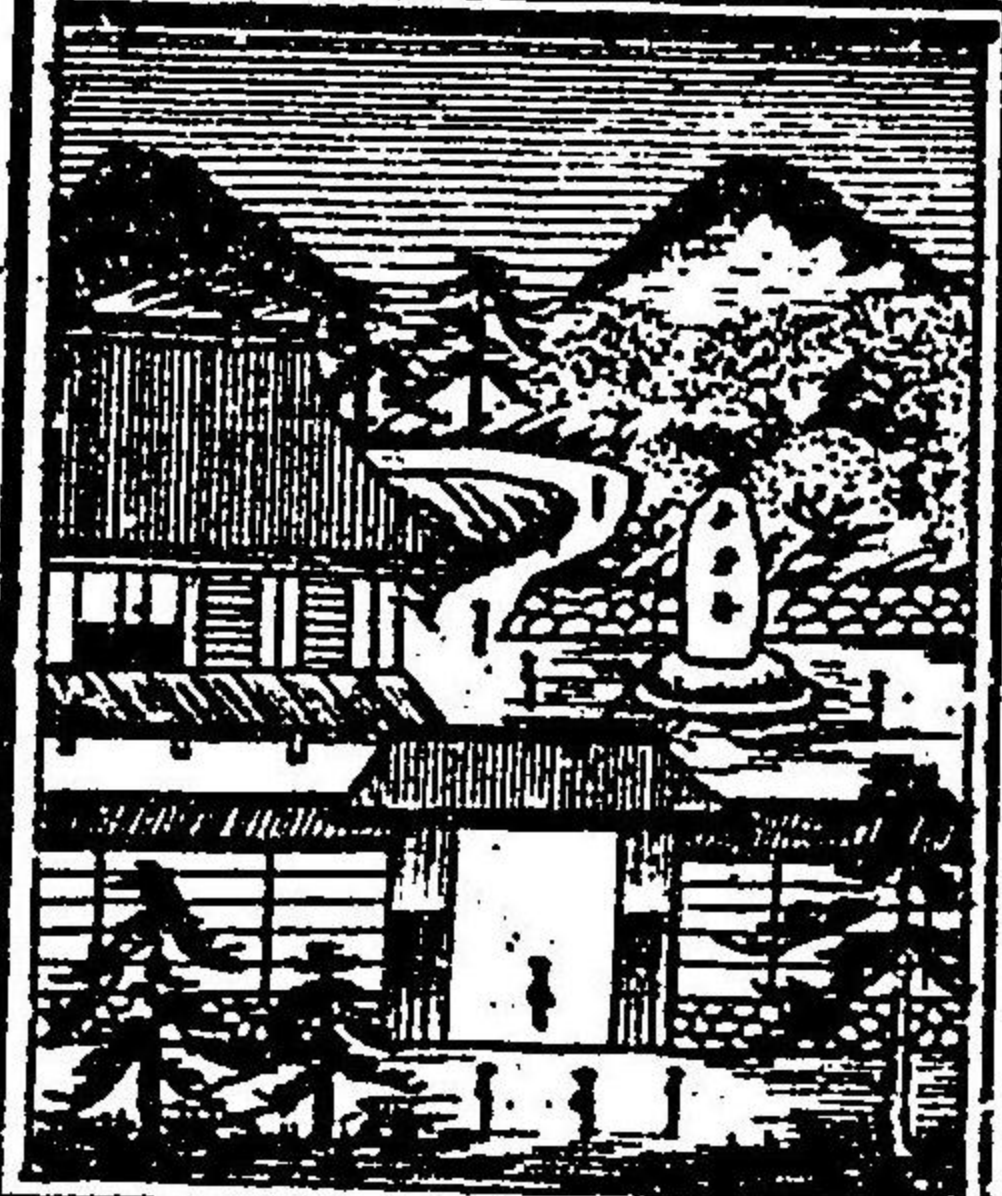


寶

寺

右全所あり

真言宗本尊觀世音堂内寶頭留共行基の作あり 打出の小進ハ當寺の什器物也



離宮八幡宮社

乙訓郡山崎あり

社格未定應神天神功皇后姫神祭貞觀元年 七卯の御創建なり

城南神社

紀伊郡上鳥羽村あり

祭神ハ 國常立尊なり 日本又 易皇太 神宮と 稱也



澁川渡

久世郡あり

豊臣秀吉公の御時迄ハ 船渡シ秀吉大橋小橋孫橋等を架シ玉ふ

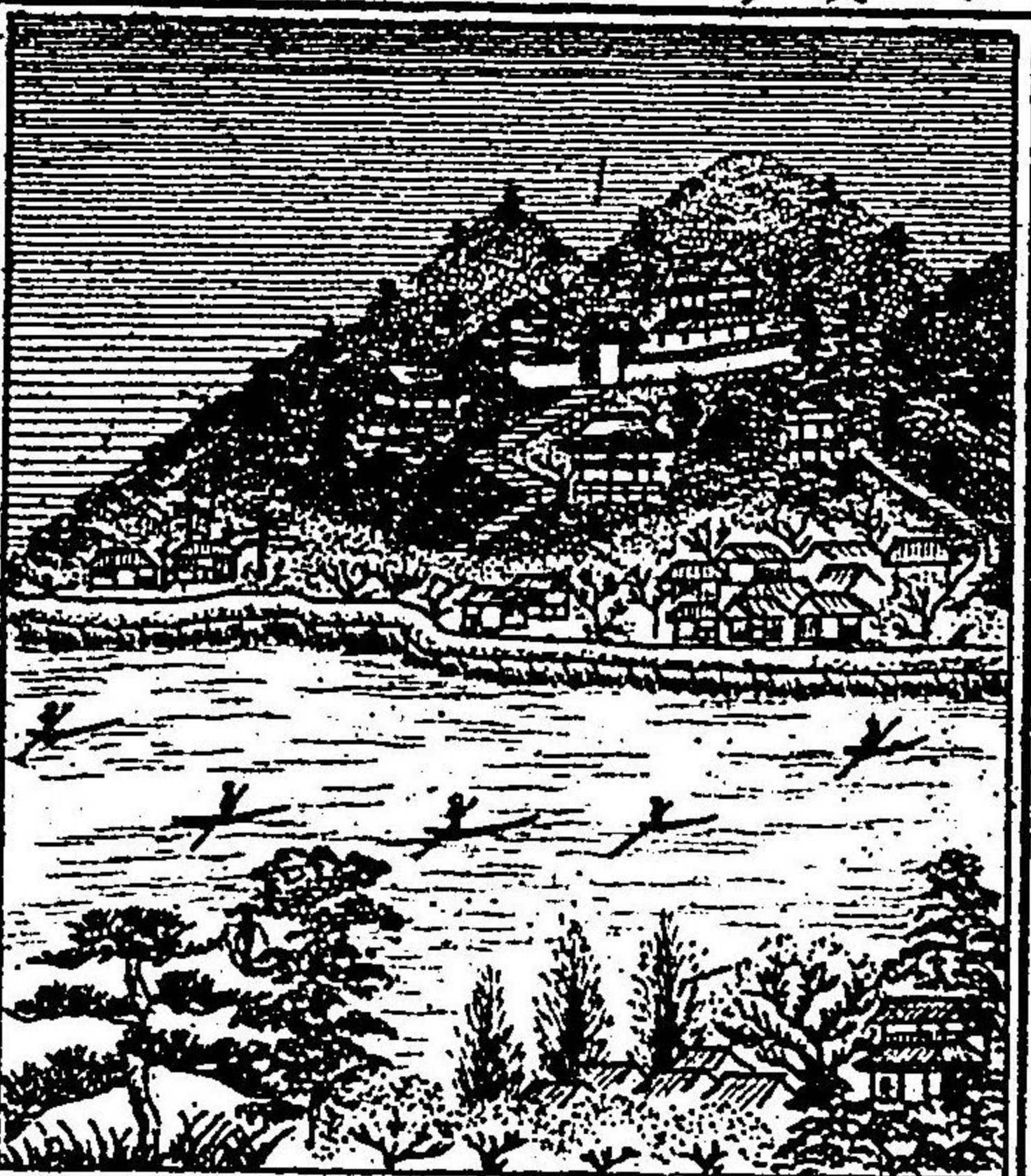
男山神社

級喜郡八幡莊あり

官幣大社也當社ハ日本三社之内祭神應神



天皇氣長足姫尊比咩大神を祭る清和天皇  
 貞觀二年庚辰殿を創建ありたる社殿の棟  
 已黄金之又利官正成の植し楠の大木今た  
 残まり  
 此山嶺  
 を香呂  
 峯又ハ  
 旭嶺と  
 伏見へ  
 二里



伏見 駅

紀伊郡より

名駅なり鎮古宮所ニ鍋島町ありを今こ  
 大津へ移置る此地ニ墨染寺ハ墨染櫻  
 墨染井欣澤寺と深州少将古跡宝塔寺と  
 日蓮上人の遺骨を納む墨染中書島ハ遊

女町なり京橋  
 邊より大坂へ  
 下りの船を晝  
 夜よいせ又蒸  
 気船も毎日午  
 前午後又出帆  
 す船所の近辺  
 又旅宿屋多し



桃山

紀伊郡より

秀吉公の城址あり松原山ハ本丸又弘雪堀  
 あり此辺桃木多し

宇治平等院

久世郡宇治川の南ニ有

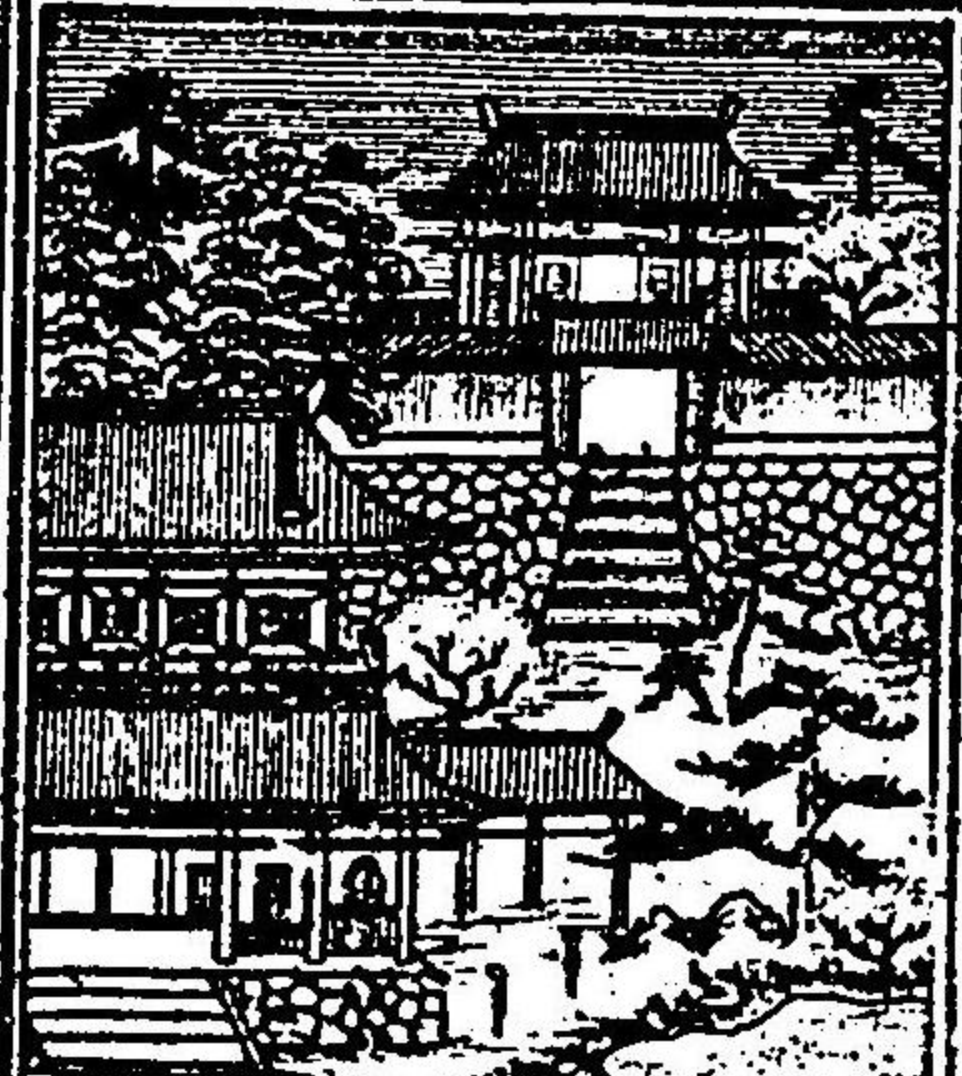
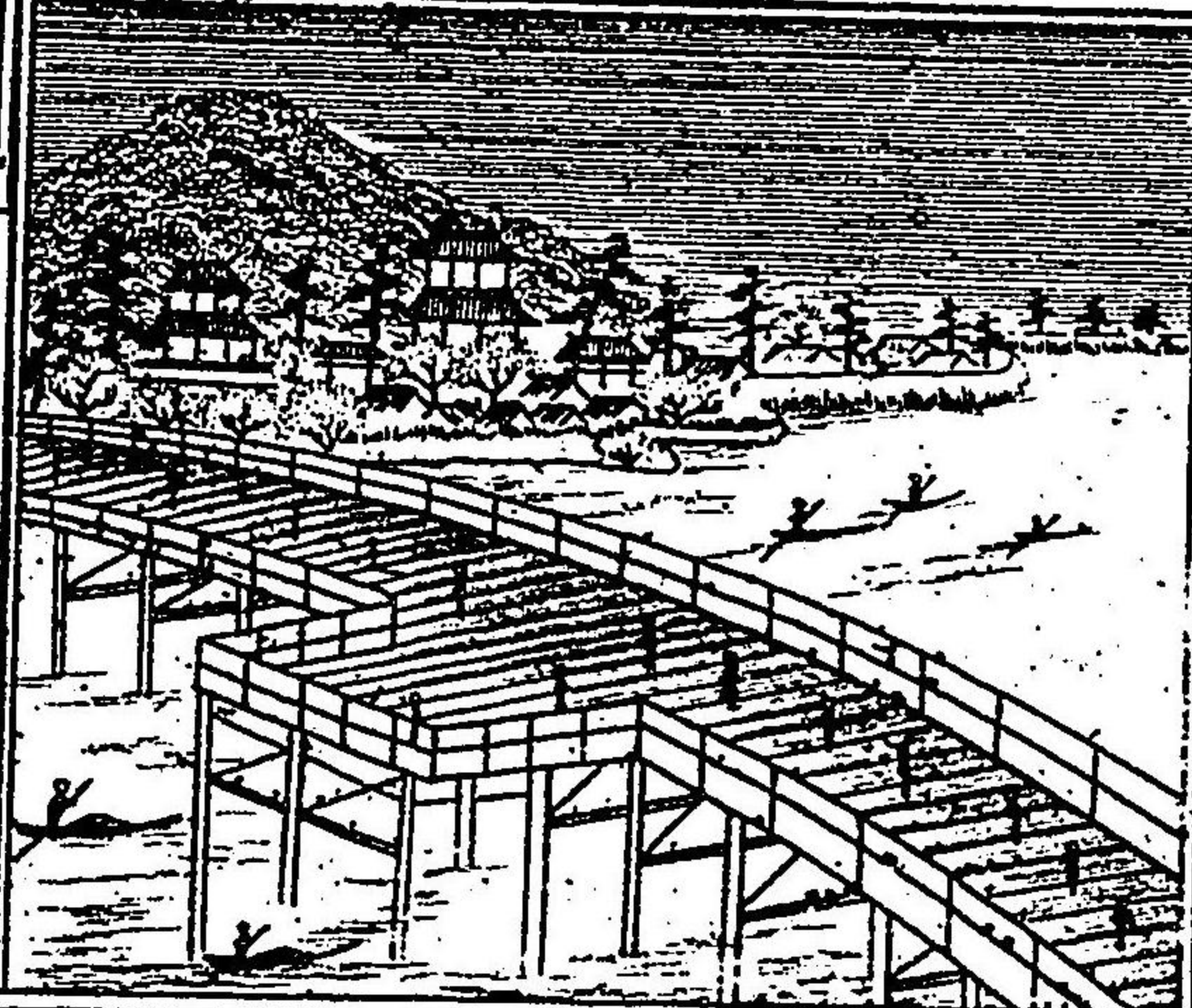
天台宗なり初め河原院融公の別荘あり  
 が永養七年関白頼通公寺となし平等院と  
 号す院内鳳凰堂あり瓦上ニハ金銅雌雄の  
 鳳凰を冠せ又頼政鎧冓乃松扇の芝等あり



宇治橋

初めハ孝徳天皇乃  
御宇大化二年又道  
照和尚此れに造る  
橋ハ丑寅より未申  
又架長長さ

八十三間五  
尺五寸空曆  
六年山城道  
辻洪水の時  
此橋墜流也  
此故今ハ  
假橋哉かく  
るなり



興聖寺

久世郡宇治川の北ニあり  
禪宗後ハ深草天皇の御宇創建道元禪師開

祖あり正保年中万安和尚中興才旧淀城主  
永井尚政再び營膳を門前の宇治川中ニハ  
浮島又ハ龜石あり是名高



三室戸寺

宇治郡元三室戸村ニ有

天台宗本尊  
千手観世音  
ハ間浮檀金  
の立像水底  
より出現せ  
と云ふ





黄檗山

宇治郡大輪田村より

禪宗大明福洲の隠元和尚兼應三年甲午此地より渡り寛文元年辛丑當寺を建立を境内

美景あり

又一切經

の版を藏

も又ハ後

水尾天皇

より賜る

仏舍利あり

り當山万

福寺と号

す又後水尾天皇より大光普照國師の号賜



ふ。又後水尾天皇より大光普照國師の号賜

日野薬師

宇治郡日野村より

真言宗法興寺といふ婦人乳の出る祈願寺

るよあつしありと云

を同より乳のい

ざり人餘多の人々

詣りて祈念をかけ

るありをも奇妙

乳のソリること即

頭よりあり



醍醐寺

宇治郡醍醐村山上より

真言宗開基

宝僧正延喜

四年の建立

あり當寺

西國十一番

札所あり外

まさくら木

多

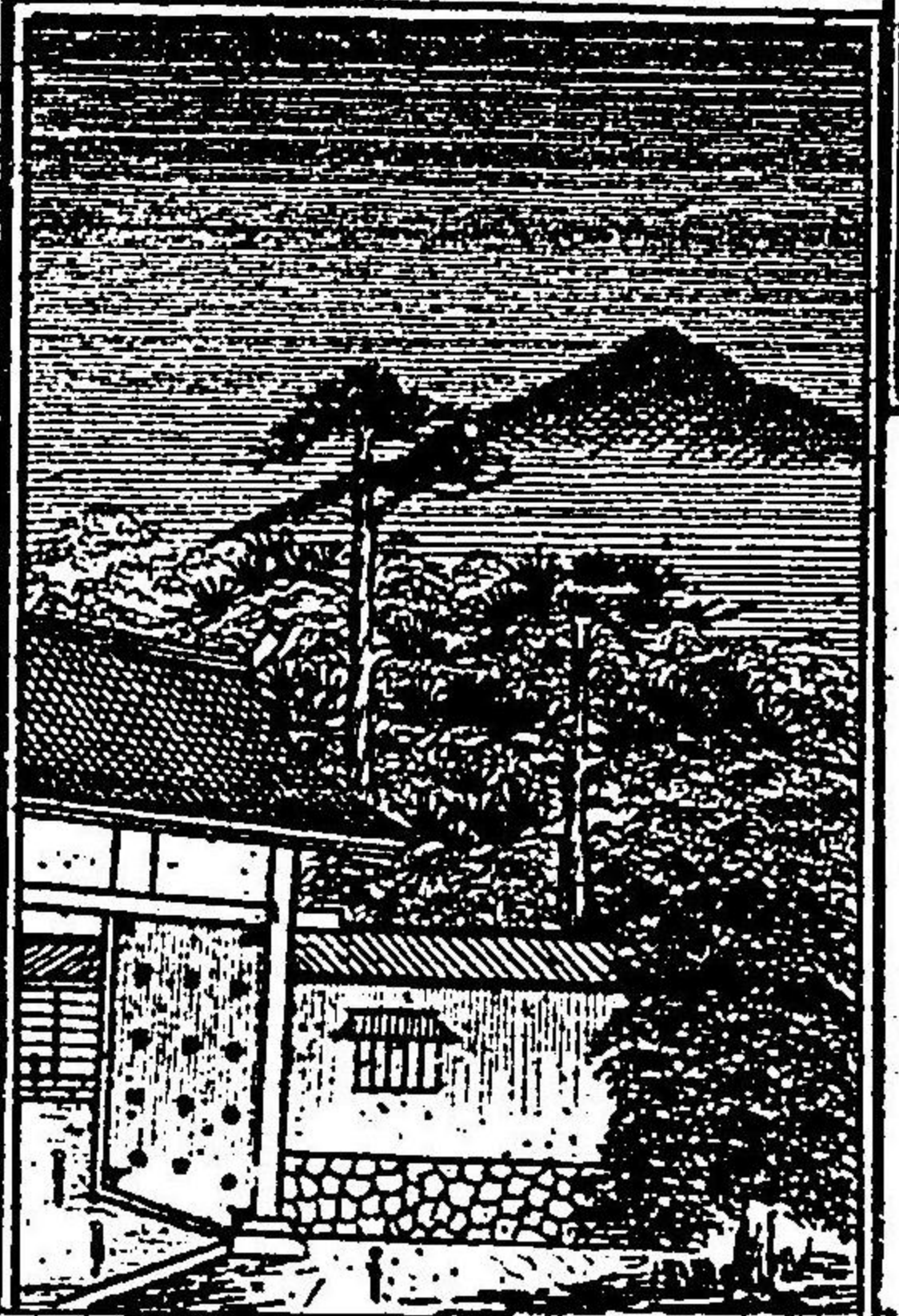




三 室 院

宇治郡醍醐村より

真言宗  
此寺秀  
吉公御  
建立地  
内櫻木  
多し



勸 修 寺

宇治郡勸修寺村より  
真言宗本尊觀世音  
延喜帝御等身の像也

花 山 元 慶 寺

宇治郡北花山村より

天台宗  
本尊藥  
師如未  
僧正  
遍照の  
作あり



人皇六十五代帝此寺へ入祀髪一玉ふ故是  
より御名を花山院と奉称しあり

御 香 宮

紀伊郡伏見  
有神功皇  
后を祀る神  
門の東に御  
香水と云井  
あり



藤の森神社

郷社崇道天敬皇  
帝崇道天皇伊豫  
親王を祭是蒙古  
退治の遺風とや  
境内に旗塚蒙古  
塚あり





稻荷神社

紀伊郡伏水街道黒門南有

官幣大社往昔人皇四十三代元明帝の御宇  
和銅四年二月十一日午の日此山より出現し  
玉ふ本社第一の宇賀魂神第二社の素盞鳥

尊第 三ハ 大布 上田 中社 四此 神此 二神



を併せて五座と称し延喜八年戊辰の創建  
也官祭ハ四月九日私祭ハ五月上旬の卯日神  
幸在又二月初午日諸人群参す 東福寺七丁

稲荷表門前より大津京坂汽車のステーションヨ  
を置る

東福寺

京都市本町十八丁目有

禪宗聖一國師開基建長七年乙卯九条道家  
公の創建なり當寺涅槃像ハ兆殿司の筆な

り通天 橋の景 色春秋 楓木の 奇觀ハ 都下第 一なり



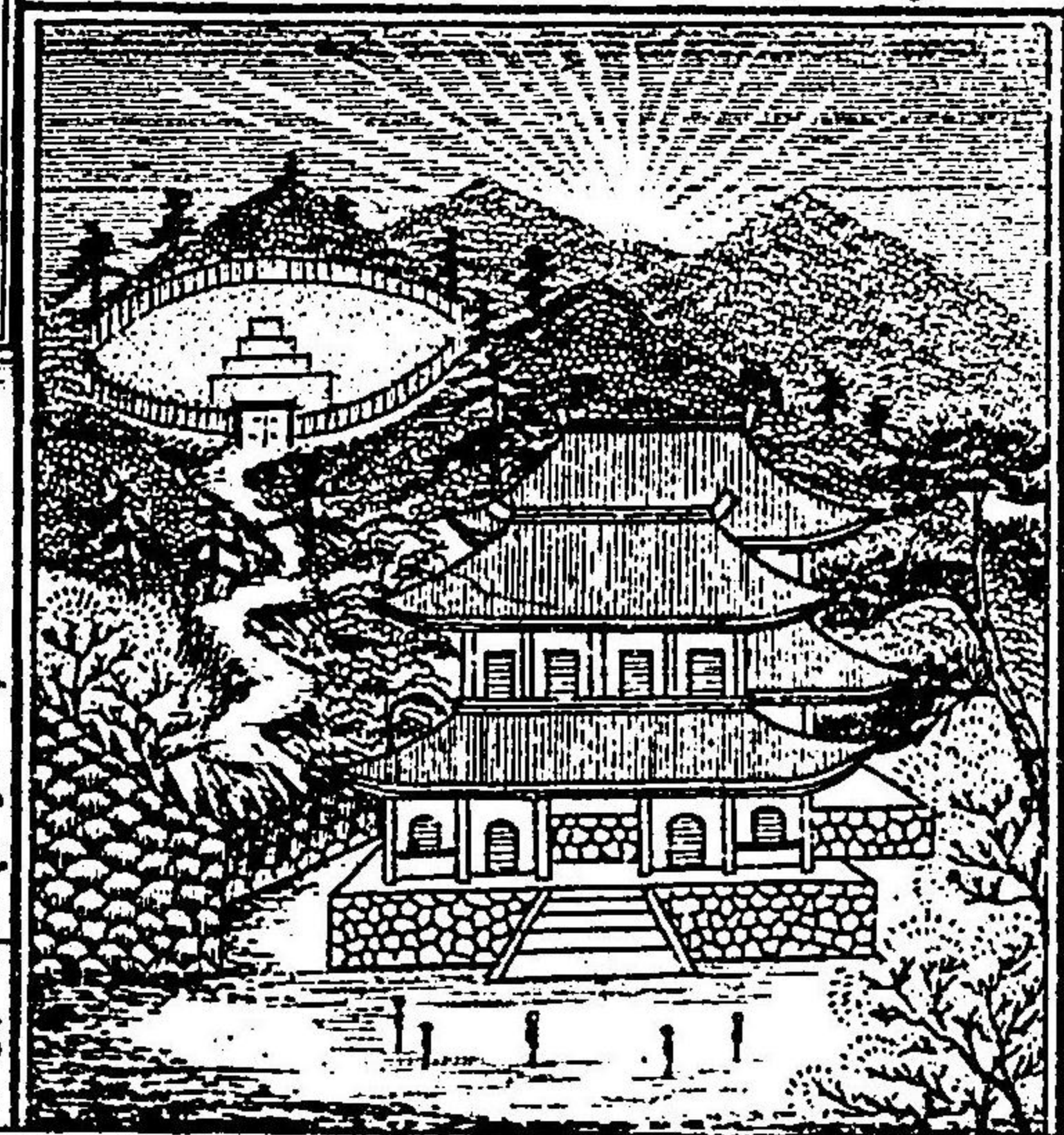
泉涌寺

愛宕郡今熊野村有

旧兼学宗弘法大師開基建保六年戊寅僧俊  
祐中興あり仁治年中より曆朝の御塔を建



是寺に泉涌水吹出す又當寺天子の官寺と  
 成人皇八十六代四條院推爽此後御代々帝  
 當山へ  
 葬り奉  
 る御廟  
 所なり  
 今熊野  
 觀世音  
 へ二丁  
 半



新熊野觀音

西国十五番札  
 所也真言宗本  
 尊ハ觀世音是  
 弘法大師の作  
 廿三間堂八丁



三十三間堂

京都市七條通り南より

七条通り南にあり天台宗蓮華王院頭痛山  
 平禰寺と号後白川院の御願也備前守平忠  
 盛を奉  
 行と  
 長兼元  
 年壬子  
 創建觀  
 世音千  
 體を作  
 堂合建  
 立に本  
 堂東向  
 也南北  
 六十二  
 間を二





間隔て柱を立るゆへは三十三間堂とよぶ  
 堂後、於て往昔矢數有大矢數の盃勝ハ新  
 今熊野觀音寺別當初て其後諸侯の家臣出  
 て射術の譽を争其後紀呂家臣和佐台八郎  
 来り総矢一万三千五十三の内通矢八千百  
 三十三矢數是今世迄第一なり

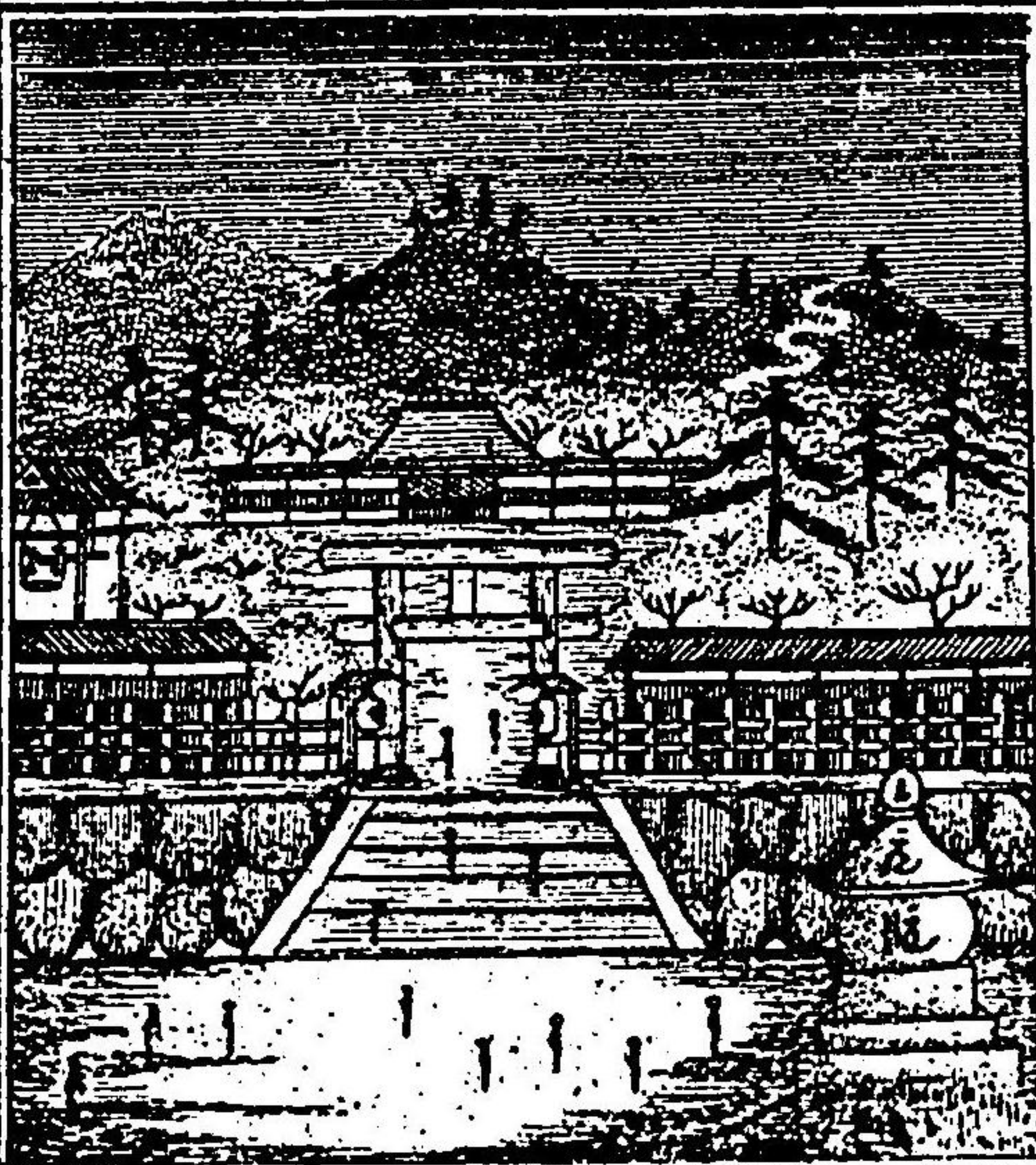


豊國神社

京都市大佛正面より

別格官幣社豊臣秀吉公を祭る慶長四年乙  
 亥四月豊國大明神の号を賜ふ官祭己九月  
 十八日明治十年四月十八日を私祭神幸を

再興する社内の萩滿植よりて秋ハ雅俗の  
 人飄を携へ共々は筵席を開き賑ふあり  
 是より  
 大佛方  
 廣寺ハ  
 社の北  
 あり  
 て續き  
 たり地  
 なり



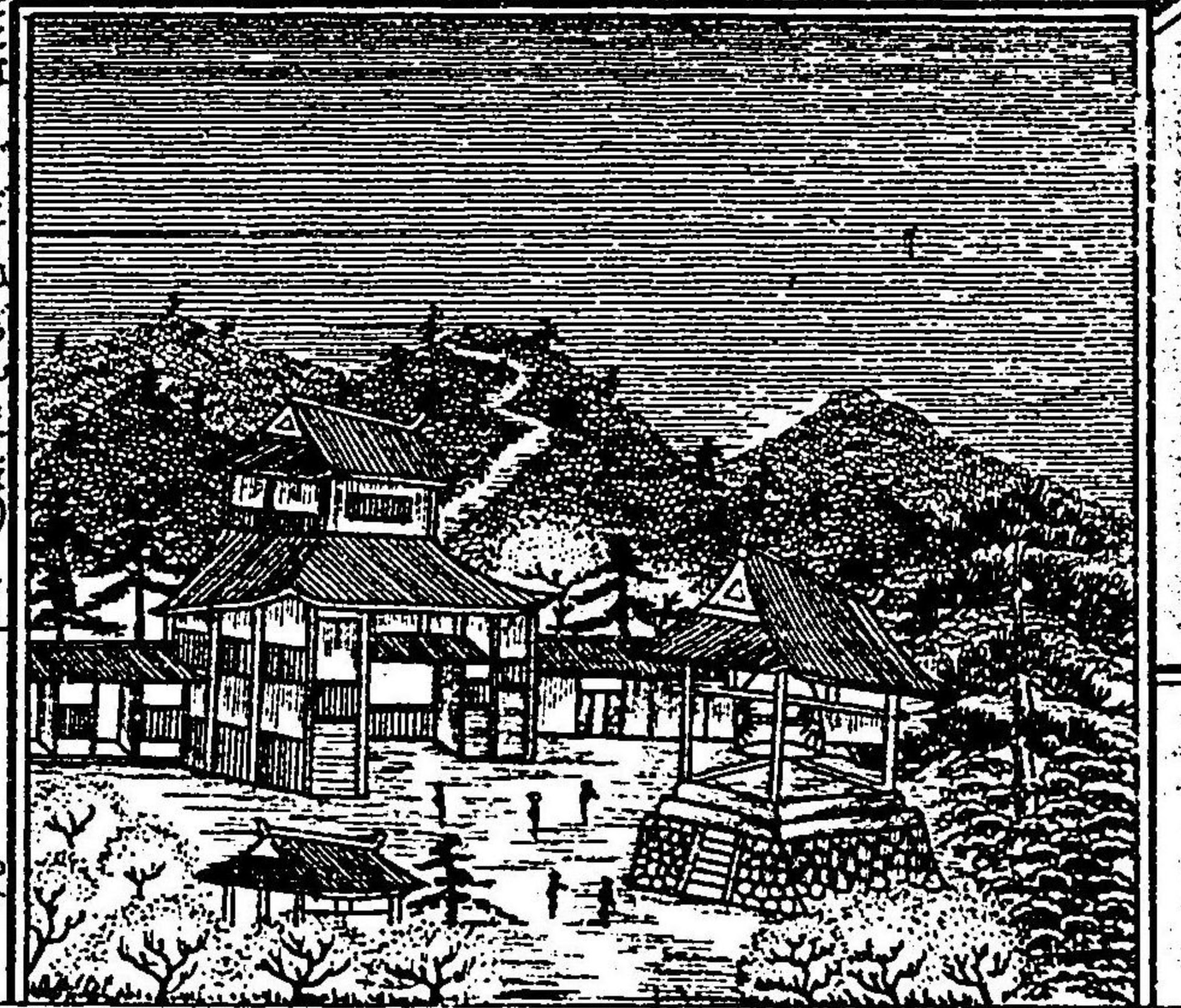
大佛方廣寺

京都市大和大路五条下ル四丁目

天台宗天正十四年丙戌豊臣秀吉公大仏殿  
 を建立す釈迦の大像高廿丈八尺餘あり殿の  
 高廿廿五丈斗寛政十年田禄其後半像を再  
 建す洪鐘高廿一丈四尺徑九尺二寸厚さ九  
 寸慶長十九年鑄る世に名高き鐘なり而



後明治二年鐘樓を毀ち鐘ハ露地ニ卸委す而して明治十七年九月上棟の式を行ふ後彼岸會等ニ之を撞む世ニ廣く利益す



耳塚

塚

右同所ニあり  
 文禄元年壬辰朝鮮征伐の時数万の敵合を討取則刺して日本ニ送り此ニ埋りし由ニ耳塚と云ふ塚の廻り百廿一軒高サ五間頂ニ

五輪塔を居屯此西の名物大仏饒家



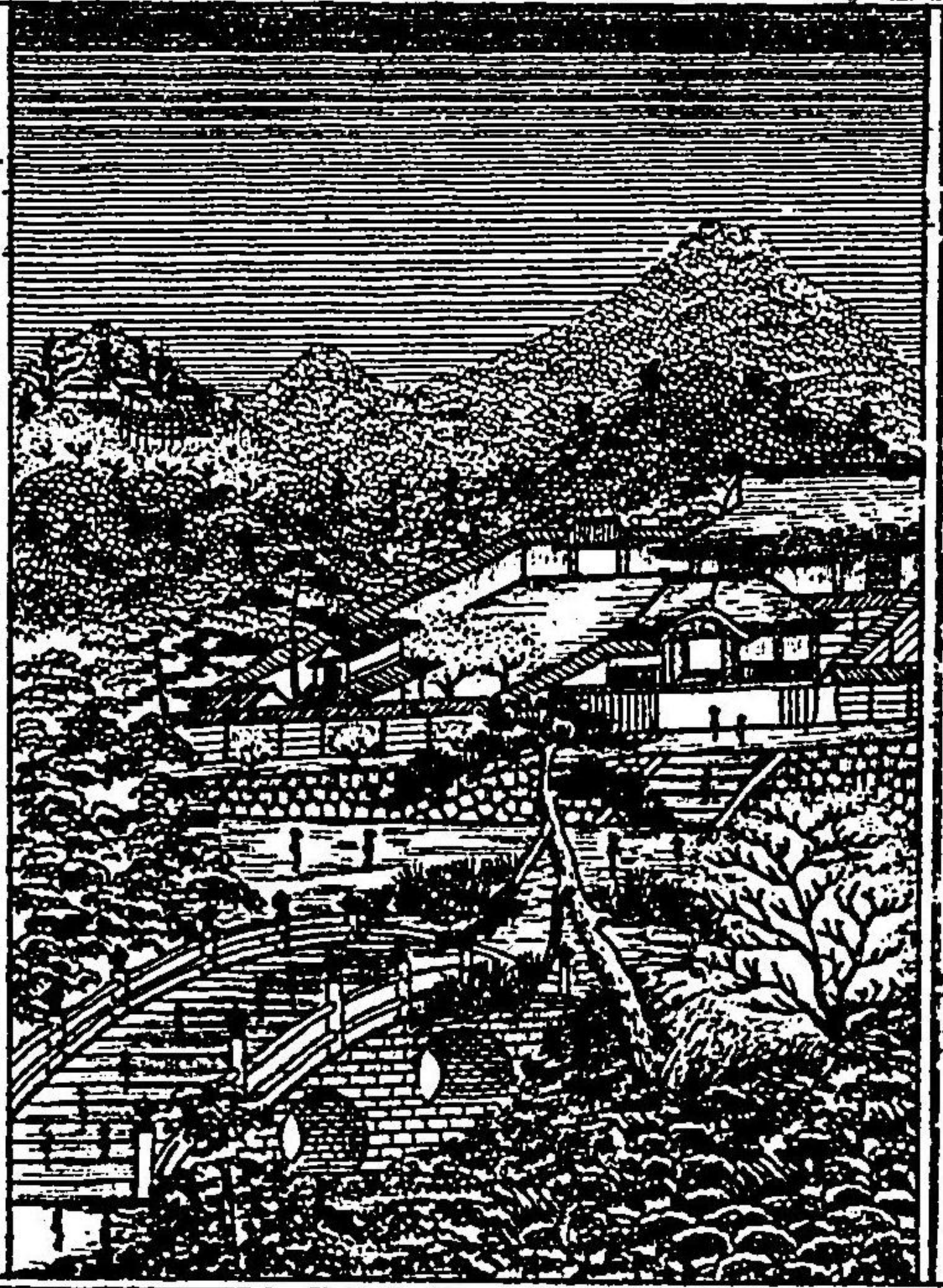
歌中山清閑寺

真言宗此寺楓樹多ク春秋景色宜シ

西大谷

愛宕郡清閑寺村ニあり  
 下京區五条橋東ニ有  
 真宗本願寺見真大師の廟所あり唐門前の池ニ紅白蓮を植へ白石の目おね橋あり東ハ鳥辺山通妙寺此ニおあゆん傳兵衛の墓あり是より清水へ近道あり 清水へ四丁

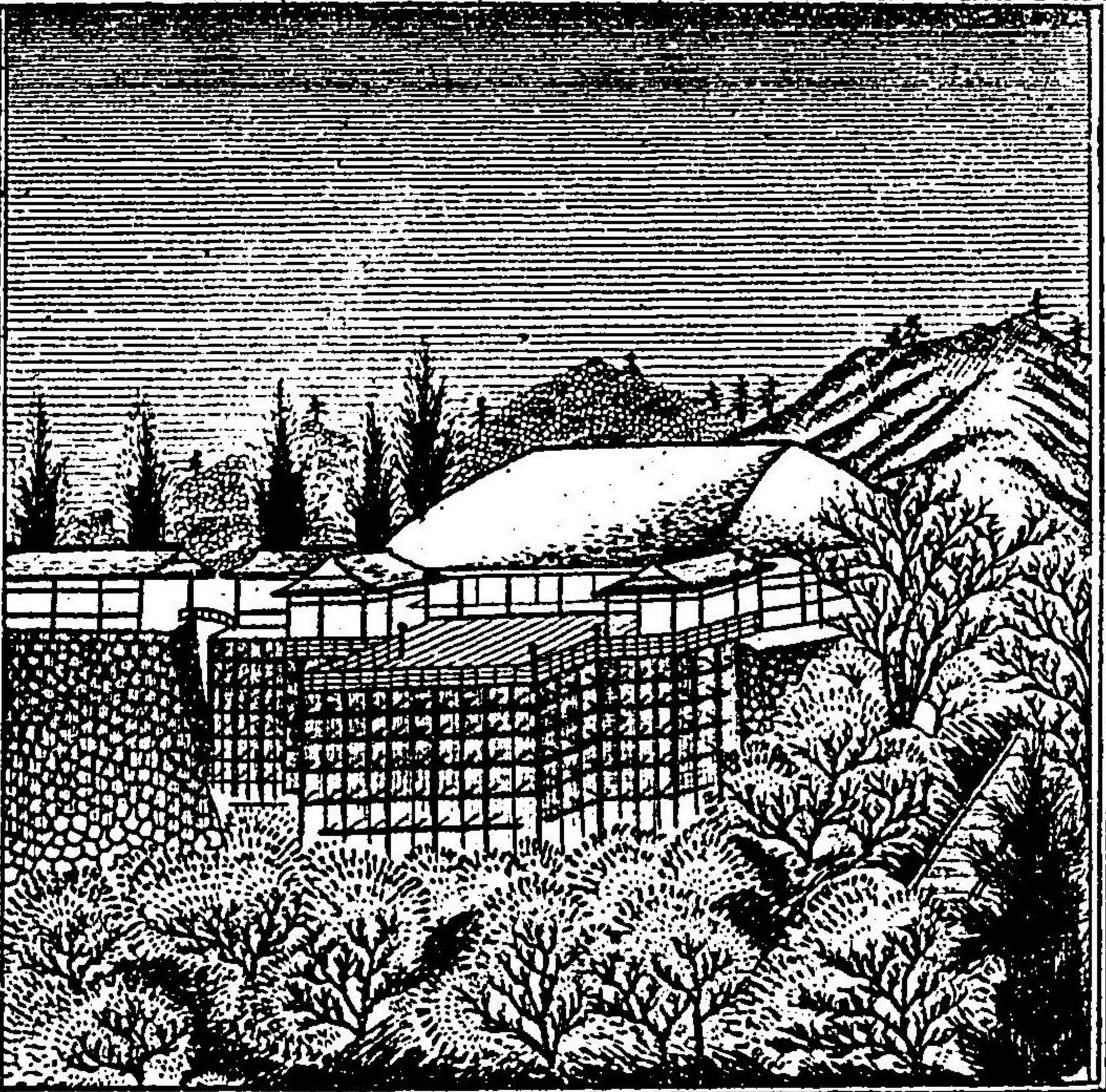




清水寺

京都市松原通実當より

真言宗宝亀十一年庚申僧延鎮草庵を此地に結ひ後大同二年坂上田村曆堂宇を創建す東夷征討の時當寺の本尊を祈り成就せり境内櫻木多し車宿里の花ハ古哥にも詠む山門より都下一覽景色よろし又まゝ樓下は音羽の滝あり世は名高し又門前に陶器店数多有府下銘産也 兩本願寺火葬場へ四丁



兩本火葬場

京都市小松谷潘谷越の南山腹

旧火葬場所々有を廢し明治十二年今の地を開諸宗共此地を送り行ふなり又土葬地ハ大仙山の南にあり地藏山よりなり又西の火葬所ハ安寺なり



二一 嶋 社

京都市小松谷の前あり  
當社ハ婦人安産護の社あり氏子者ハ一代  
饅を禁す此西ニ結信忠信の二塚あり

小 松 谷

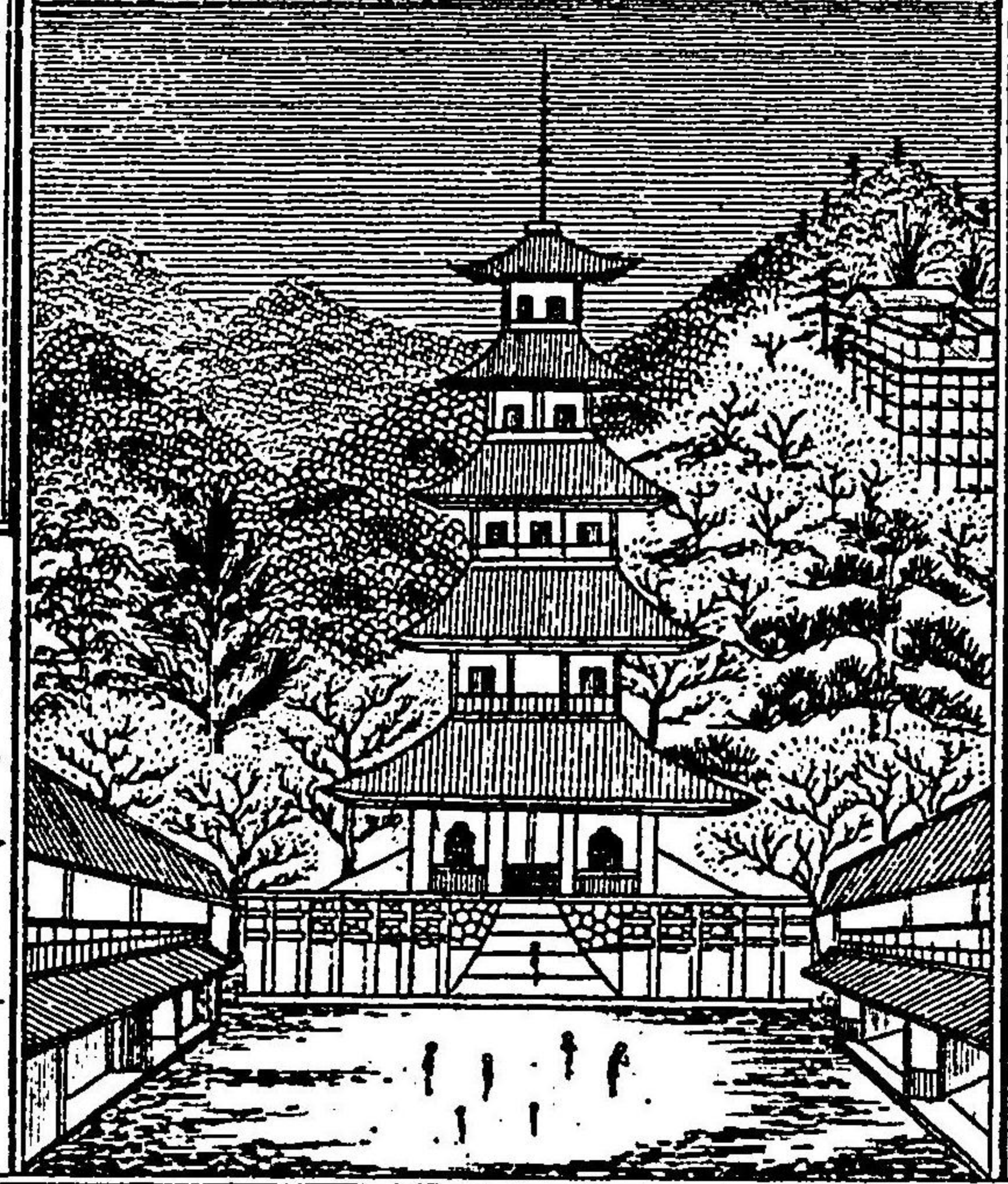
京都市真町通り東ニあり  
浄土宗惠空上人開基也本堂ハ殿舎造九条  
殿寄附樓門額ハ九條関白尚実公筆あり昔  
月輪禪定兼実  
公の御所地也  
法然上人ハ此  
殿御堂まをわ  
しす小松大  
臣重盛公の山  
莊ありて燈籠  
堂地なり



八 坂 塔

京都市下河原の南ニあり  
法觀寺と号す禪宗推古天皇の御宇聖徳太

子創建伽藍敷度田祿ニ属を今の塔ハ元和  
四年戊午の造営たり其昔淨藏貴所當寺の  
塔ハ傾きを祈直せしと云



靈 鷲 山

京都市清水三寧坂下ニ有  
時宗正法寺といふ傳教大師の開基中興國  
阿上人住一玉ふ當山勤王戦死の古今招魂  
墓多し



高臺寺

京都市下河原南より

禪宗僧古箴開山僧三江中興あり慶長十年  
乙丑豊臣秀吉公並に北政所の靈舎あり結



構美を盡せり又時雨茶屋傘の亭ハ千利休  
好む所あり古ハ雪岳寺と号す也本尊ハ  
釈迦如来又方丈の唐門ハ秀吉公の船樓  
あり先年焼失境内ハ萩の名所世に聞  
ゆ所此頃諸人群集せり

双林寺

京都市東山ニあり

時宗として至徳年中國阿上人開基あり  
阿法師康頼入道も此処に寓居を西行庵又  
芭蕉堂あり  
て文人雅客  
常と相集る  
後柏原天皇  
宸翰を洩給  
ふ中興開山  
の縁記世に  
おとゆ



東大谷

京都市下河原祇園南より

真宗東本願寺所轄見真大師の廟所元禄年  
中の造営あり竜谷山の額王寂如上人の筆  
又開山大師往生の地なり虎石今此所  
存す  
長乐寺へ一丁





長樂寺

京都市東山より

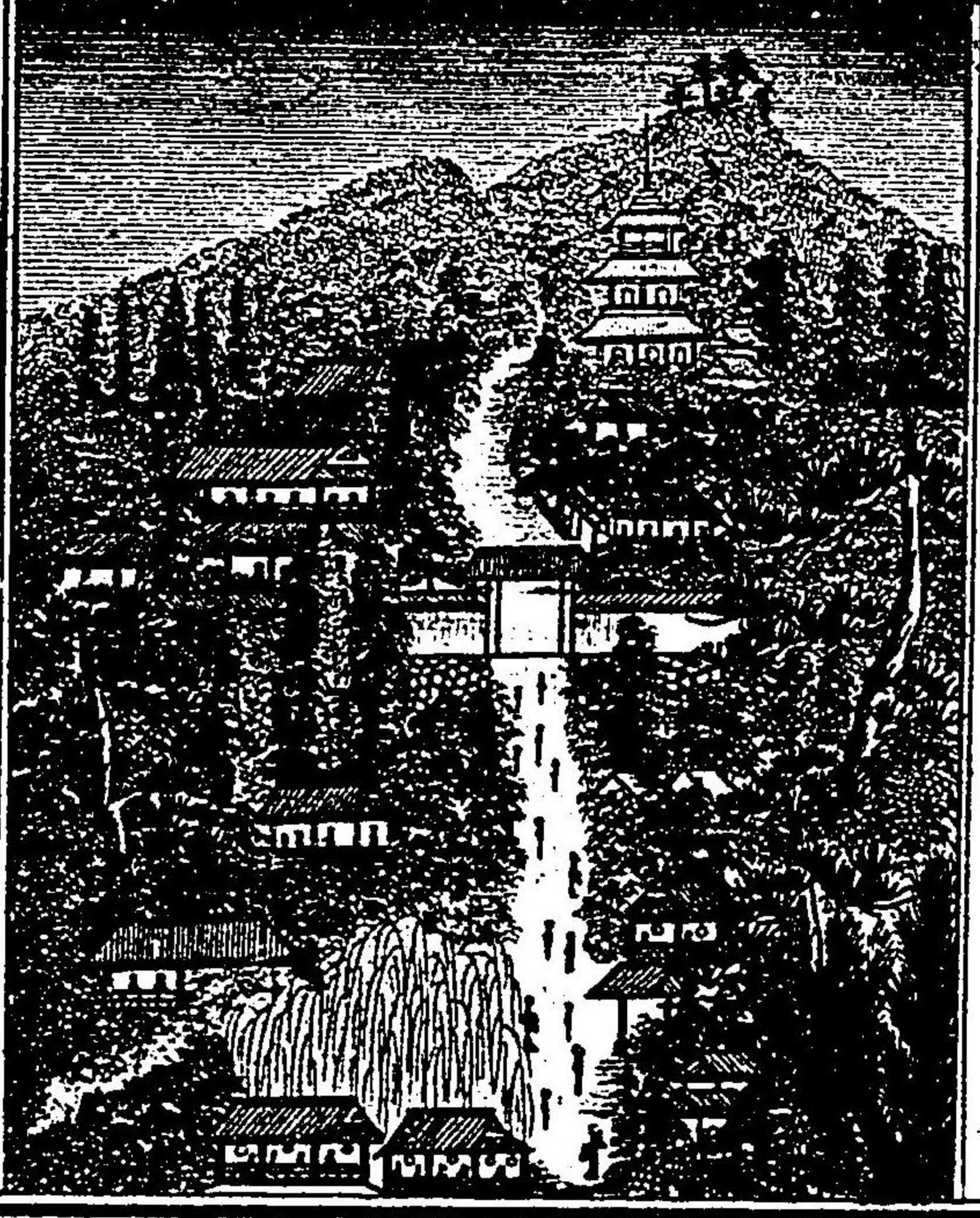
時宗延暦十二年癸酉桓武天皇の勅命によつて傳教大師創建せし安徳天皇御衣の幡ハ建礼門院帰洛の後御落飾あり時戒師印誓上人へ御布施を賜ひ天皇の御衣を幡とす山内温泉場あり此所料理屋又茶店多

圓

山

京都市東山より

時宗安養寺々中正阿弥左阿弥端之寮寺あり各院より都下を一説し花雪の朝暮絶景他一類ふし又好所は應じて歌舞を呼佳有を興せ諸参會ハ此地は詠る自由なり又山内は弁天の社傍は吉水井あり



八坂神社

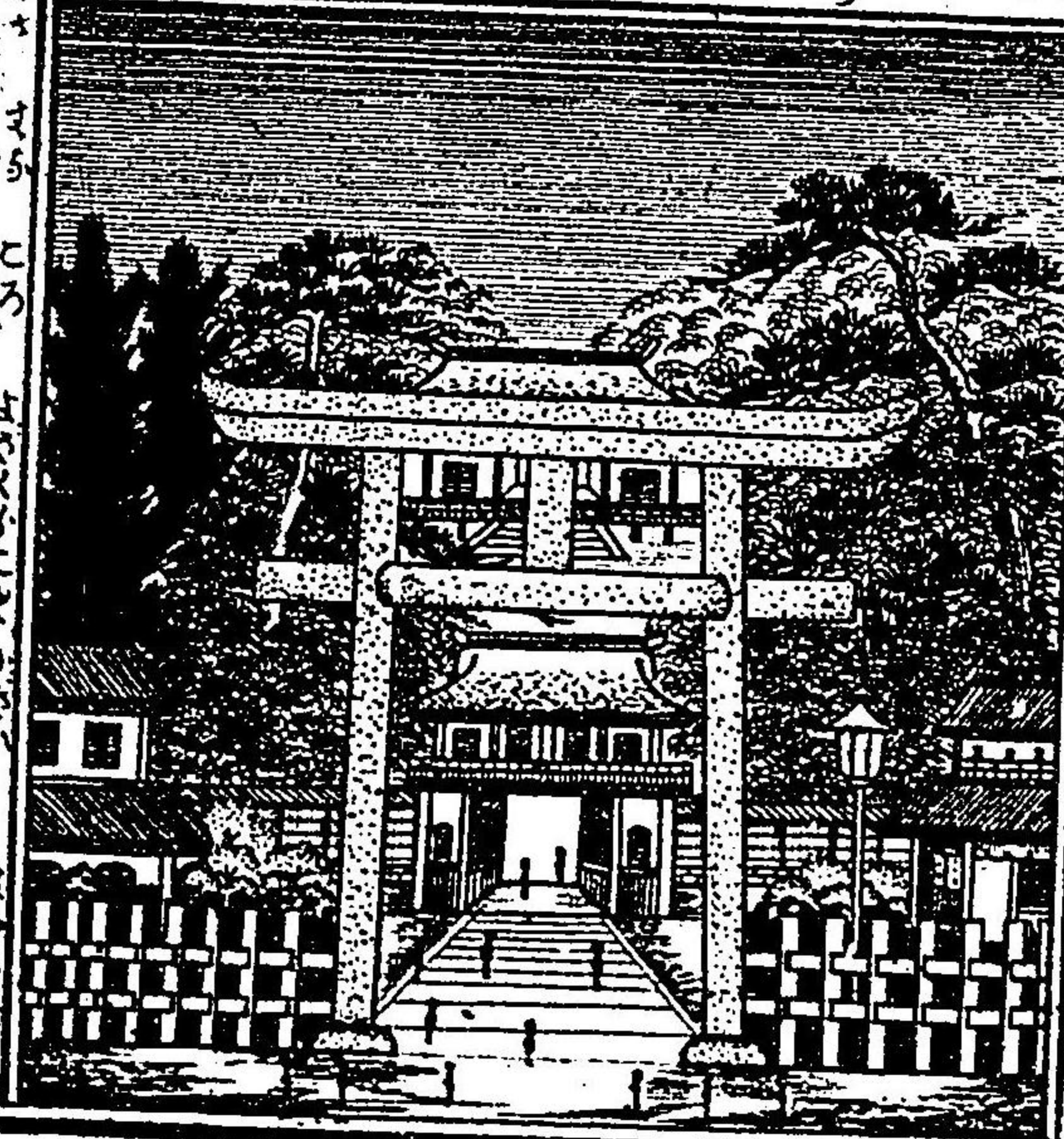
京都市四条通り川東より

旧祇園社寺と稱せ官幣中社素戔鳴尊を始



十桂の神を祀り元慶年中創建あり官祭ハ  
 六月十五日私祭ニ七月十七日同廿四日山

鉢を  
 出さ  
 此祭  
 本日  
 無  
 双の  
 神夏  
 境内



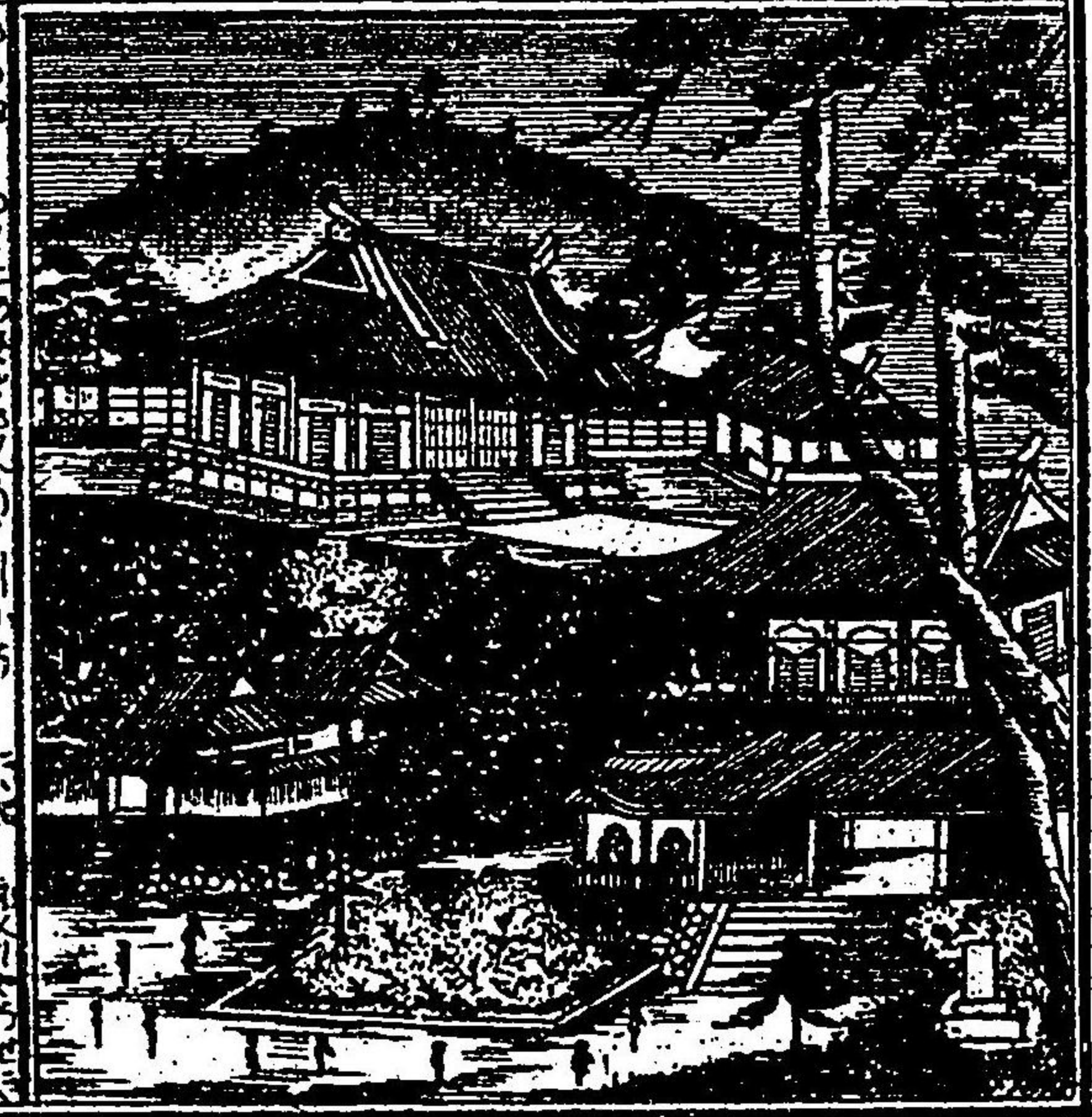
境内  
 櫻木多一花の頃ニ夜櫻殊ニ賑ヘリ又門外  
 ハ祇園町と云ふて世名高き遊里なり

知恩院

京都市白川橋三条南ニ有

浄土宗建暦元年辛未慈鎮和尚此寺を源空  
 上人ニ寄附す美安四年甲午開基あり洪鐘

高之  
 一丈  
 八尺  
 巨り  
 九尺  
 厚九  
 寸九  
 分例  
 月設



教日此鐘を撞此音三里四方ニ轉ル九生石  
 鍤磐石有り糸櫻淺櫻名高ク多ク

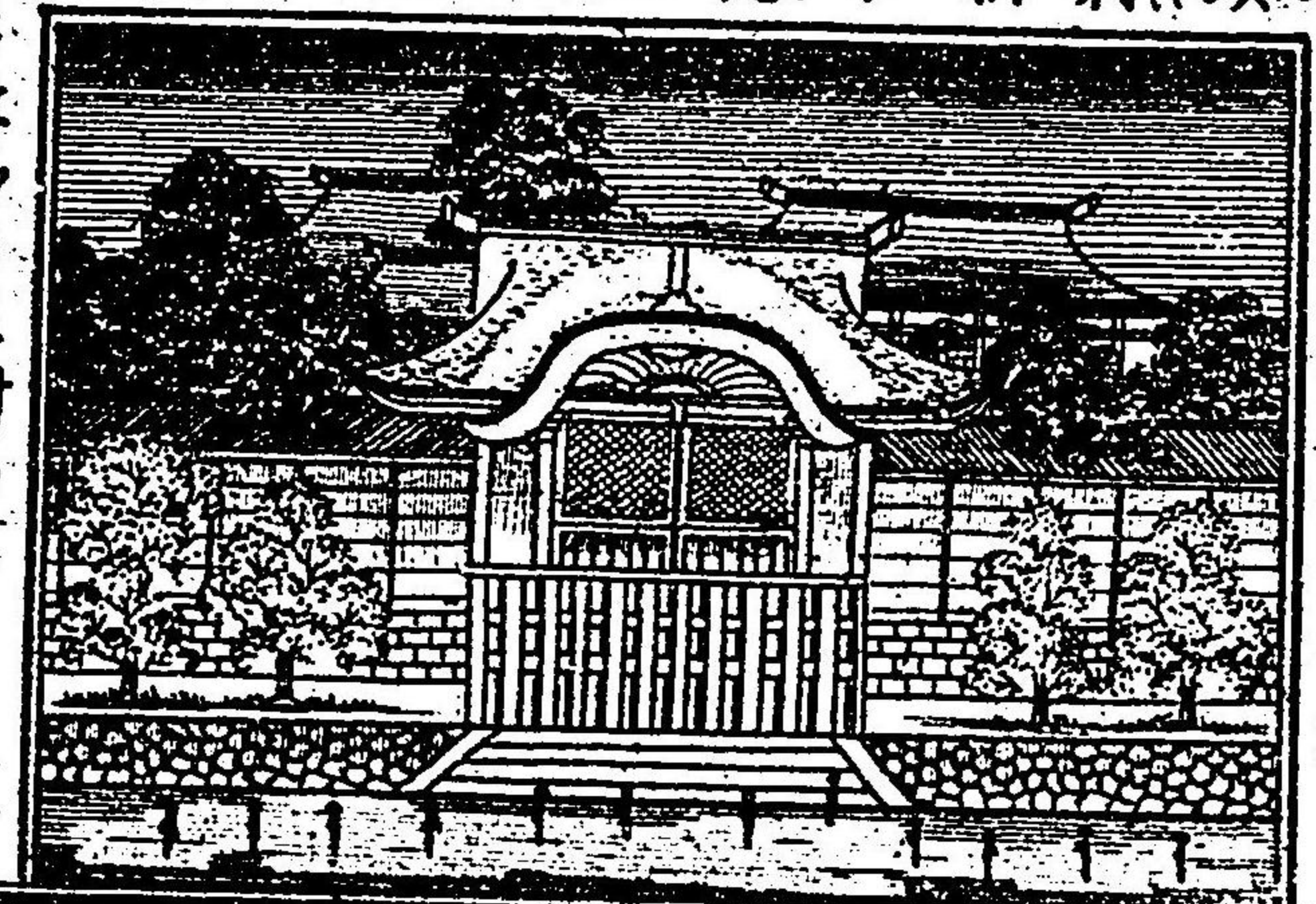
植髮堂

京都市三条通白川橋南ニ

抑此尊像ハ人皇八十代高倉院御宇承安三  
 年ニ聖人誕生一垂ヒ御父ハ大職冠鎌子大  
 臣苗孫有範遺世の御母ハ八幡太郎義家此  
 嫡子對馬守義親の息女あり聖人幼年より

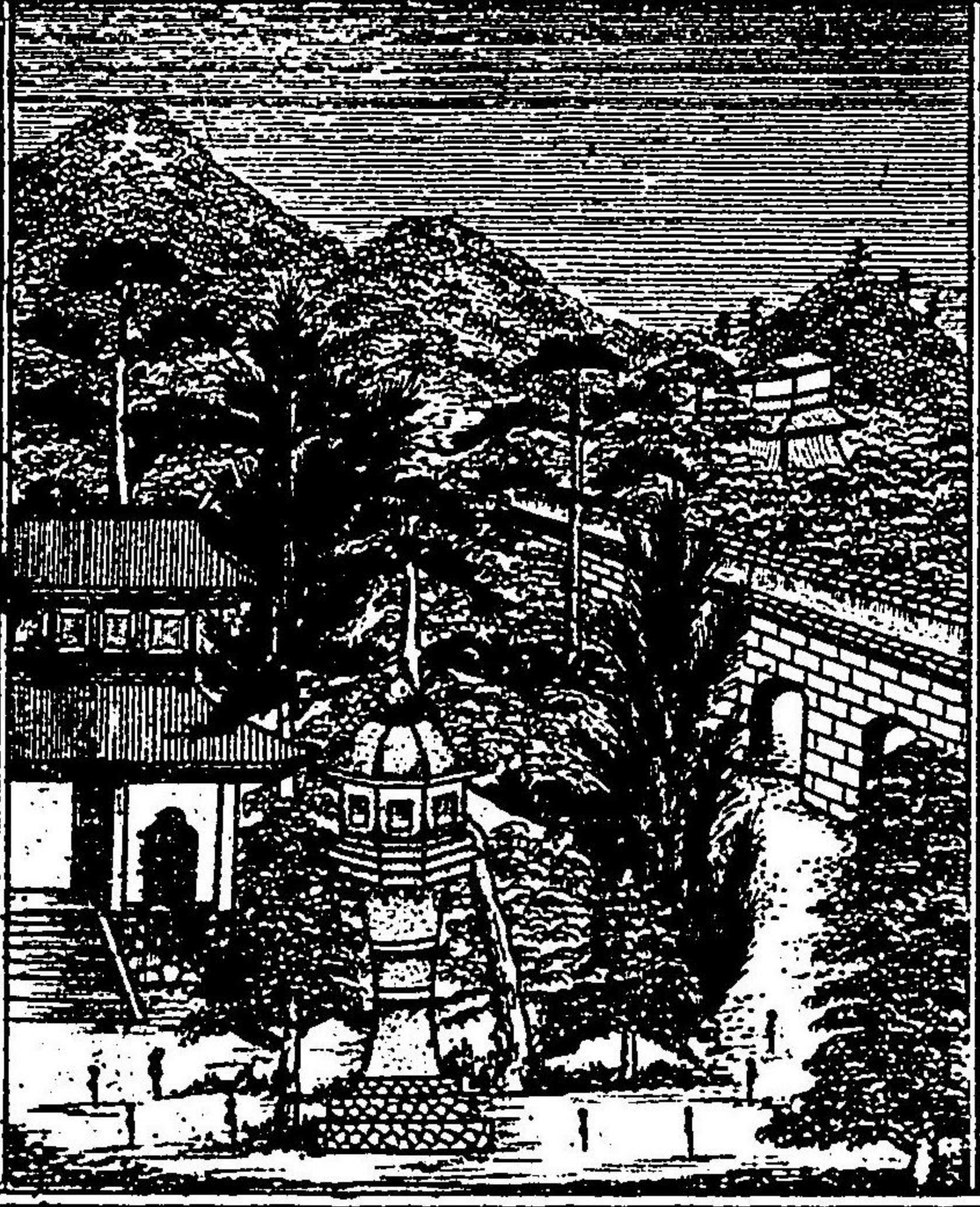


出離遁世の志願ありけき九歳の春青  
 蓮院慈鎮和尚の許りて翠の髪を薙玉ひ御  
 弟子となり範宴少納言御と申ける夫より  
 敵敵無動寺に登り天台止観を明め遂に推  
 行を捨て易行に赴き本願念仏の一流を私  
 通し玉ふ慈鎮  
 和尚聖人の剃  
 髪し玉ふ御額  
 をりりしをの  
 れかの翠の髪  
 を御頭に禿置  
 せらる是を植  
 髪の尊影を号  
 し一宗の門俗  
 渴仰日よま  
 て繁昌の靈地とをありしけり



南 禪 寺

愛宕郡南禪寺村より  
 禪宗僧晋門開基正應四年辛卯龜山上皇離  
 宮を捨て是寺を創建あり山門前より高さ二  
 丈余の石燈籠あり銘曰佐久間大膳亮平勝  
 之寄進之云々とぞ 永観堂へ四丁



金 地 院

右今所表門より  
 金地院は御宮ありて白砂は風凰竹を植



る又 駒が 滝ハ 東の 峰獨 秀峯 乃在 なり



永観堂

右南禅寺の二丁北有

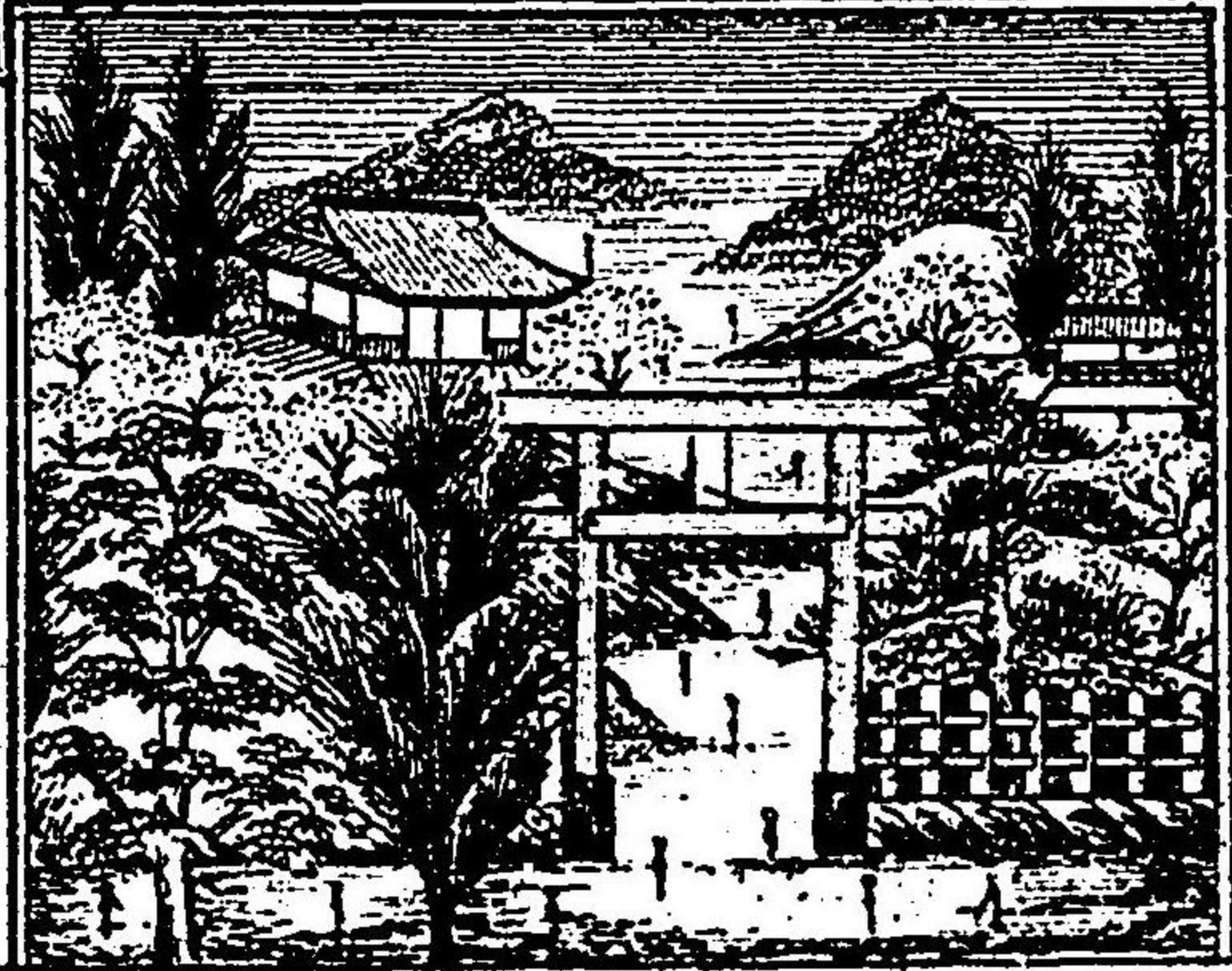
浄土宗禅林寺と号に清和天皇の勅願より  
 て真紹僧都の創  
 建あり 永観律師  
 中興又境内蓮池  
 の辺楓樹紅葉の  
 頃と景色より  
 若王寺へき丁



若王子社

愛宕郡若王寺村より

後白川法皇の勅願より創建素と修験  
 兼職の寺也し御一新後社とある後の山  
 三ヶの温泉あり  
 又聖護院は属に  
 本社熊野三社若  
 一王子鎮座に那  
 智山本地十一面  
 観世音安置す境  
 内ハ四季の景色

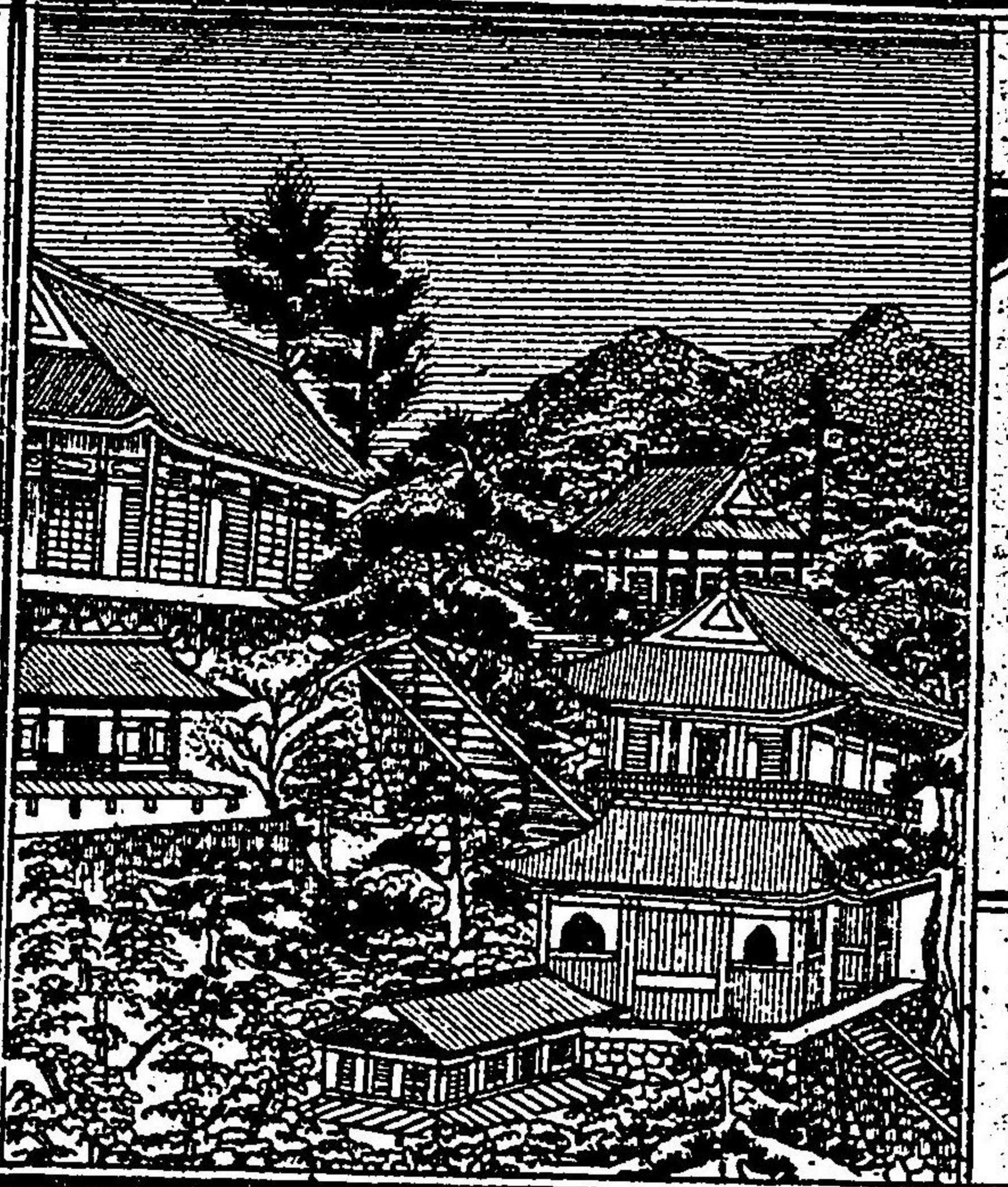


黒谷

愛宕郡岡崎村より

金戒光明寺と号に浄土宗圓光大師開基安  
 元元年乙未創建なり初の白川禪房と称す  
 後宇多天皇今の号を給ふ境内は紫雲石又  
 ハ無官大夫敦盛熊谷次郎直実の両塔あり





眞如堂

眞正極樂寺と稱す  
 天台宗僧戒基因基  
 正暦三年壬辰東三  
 条院皇太后離宮を  
 捨て此寺を創建す  
 り 吉田へ四丁



聖護院

京都市丸太橋東より

開基ハ智証大師中頃より三井の御門主法  
 親王御住職ノ給ひ修驗道を兼て山伏を管  
 領ノ給ふ凡山伏ハ天台真言の二流あり  
 天台ハ當御門主ニ屬是を本山とす  
 真言ハ醍醐三室院ニ屬此を當山と  
 すハ熊野三山の檢校ハ天治年中僧正行  
 尊を其初とす



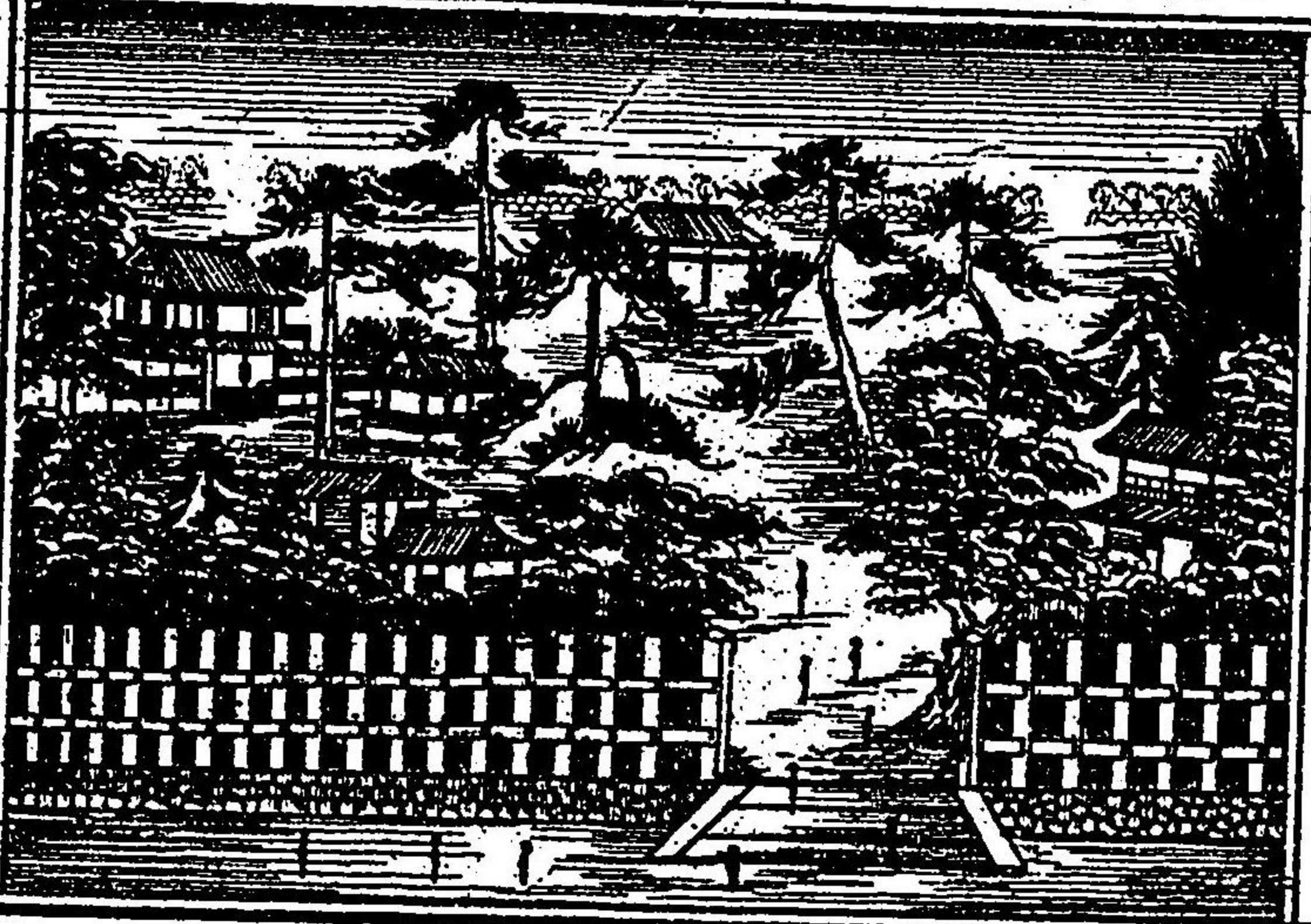


熊野推現

京同町の西なり

當宮ハ後白川上皇の勅願ありて熊野新宮  
を勅請し給ふ初めハ對境廣くして宮殿は

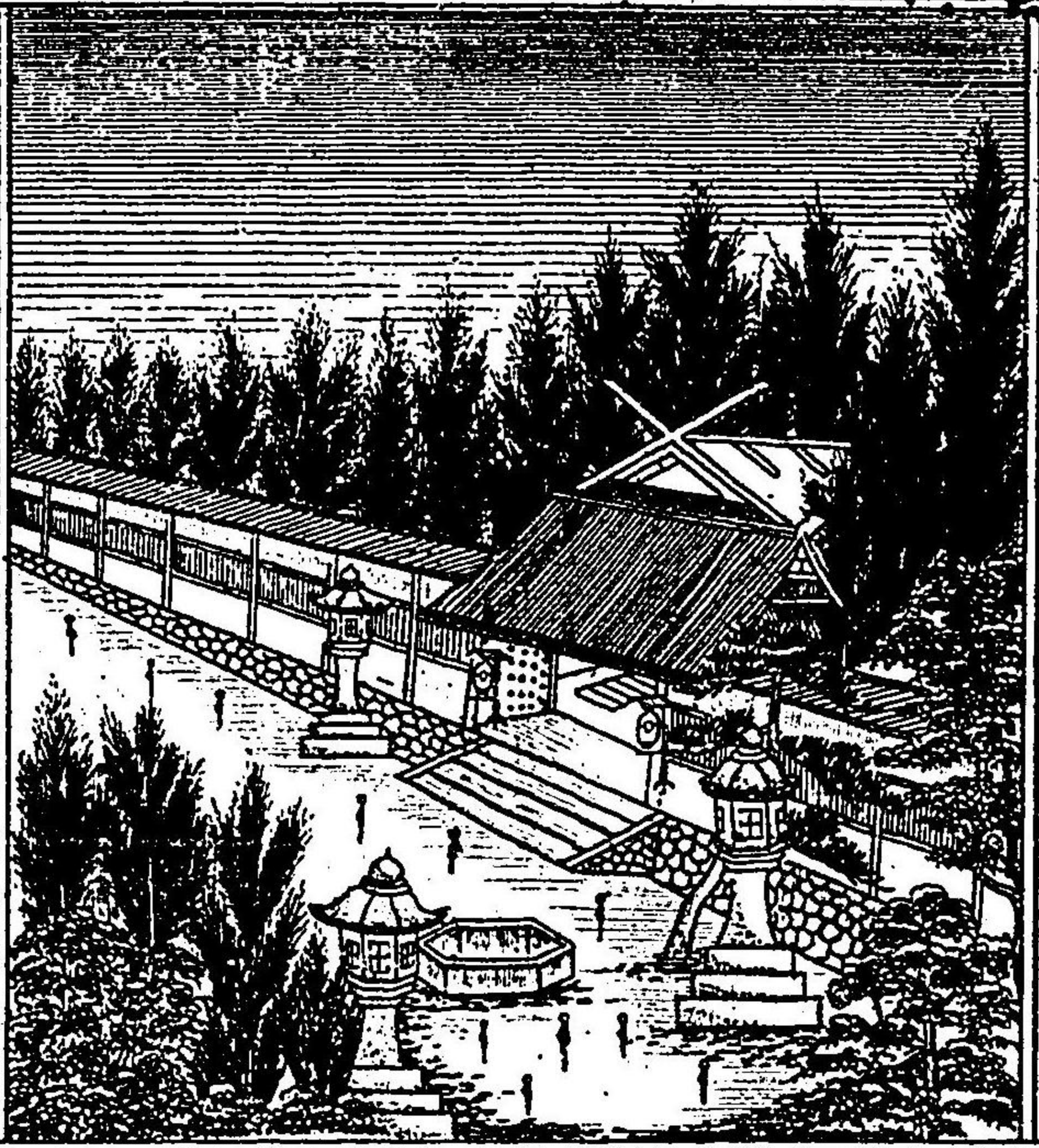
ハ金沙を  
鏤め樓門  
廻廊後舎  
經堂巍々  
たり惣ト  
て此社ハ  
方境廣か  
らすとい  
へども老  
樹森々ト  
して木陰  
蔭鬱ト  
炎暑の時納涼の地なり



吉田神社

愛宕郡吉田村あり

神樂岡と稱せし官幣中社武甕槌經津主神天  
兒屋命姫神を祭る仁壽元年辛未創建撰社



又日本國中三千六十三神を勅請せ當社大  
額ハ嵯峨帝宸筆小額ハ後土御門帝宸筆  
なり是より銀閣寺ハ十四丁



銀閣寺

愛宕郡浄土寺村あり

東山慈照寺と云ふ禪宗夢窓國師を閑祖と  
す庭に銀閣あり石泉の爪色佳美なり后



の山を如意ヶ  
嶽と云い  
例年八  
月十六  
日の夜  
大文字  
を點火  
此山を俗に大文字山と云

詩仙堂

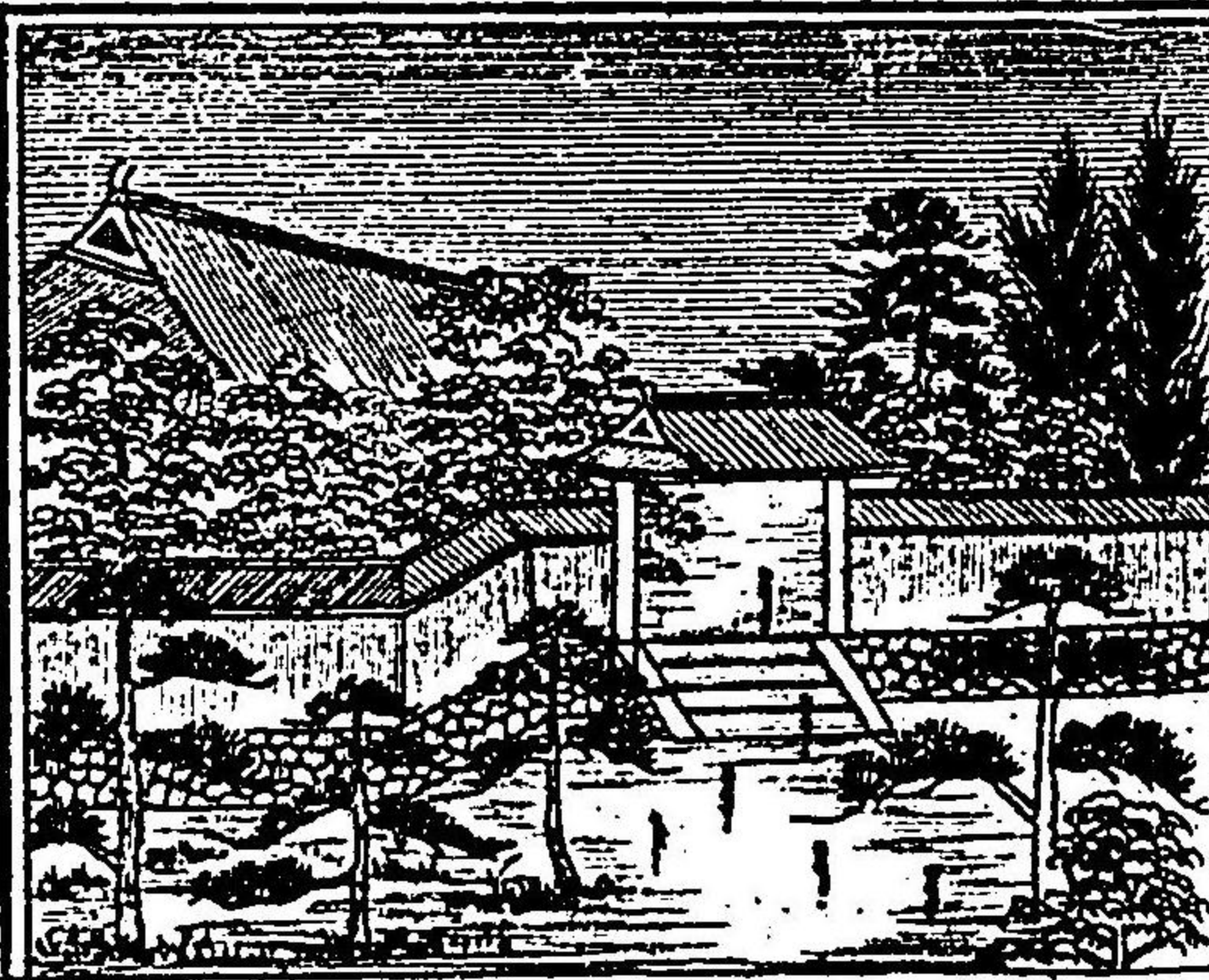
愛宕郡一乗寺村あり

黄檗宗此所を鴻儒石川火山の別荘也其由  
縁を畧す

百萬遍

愛宕郡田中村あり

知恩寺と号を淨  
土宗法然上人開  
基建久年中洛中  
に創建せしが後  
寛文中今の地  
に移す弘法大師  
筆利劔の大名号  
又宋尔玉平相國  
清盛の古品由来あり

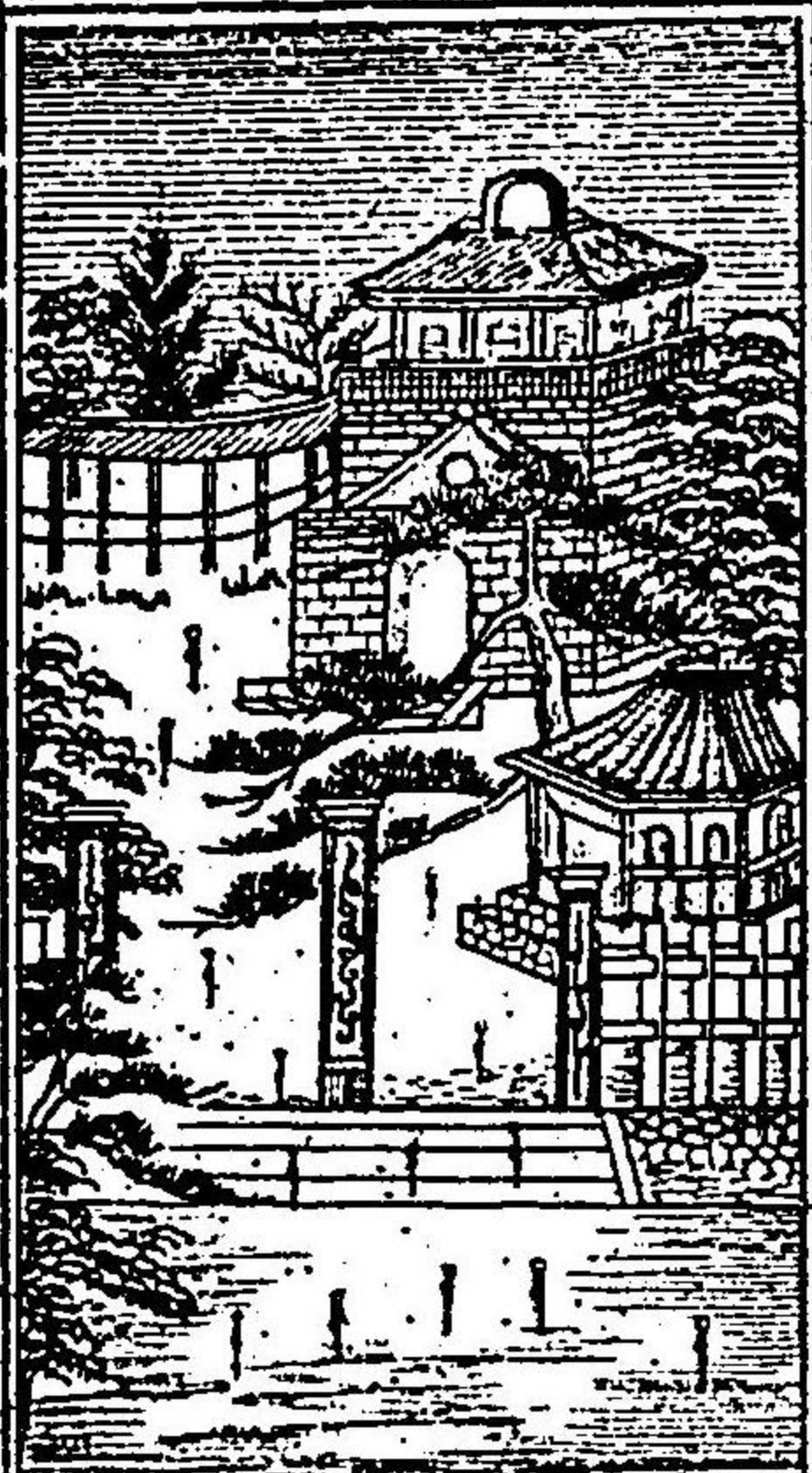


療病院

京都市河原町廣小路あり

今ハ西洋造りを頗る美觀なりこの院の

地京都  
医藥校  
在りて  
他府縣  
より塾





生沢山来るなり

護王神社

高雄山より

別格官幣社祭神ハ和氣清麻呂の靈を祀る

給ふ也元

社高雄山

有を明

治十九年

十一月三

日當地置



梨木神社

京都市寺町通荒神口上ル梨木町あり

別格官幣社

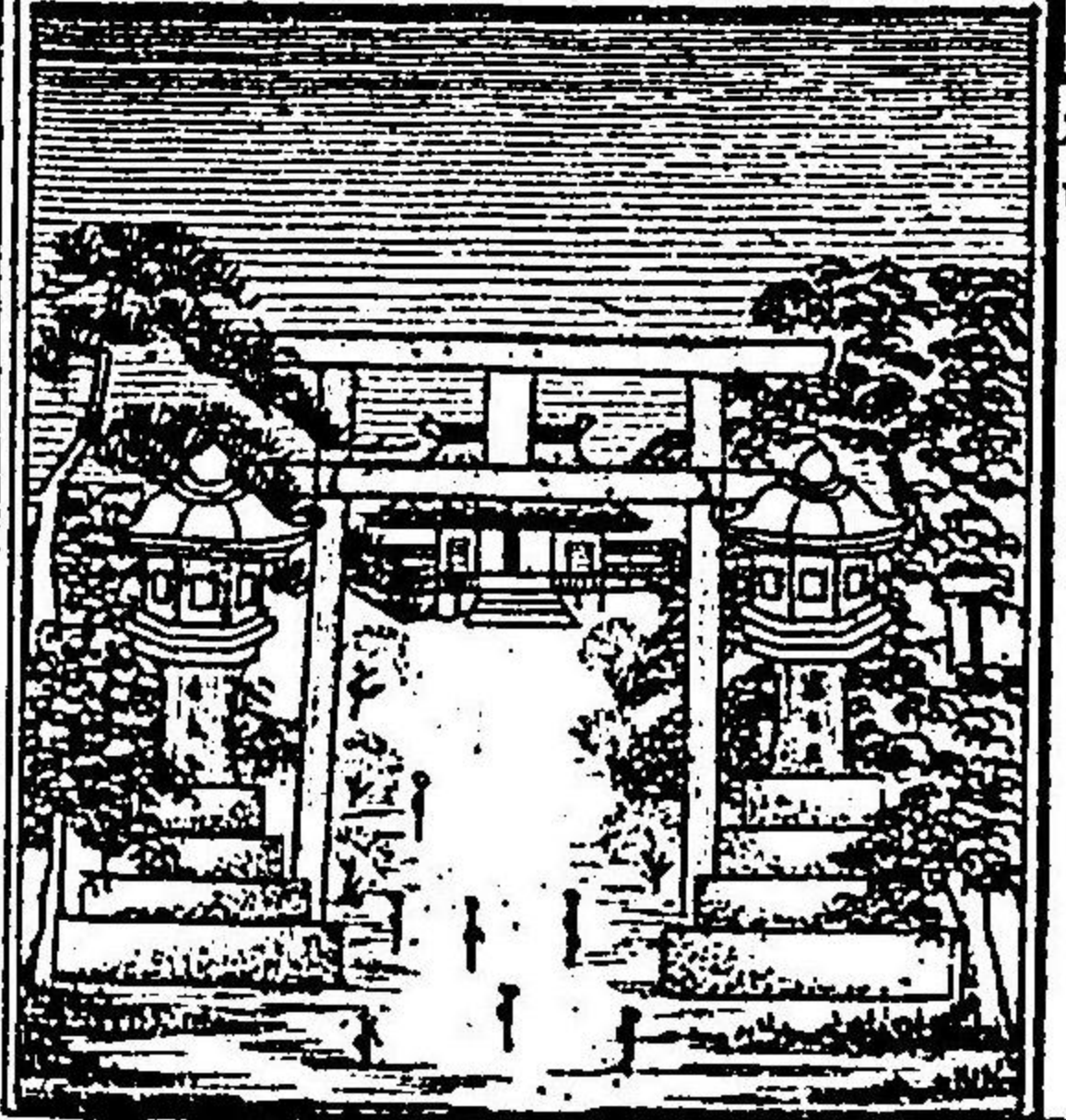
て御祭神ハ藤原

忠成公の灵を祀

り給ふ也當社ハ

明治十八年九月

創建あり



中學校

京都市寺町通九太丁上ル処

此校ハ英仙獨等の洋学を教授する場管内

ハ勿論

他縣の

者たり

共入校

を許さ

る其造

美あり



下御霊社

京都市寺町通竹屋丁上ル

貞觀五年癸未崇道天

皇伊豫親王藤原夫人

吉子橋逸勢文屋田宮

營を祭る享保十七年

癸子十一月遺勅依

て靈元天皇を合祀す



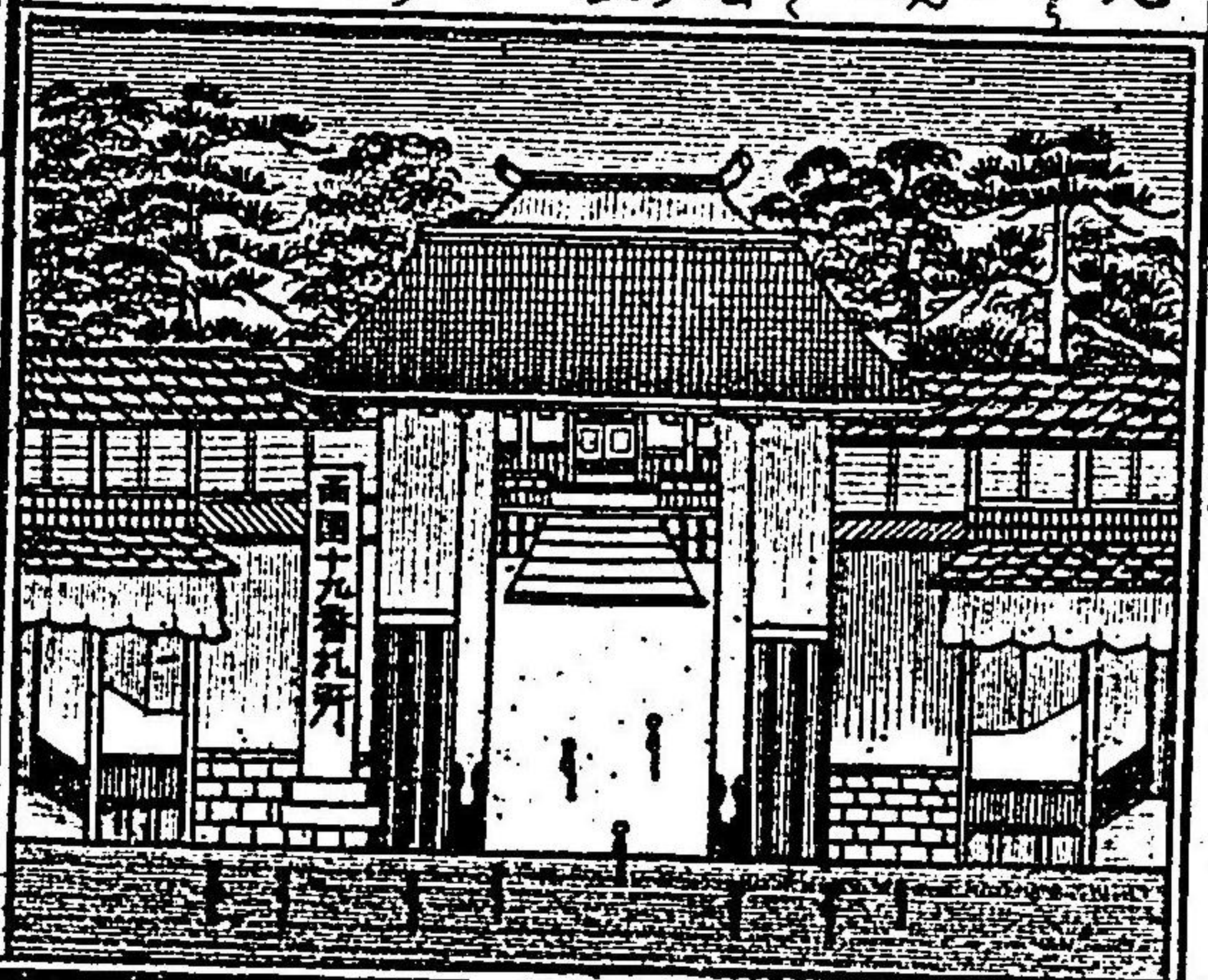


革

堂

右同所の下どるり

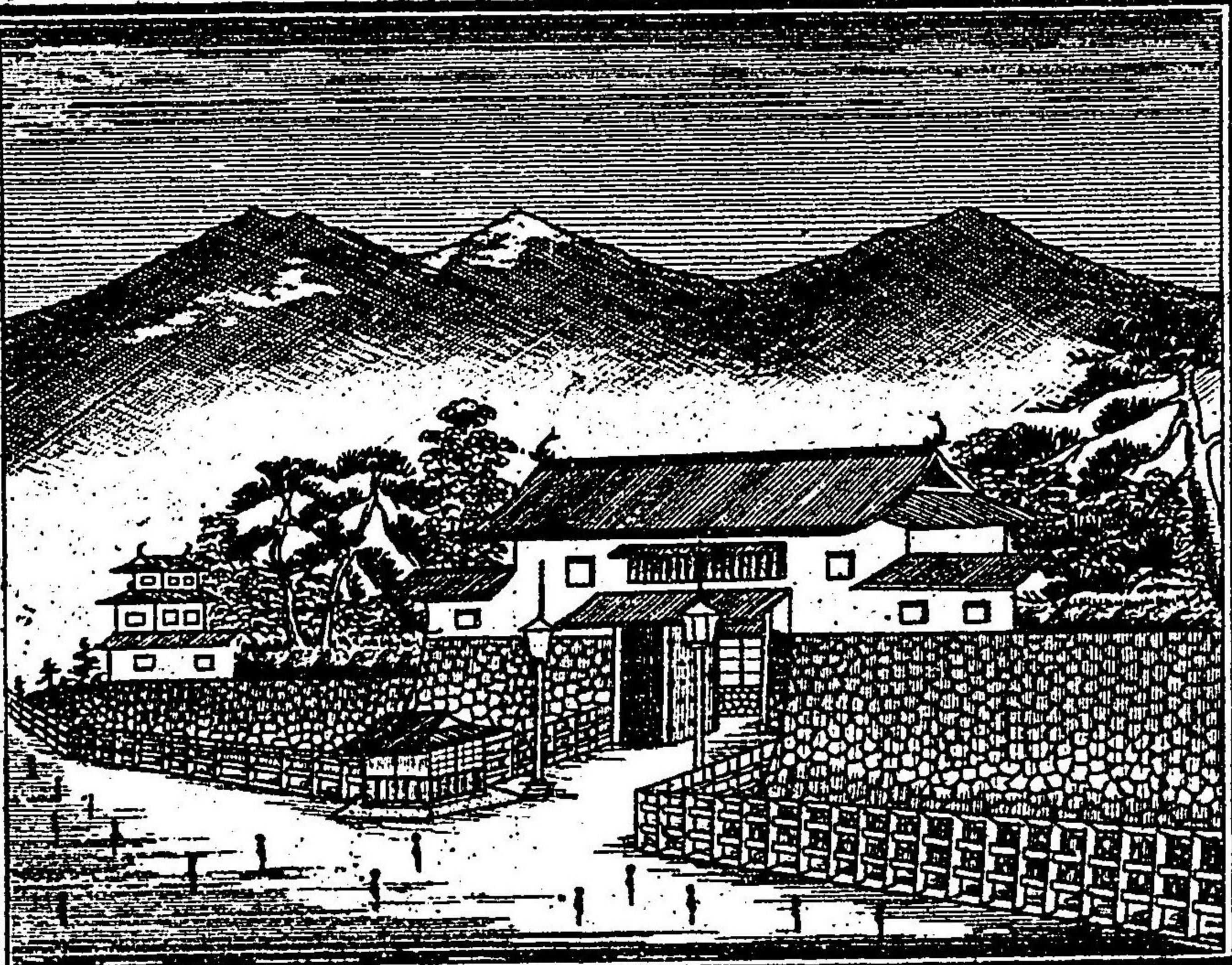
天台宗寛弘元年甲辰行田上人創建也行田常は革衣を着せし故に革堂の名を呼当寺ハ昔一条新町の西より西国十九番札所



旧城 離宮

市内二条堀川より

永禄十二年己未織田信長公御造営同四月信長公義照公と共に岐阜より歸らる其後一旦破壊せしを慶長七年今の錦城を築く御一新の際暫く太政官代とあり暫く政府を置り今ハ離宮と位置りるあり



本國寺

京都市松原通堀川西より

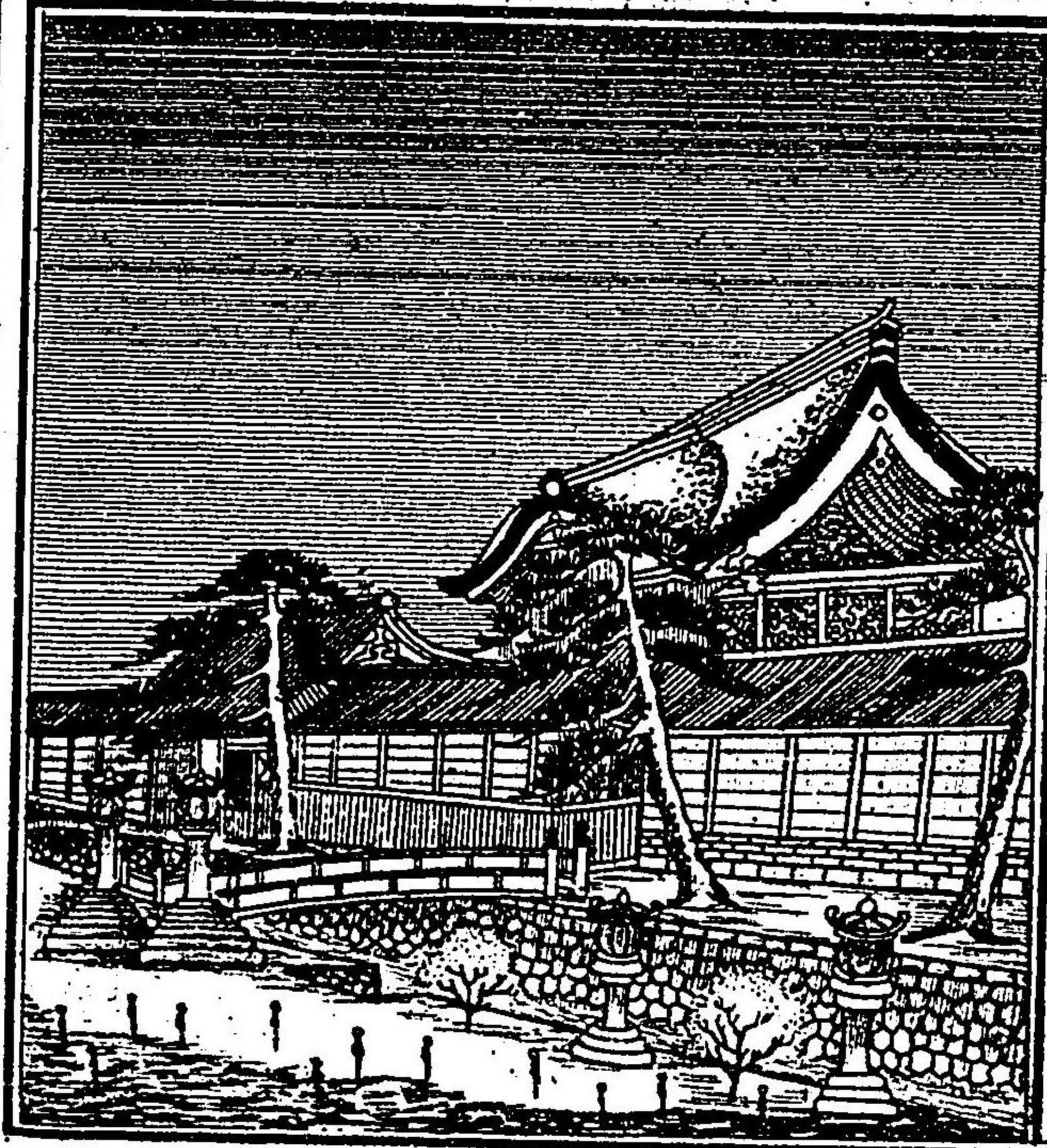
日蓮宗由未を畧す



西本願寺

京都市堀川通六条より

真宗文永九年壬申見真大師の息女覚信吉水と創建せり。後天正十九年大坂より今の地に移す。本尊ハ開山自作世ハ骨肉の御影と云ふ。庭前ハ飛雲閣あり。石泉美観あり。世ハ名高し御庭なり。



眞正寺

京都市六条通より

真宗本尊ハ安阿弥作なり

大教講堂

京都市六条通本願寺台所門前あり

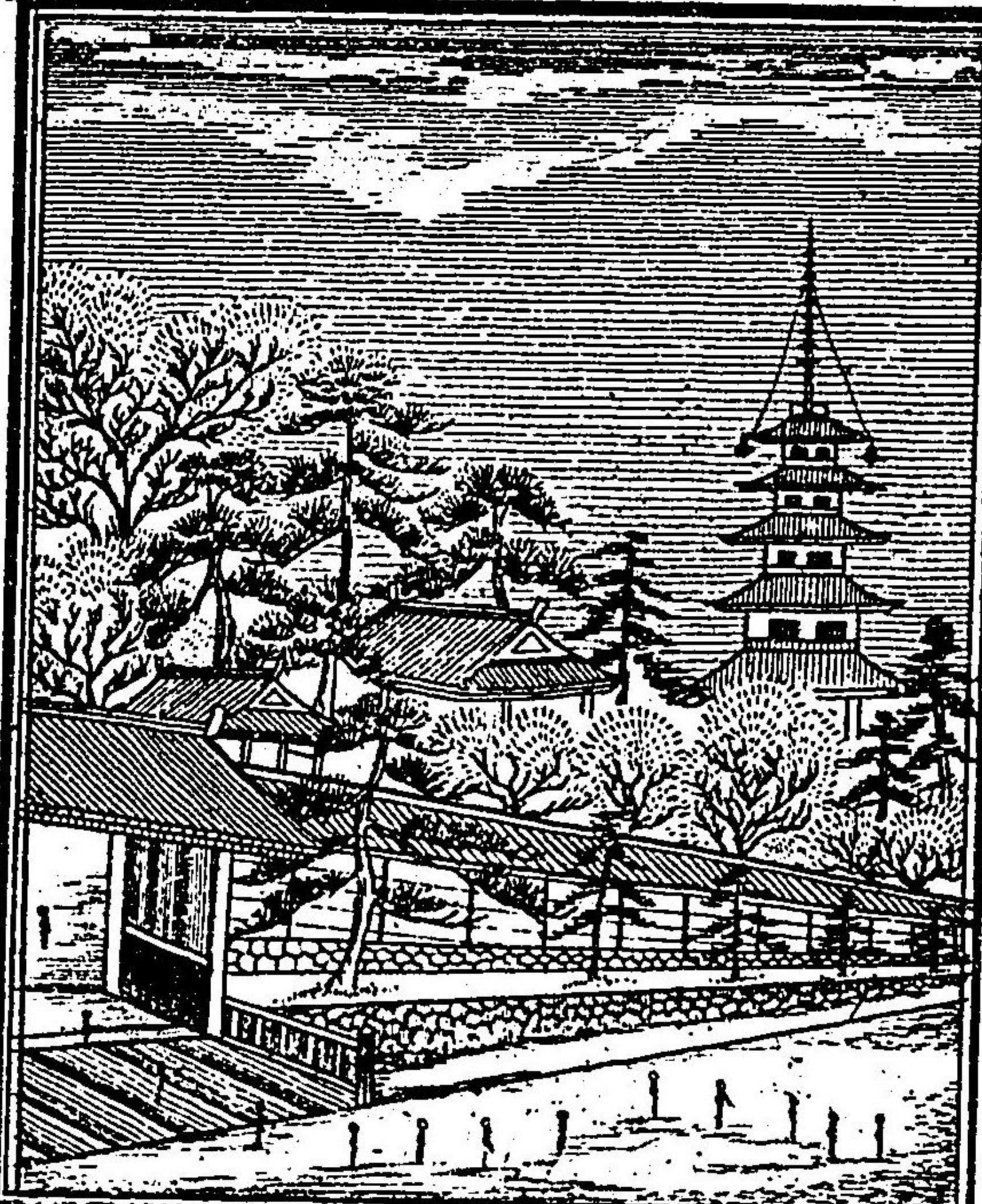
是ま一  
派の學  
寮あり  
其形ハ  
総トて  
西洋造  
ハ模シ  
て美麗  
杜觀ホ  
り南に  
出ると  
七条通  
あり





東 寺

八幡山教王護国寺秘密傳法院也真言宗開祖弘法大師旧此地大内裏の鴻臚館にて末朝の賓客を備る所あり弘仁四年左寺を空海に給ひ右寺を守敏に賜ふ空海延暦廿二年五月に入唐同三年十月に飯朝にて傳来の密法弘王ふ也



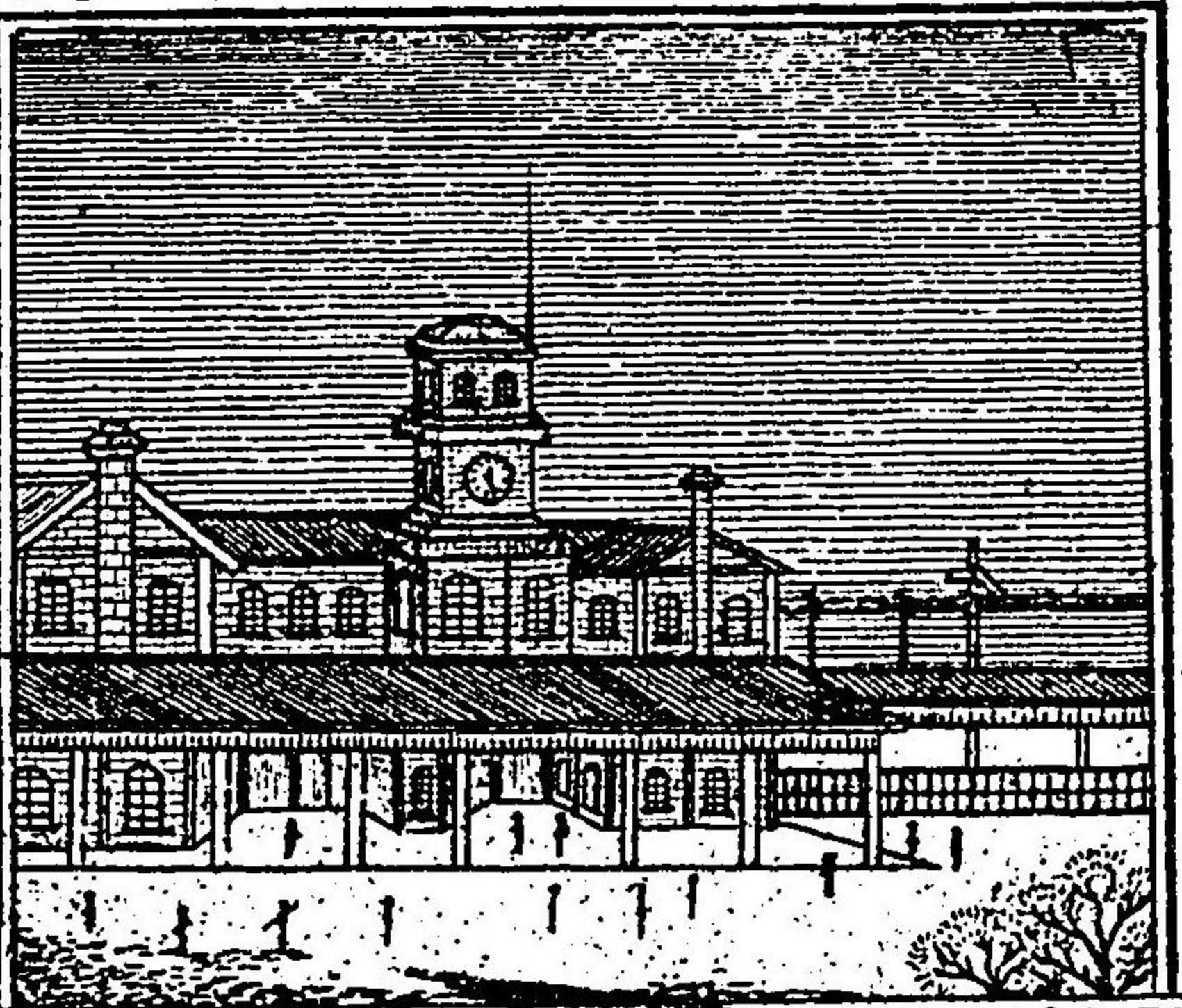
六孫王社

京都市八條通千本東ニあり天徳五年六孫王権現と稱寺号ハ大通寺と云ふ

停車場

京都市烏丸通七条南ニありステーションと稱し西洋造にして頗る美麗なり此場より大坂神迄明治十年二月五日開業式行

日開業式行  
 十一月八月  
 十八日より  
 伏見街道稻  
 荷及び山科  
 辻阪山を越  
 へ大谷及び  
 馬場石場大  
 津に宛着也又明治廿二年姫路及び山陽





に發着せ猶又廿二年七月一日より東京迄  
全通をせり昼夜一回往復をまゐるなり

東本願寺畱

京都市鳥丸通七条上ル

真宗慶長八年癸教如上人創建本堂聖人自



作の像安置す明治九年十一月親鸞上人へ  
見真大師の謚を給ふ旨を當本願寺專修寺  
又仏光寺眞正寺錦織寺等へ御沙汰相成阿  
弥陀堂の御本尊と安阿弥作あり

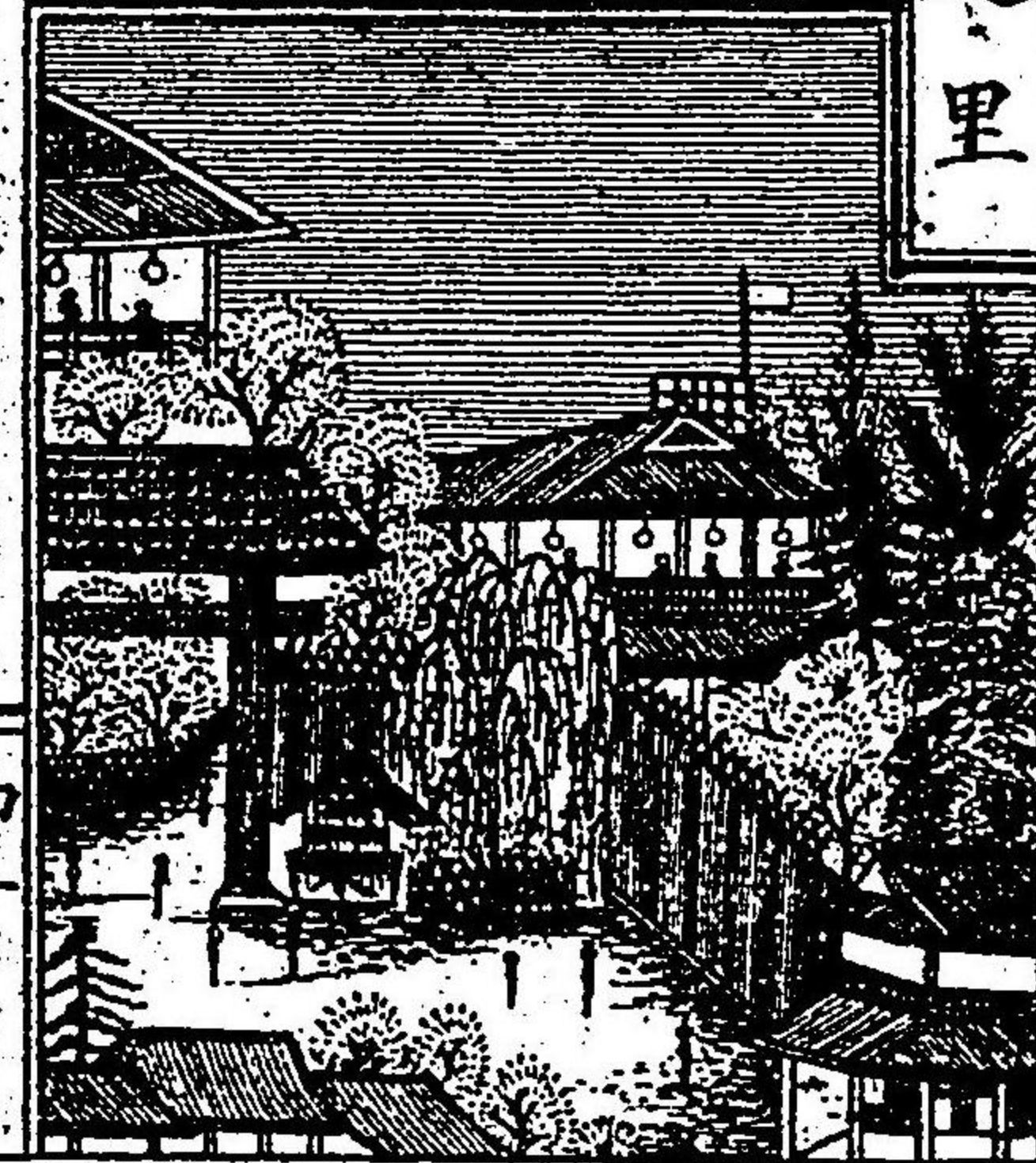
壬生寺

京都市四条千本東南有

當寺真言律本尊の地藏菩薩あり又圓覺上  
人より大念仏と稱し狂言を始め今まを  
き毎年四月十六日より二十八日まで狂言  
あり人群集す

嵯原遊里

古寛永十八  
年今の地は  
移す遊女の  
太夫を始女  
郎藝妓舞子  
の遊里なり

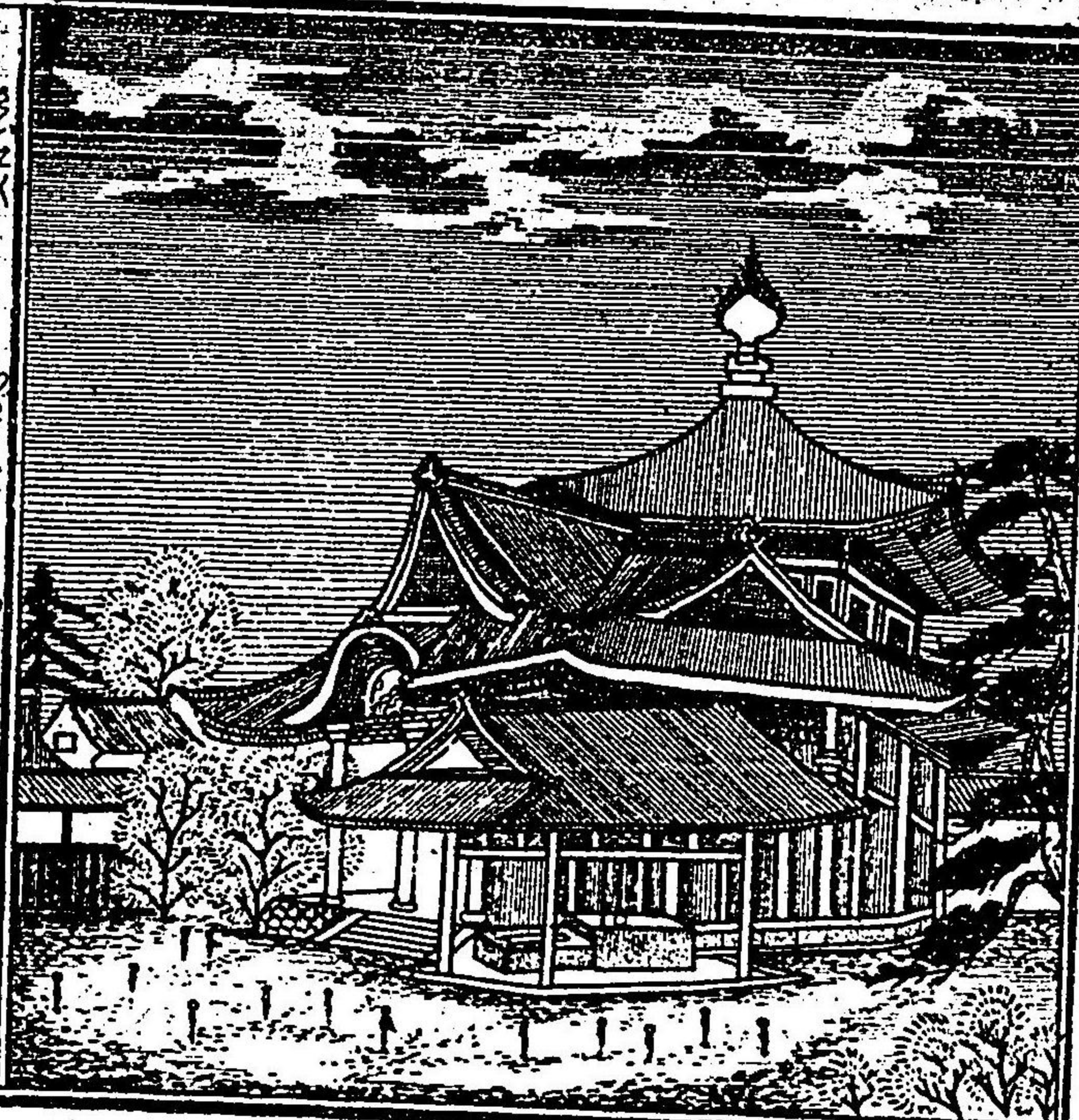




六角堂

京都市六角通東洞院西へ入

天台宗頂法寺と云聖徳太子創建本尊如意輪觀世音ハ淡路國岩屋浦より出現せと云

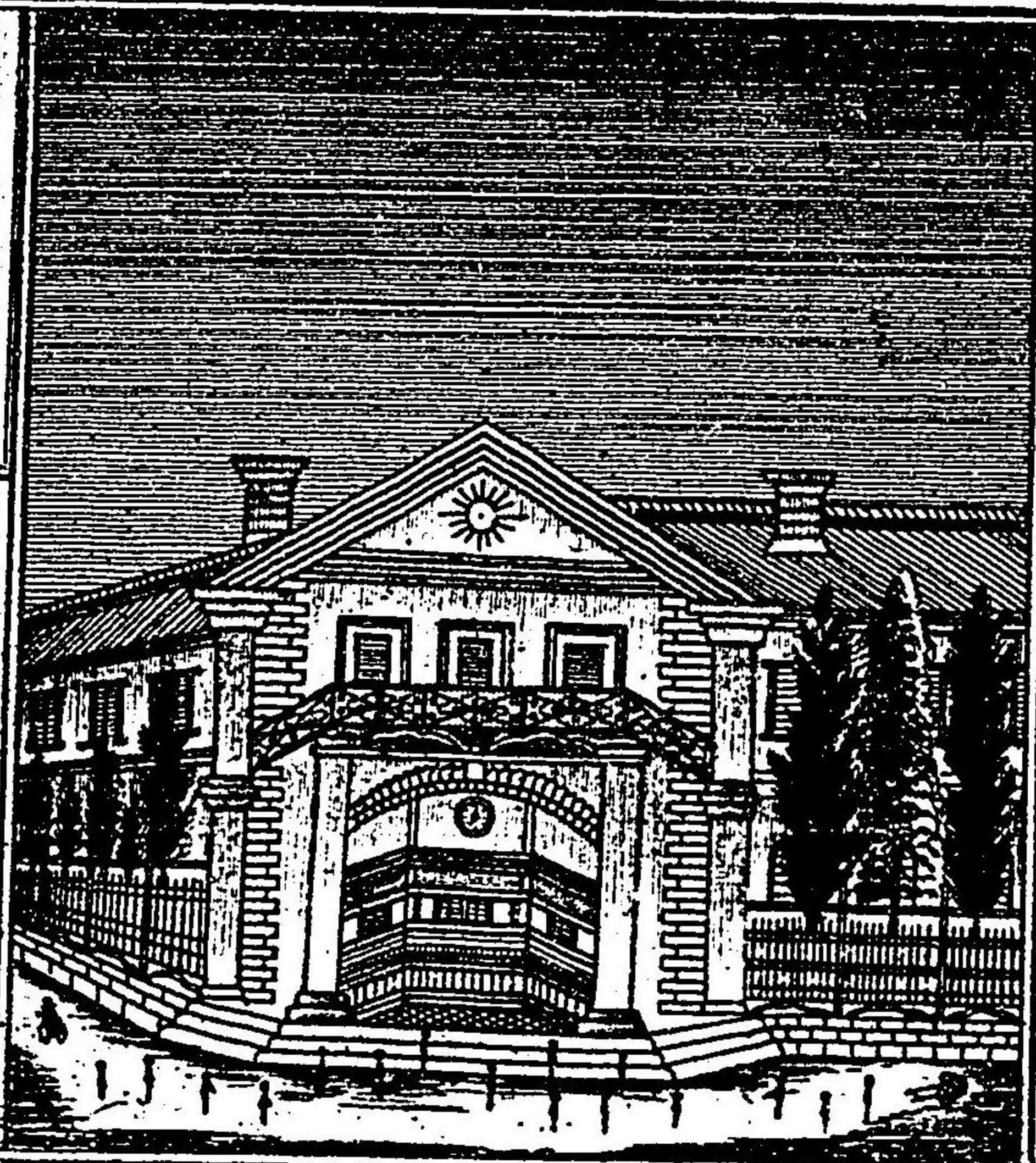


西國十八番札所あり池の坊ハ立花の元祖あり門前ニ旅宿あり

郵便局

京都市三条通東洞院ニ

西洋造りにして美觀なり

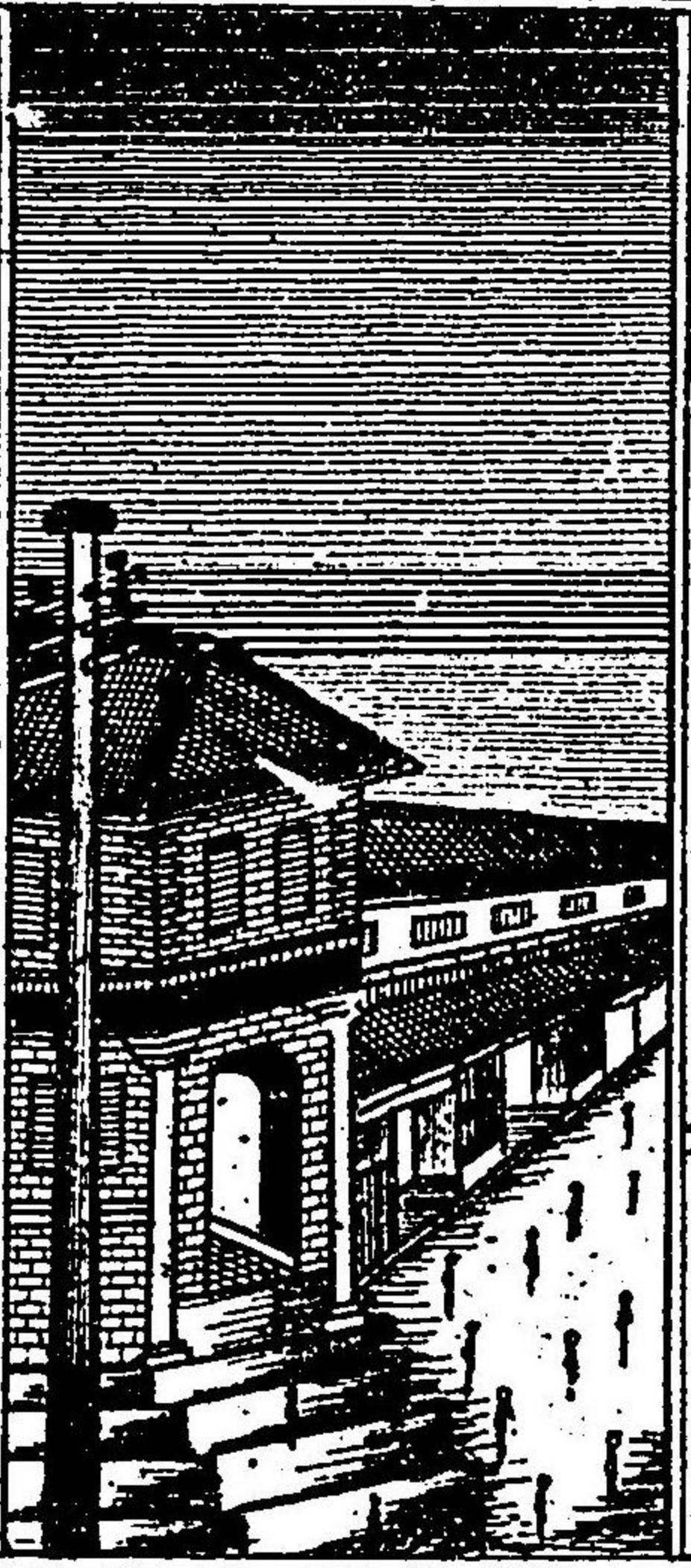


電信分局

京都市右同所合併

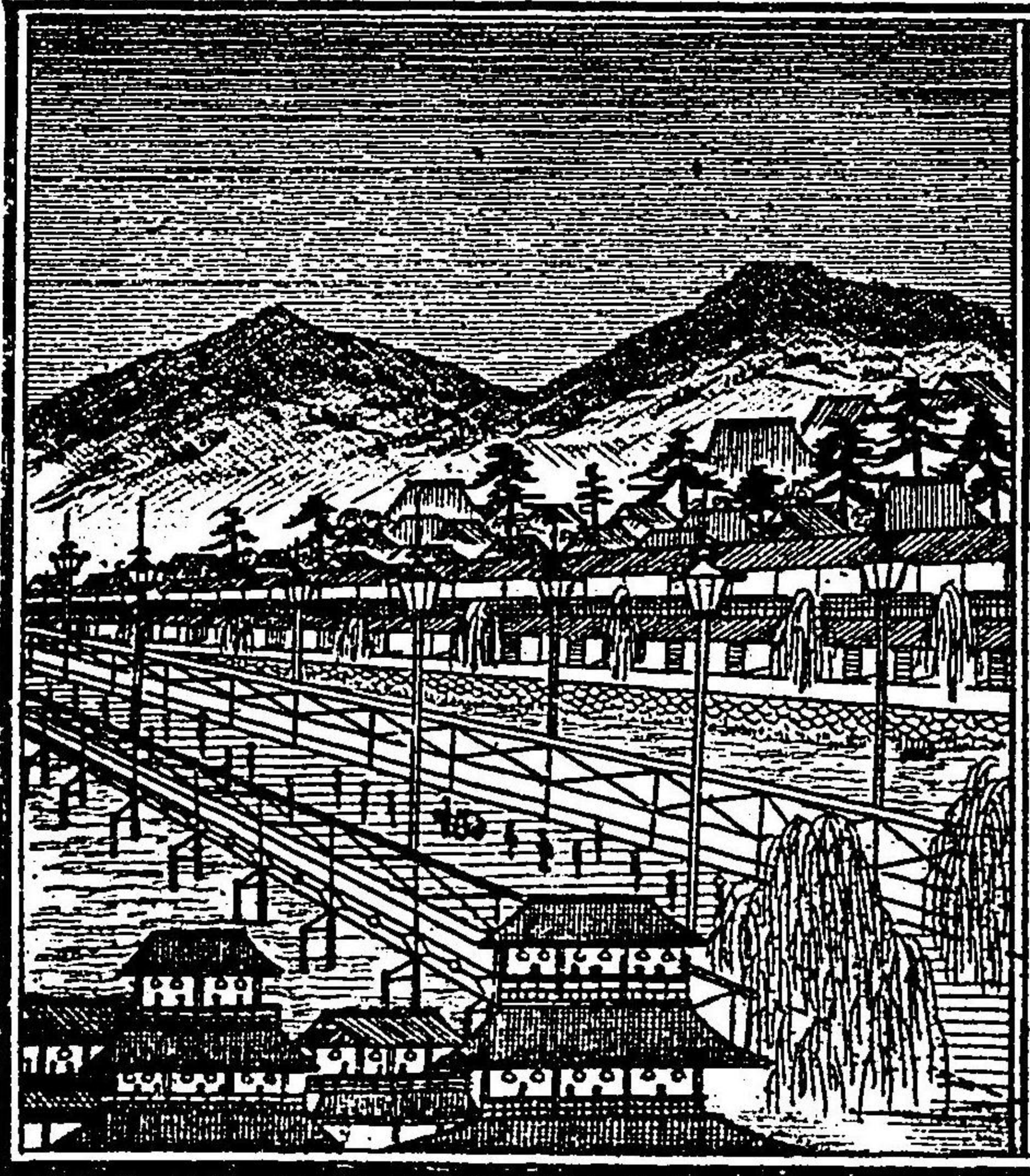
西洋造り殊に美觀なり然るに明治廿三年郵便局へ合併となり名称を郵便電信局と称せられたり





四條鉄橋

京都市鴨川筋四條通に架ける  
橋あり明治七年四月一日落成ス



明治七年四月一日に落成す此橋ハ都て鉄  
造一て橋上ハ八本の紅白硝子燈を立殊  
に壯麗なり橋の東より西側芝居あり河原  
の夕涼とハ七月より始め東西乃青樓より  
川の辺に床を儲け燈火星の如く河原四方  
の景色より

祇園新地

京都市四條通川東より

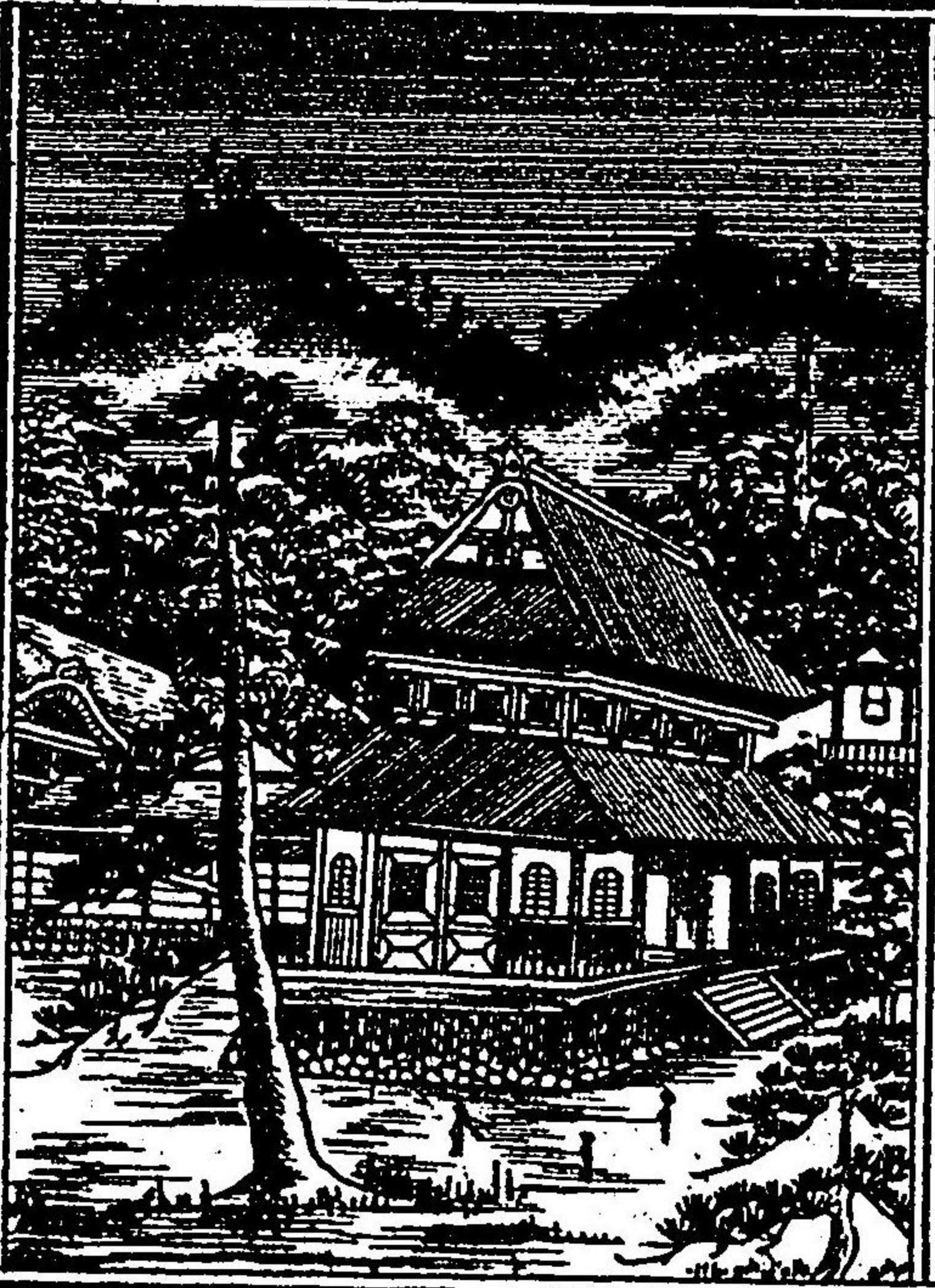
此又一カとて遊所あり此南に歌舞練場の  
り是都踊と称す  
又同所の東に祇  
園座これに演劇  
場あり其建形ハ  
御殿造あり又こ  
の南に驅徽院亦  
に安井金毘羅な  
り





建仁寺

京都市大和大路四條南  
禪宗五山の第三位として栄西禪師開基建  
仁二年壬戌源頼家創建なり年号本以寺号  
建仁寺と云融大臣六条河原に殿舎を建玉  
ふ後、又仙閣とあり河原院と号す當寺より  
鐘也此鐘を陀羅尼經の鐘世よりふ



摩利支天

京都市建仁寺南門内

鎮守摩利支天尊ハ喜曆二年、唐士より將  
来せし靈像也應驗ありたり

蛭子神社

京都市建仁寺松原北有

祭神ハ蛭子命、采西国師勸請仕玉ふたり毎  
年一月十日初蛭子十月廿日蛭子講と云

六波羅密寺

京都市大和大路東有

本草十一面觀世音立像御丈一丈空也上人  
作天曆五年疫疠時行死了人数多有空也





上人是を憐王ひ今の御本尊を作り自身奉  
供する典茶を疫病病人に備玉へも一同に疫  
病の人平愈す亦尊の南方に樂師如未なり  
傳教大師の作なり

因幡藥師 京都市松原通東洞院西



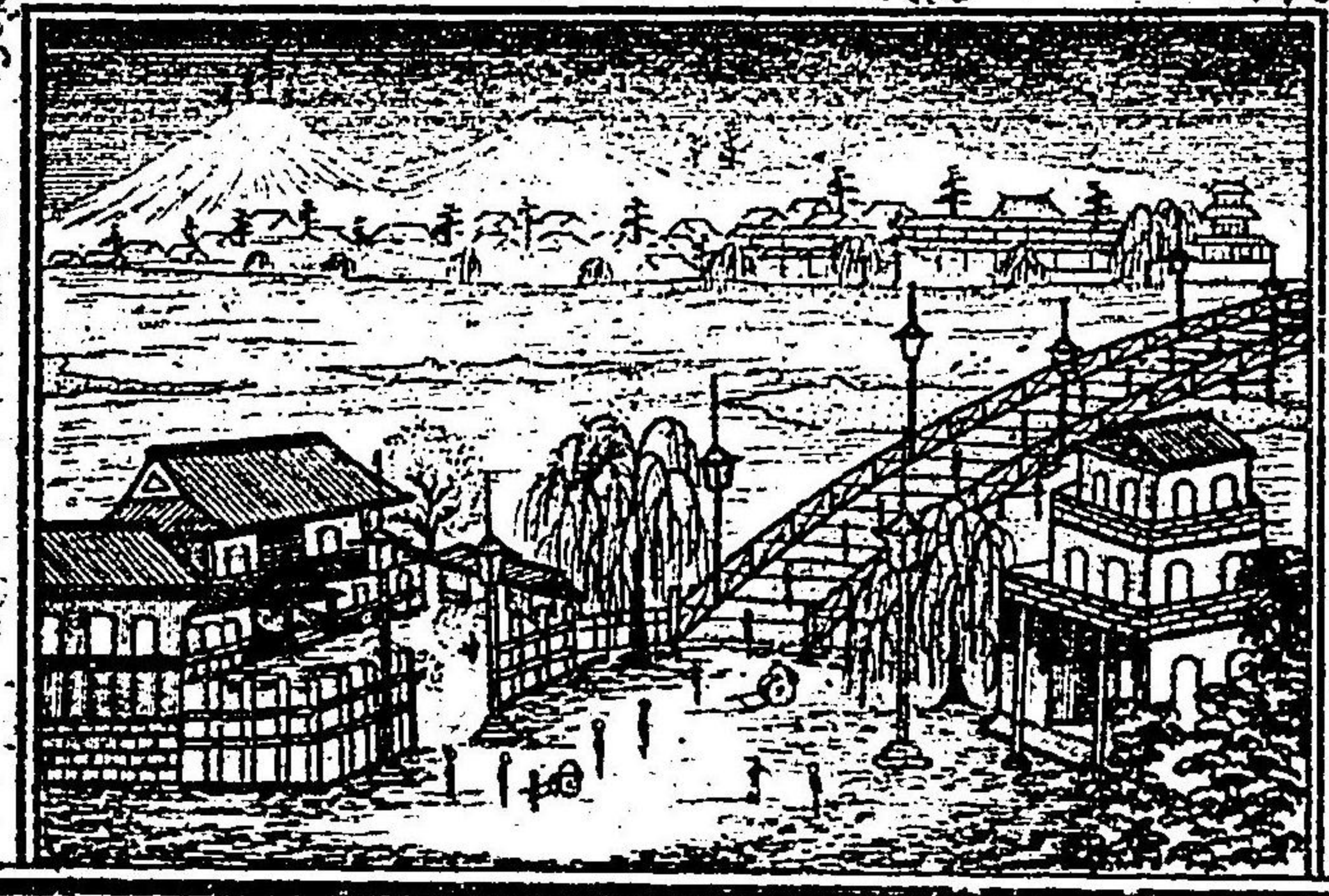
佛光寺 京都市仏光寺通



汁谷山と号真宗親  
鸞聖人弘法所  
て本尊ハ親鸞上人  
自作の御影を安置  
しめふなり

五條大橋 京都市五條通寺町東

此橋の初ハ今の松原通に在るを則ち昔の五  
条通なり豊臣秀吉公の御時今の地に移す  
故に五條橋通と云慶長年中ハ石を以て造  
其後改めて木橋  
と成長き七十  
四間巾四間一  
尺欄干擬宝珠  
ハ左右十六本  
有し其形はい  
し明治十一年  
掛替西洋造に  
して大橋の西  
に小橋あり是  
ハ京伏運送の  
通船に則高瀬川なり



四十四



御影堂

京都市五条通寺町西より

新善光寺と云天長年中檀林皇后の建立  
て関基ハ私法大  
師也中興王和上  
人真言宗を改時  
宗となり本尊阿  
弥陀如来安阿の  
作あり寺内崩屋  
有是名産なり



神宮教會

京都市寺町通綾小路行當

此場ハ伊勢太神宮廟の出張所として社  
太神宮を祭り事務を  
取扱ふあり洛内外神  
道を敬する者此に證  
す時々説教有神札  
此所にて附興する也



大雲院

京都市寺町通南より有

當院は各宗公談檢場を置る此外神仏各  
派各宗  
中小教  
院所々  
あり



八坂神社御旅所

京都市四條通寺町東

此地ハ御  
旅所と云  
八坂御神  
事御旅中  
御神輿此  
御旅所  
七日の間  
此処は祭  
る諸人群詣す





新京極通

此所ハ  
下京尾  
元六組  
寺町通  
の東の  
筋を云  
ふ北三  
条より  
南ハ四  
条迄教  
ヶ寺乃  
境内を  
開き一  
筋の街  
となす



京都市三條通寺町下ル処  
あり

て新京  
極と名  
号抑此  
地ハ演  
劇淨瑠  
璃滑稽  
其他百  
般の声  
曲觀場  
をもち  
め時々  
の興行  
物珍禽  
奇戦又  
ハ魚肉  
の酒店





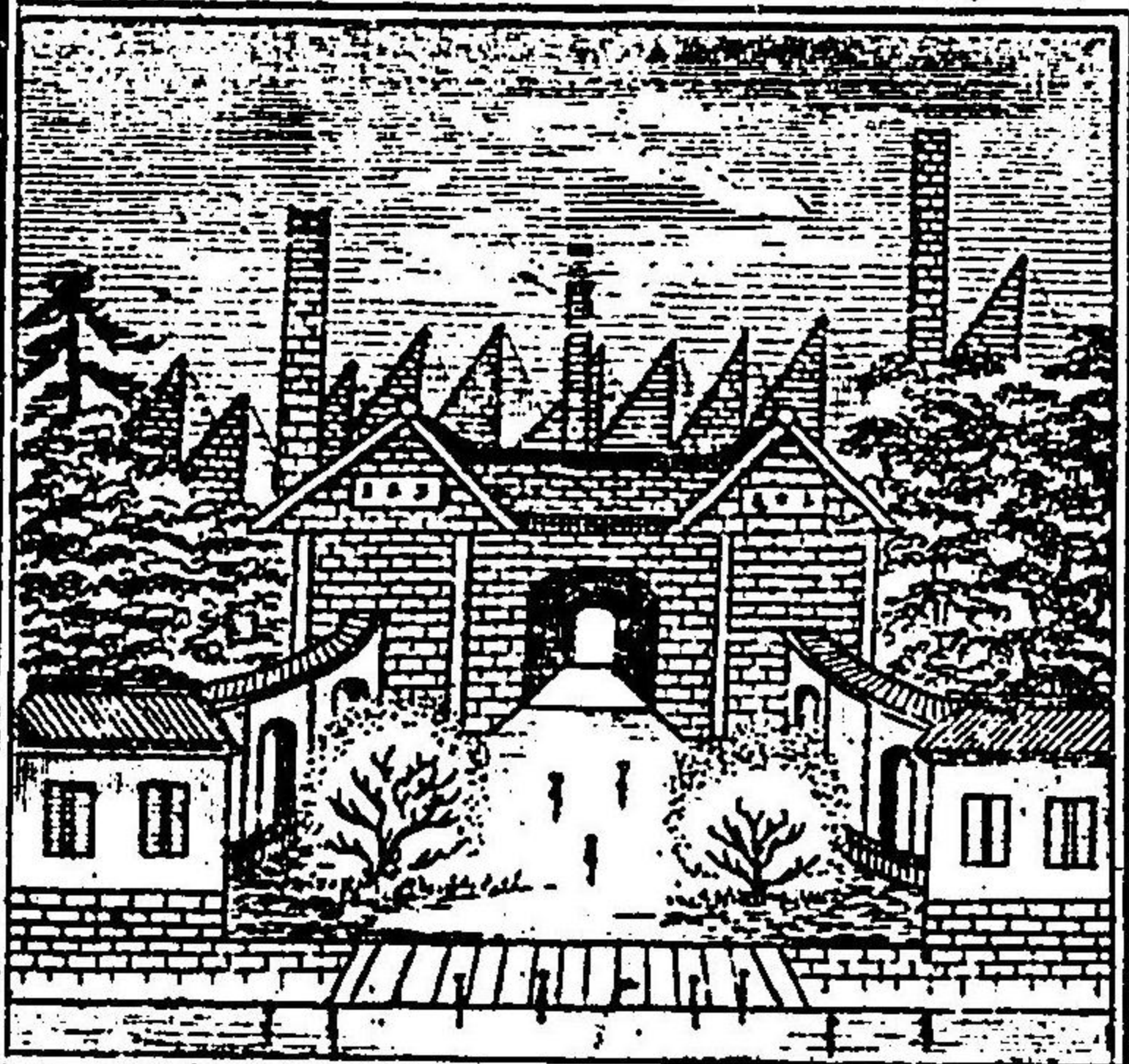
諸買入我劣らトと新規を覚ふて地を争ふ  
 懺悔灯ハ天を覆ひ明る月日の且より暮  
 行年の名残迄数万の看客踵を継ぐ実  
 繁昌地と云誓願寺誠心院銷宗師清常寺長  
 金寺西光寺圓福寺錦天神

京都織物會社

京都市川端九太町上ル処有

此會社ハ明治廿三年三月ニ建築落成し日  
 本全国ニて製造せし品ハ何より製造

天皇の御  
 服及ひ官省  
 女官眞の服  
 地すどかけ  
 等ハ無類の  
 製造ナレり  
 開業以來よ  
 り外国より



を数多注文ありて盛大なりと云ふ

官幣社鎮座地名

下鴨御祖神社  
 上加茂別雷神社  
 男山八幡宮  
 松尾神社  
 平野神社  
 稻荷神社  
 吉田神社  
 大原野神社  
 八坂神社  
 北野神社  
 貴船神社  
 白峯神社  
 豊國神社

- 愛宕郡下加茂村あり
- 全 上加茂村あり
- 綴喜郡八幡荘あり
- 葛野郡上山田村あり
- 全 小北山村あり
- 紀伊郡伏水街道黒門南あり
- 愛宕郡吉田村あり
- 乙訓郡大原野村あり
- 京都市四條通東あり
- 全 御前通今出川の行當あり
- 愛宕郡貴船村あり
- 京都市今出川通小川西入所あり
- 全 大佛正面あり



建勳神社  
護王神社  
梨木神社

愛宕郡舟岡山あり  
京都市烏丸通下長者町あり  
今寺町通荒神口あり

禮祭

加茂鷲鳥 五月五日 稻荷祭 五月七日  
松尾祭 五月七日 御霊祭 五月十八日  
今宮祭 五月十五日 粟田祭 十月十五日  
八坂祭 七月廿四日 北野祭 十月四日  
印吉祭 五月十四日

明治廿四年四月二十日 印刷  
全年全日出版

定價金十錢

編輯者 片岡賢三  
京都市上京區元誓願寺通  
智恵光院西元仲之町卅六番戸

印刷兼 風月庄左衛門  
發行者 京都市上京區二條通衣棚角  
大恩寺町二拾壹番戸

發賣所 中村朝吉  
京都市三條通御幸町西入

版權所司



